



TOKUSHIMA UNIV. CAMPUS LIFE 31th

キャンパスライフ

第31回 学生生活実態調査報告書



徳島大学
Tokushima University

ま え が き

キャンパスライフ「第31回学生生活実態調査報告書」は、本学学部生の生活の実状を把握し、今後の修学指導並びに福利厚生施設等の改善に資する基礎資料を得る目的で、2年ごとに行われています。今回は令和5年11月に全学部の学生全員（5,814人）にアンケート調査を実施しました（回収率40.0%）。本報告書には、①基本事項、②住居・通学、③収入・支出、④健康状態、⑤食事、⑥学生生活上の問題点、⑦修学状況、⑧課外活動、⑨進路・就職などについて、全部で72問の質問により調査されたアンケート結果に加えて、その結果から得られた各学部の現状と課題、これらをまとめた総括と提言が報告されています。

本学は、「自主と自律の精神に基づき、真理の探求と知の創造に努め、卓越した学術及び文化を継承し向上させ、世界に開かれた大学として、豊かで健全な未来社会の実現に貢献する」を教育理念とし、教育上の目標を「学生が志をもって学び、感じ、考え、生涯にわたって学び続ける知と実践にわたる体系的な教育を行う」「自律して人類の諸問題の解決に立ち向かう、進取の気風を身につけた人材の育成を行う」としており、この目標に向かって学生の皆さんが学問と人間性の両面で経験を積む事ができるよう、様々な支援や機会を提供できるように努めています。しかし、その一方で日々変化する社会や技術の進歩に合わせて教育やキャリアの基盤形成において新たな課題や機会も生じています。学生の皆さんは教育プログラムに満足しているのか、また改善の余地はないのか、キャンパスや学外での生活が学業成績や学修意欲に与える影響はなにか。さらに学生の皆さんの自己表現や社会貢献のためにどのような支援を求めているのか。これらのことに答えることで、より充実した学生生活と、より効果的な学修支援の実現を目指しています。学生の皆さんの声と生活実態をまとめた本報告書が大学のコミュニティー全体の発展につながることを期待しています。

最後になりましたが、徳島大学高等教育研究センター学生支援部門学生生活支援室会議の委員の先生方、ご協力いただいたキャンパスライフ健康支援センターおよびキャリア支援部門の先生方、学務部職員の方々には、この調査に関してアンケート項目の設定から調査の実施、集計、結果の分析まで精力的に遂行していただき、早期に報告書を作成していただきました。佐藤健二支援室長をはじめとする皆さんに深く感謝申し上げます。また、調査にご協力いただいた学生の皆さんにもこの場を借りて感謝いたします。

令和6年3月

徳島大学理事・副学長（教育担当）
河野文昭

目 次

まえがき	1
序 章 学生生活実態調査の概要	4
1 調査の目的	4
2 調査の組織	4
3 調査の対象及び方法	4
4 調査の時期	4
5 調査の内容	4
6 略語等の表示等	5
7 調査票の回収状況	5
調査票「令和5年度 学生生活実態調査（学部学生対象）」	7
第1章 住居・通学について	22
1-1 住居区分	22
1-2 1か月の家賃	22
1-3 通学方法	23
1-4 通学時間	23
1-5 通学中の交通事故	24
第2章 収入・支出について	26
2-1 家庭の年収	26
2-2 授業料の免除について	26
2-3 保護者からの援助額【自宅外通学者】	27
2-4 1か月の平均支出額【自宅外通学者】	27
2-5 経済状況	28
2-6 奨学金	28
2-7 1週間のアルバイト従事日数	29
2-8 1週間のアルバイト従事時間数	29
2-9 アルバイトと勉学	30
2-10 アルバイトの目的	30
2-11 アルバイトの種類	31
2-12 アルバイト収入	31
2-13 アルバイトのトラブル内容	32
第3章 健康状態について	33
3-1 睡眠時間	33
3-2 気になる症状	34
3-3 喫煙について	35
3-4 飲酒について	36
第4章 食事について	39
4-1 朝食	39
4-2 昼食	40

4-3	夕食	40
4-4	昼食の利用場所	41
第5章	学生生活上の問題点	42
5-1	大学生活の意義	42
5-2	悩みと相談	43
5-3	迷惑行為	45
5-4	大学事務室の対応への満足度	51
5-5	盗難等犯罪被害	52
第6章	修学状況について	54
6-1	本学を選んだ理由と所属学部の満足度	54
6-2	授業の満足度	55
6-3	学修支援制度の利用状況	56
6-4	図書館の利用状況	57
第7章	課外活動について	59
7-1	サークル加入状況	59
7-2	加入の動機	60
7-3	サークルに加入していない理由	61
7-4	学生行事	63
7-5	ボランティア活動	64
	まとめと今後の課題	65
第8章	進路・就職について	66
8-1	進路情報入手手段	66
8-2	就職・進学相談相手	66
8-3	就職・進学希望について	67
8-4	就職先選択で重視するもの	67
8-5	就職情報の入手方法	68
8-6	希望する職種	69
8-7	キャリア形成のための学外活動	69
8-8	キャリア支援室の利用状況	70
第9章	学部の現状と課題	72
9-1	総合科学部	72
9-2	医学部	74
9-3	歯学部	76
9-4	薬学部	79
9-5	理工学部	81
9-6	生物資源産業学部	83
第10章	総括と提言	87
	あとがき	90

序章 学生生活実態調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、本学学生の生活の実状を把握し、今後の福利厚生等の改善並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的として実施した。

2. 調査の組織

この調査は、徳島大学高等教育研究センターキャリア支援部門学生支援班学生生活支援室の委員及び協力者が中心となり調査を実施し、分析作業を行った。

区分	氏名	所属	職名
室長	佐藤健二	大学院社会産業理工学研究部	教授
委員	米村重信	大学院医歯薬学研究部	教授
委員	濱田賢一	大学院医歯薬学研究部	教授
委員	難波康祐	大学院医歯薬学研究部	教授
委員	久保智裕	大学院社会産業理工学研究部	教授
委員	金丸芳	大学院社会産業理工学研究部	教授
委員	TRAN HOANG NAM	高等教育研究センター学修支援部門国際教育推進班	講師
委員	井ノ崎敦子	キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門	講師
協力者	宇都義浩	高等教育研究センターキャリア支援部門	部門長 教授
協力者	井崎ゆみ子	キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門	センター長 教授

3. 調査の対象及び方法

この調査は、本学に在学する学部学生全員 5,814 人（令和 5 年 11 月 1 日に在籍する者のうち休学者を除いた者）を調査対象とした。

調査方法は、教務システムのアンケート機能を利用し、WEB により実施した。

4. 調査の時期

この調査は、令和 5 年 11 月 1 日から 11 月 15 日まで実施し、11 月 1 日現在の実状について回答を依頼した。

5. 調査の内容

調査項目は、学部学生の生活全般を把握できるように精選した。

6. 略語等の表示等

本報告書、一部の表記を以下に示すような略語表記として記載した。

また、端末処理の関係で合計が100%にならない場合や、複数回答の場合で実回答者数を母数として、それに対する各設問の回答数を百分率で表したグラフには合計が100%を超えるものがある。

令和元年度学生生活実態調査（学部学生）

前々回調査

令和3年度学生生活実態調査（学部学生）

前回調査

7. 調査票の回収状況

調査票の回収状況は、調査対象者5,814人のうち回答数は2,328人で、回収率は40.0%であった。学部・学科別、学年別、男女別の回収状況は次表のとおりである。

令和5年度学生生活実態調査集計表

<学部・学科別>

学 部	学 科	対象者数	回 収 数	回収率 (%)
総 合 学 部	社 会 創 生 学 科	0	0	—
	社 会 総 合 学 科	688	273	39.7
	計	688	273	39.7
医 学 部	医 学 科	711	274	38.5
	医 科 栄 養 学 科	205	164	80.0
	保 健 学 科	513	230	44.8
	計	1,429	668	46.7
歯 学 部	歯 学 科	241	137	56.8
	口 腔 保 健 学 科	59	44	74.6
	計	300	181	60.3
薬 学 部	薬 学 科	373	214	57.4
	創 製 薬 科 学 科	42	22	52.4
	計	415	236	56.9
理 工 学 部	理 工 学 科	2,562	818	31.9
生物資源産業学部	生 物 資 源 産 業 学 科	420	152	36.2
合計		5,814	2,328	40.0

<学年別>

学 年	対象者数	回収数	回収率 (%)
1 年	1,431	645	45.1
2 年	1,401	570	40.7
3 年	1,308	489	37.4
4 年	1,273	461	36.2
5 年	194	75	38.7
6 年	207	88	42.5
計	5,814	2,328	40.0

<男女別>

学 部	回収率 (%)		
	男	女	計
総 合 科 学 部	37.2	41.1	39.7
医 学 部	40.7	50.6	46.7
歯 学 部	50.0	69.1	60.3
薬 学 部	53.8	59.3	56.9
理 工 学 部	29.9	47.1	31.9
生物資源産業学部	37.0	35.5	36.2
計	34.5	49.0	40.0

令和5年度 学生生活実態調査（学部学生対象）

令和5年11月
徳島大学

お願い

この調査は、みなさんの学生生活を把握し、今後の福利厚生等の改善並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的として実施するものです。

本調査は、令和5年11月1日現在、本学に在学する学部学生全員を対象に匿名で行います。本学学生の福利厚生・修学指導等の改善に用いる以外の目的で使用することはありませんので、ありのままを正確にお答えください。また、調査結果は3月ごろ徳島大学公式ホームページで公表します。調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

[調査実施期間 11月1日（水）～11月15日（水）]

<回答上の注意事項>

- 1 令和5年11月1日現在で回答してください。
- 2 回答内容の該当するものを一つだけ選んでください。ただし、複数回答可を指定している場合は、複数選んでも差し支えありません。
- 3 質問中、回答者を指定している箇所は、指定された人のみ回答してください。

学生生活実態調査票

A. 基本的事項について

Q1 【全員】あなたはどちらですか

1. 日本人学生・男
2. 日本人学生・女
3. 留学生・男
4. 留学生・女

Q2 【全員】所属学部はどこですか

1. 総合科学部
2. 医学部
3. 歯学部
4. 薬学部
5. 理工学部（昼間コース）
6. 理工学部（夜間主コース）
7. 生物資源産業学部

Q3 【総合科学部】学科・コースはどこですか。

1. 社会創生学科
2. 社会総合科学科（1年生）
3. 社会総合科学科国際教養コース
4. 社会総合科学科心身健康コース
5. 社会総合科学科公共政策コース
6. 社会総合科学科地域創生コース

Q4 【医学部】学科・コースはどこですか。

1. 医学科
2. 医科栄養学科
3. 保健学科

Q5 【歯学部】学科・コースはどこですか。

1. 歯学科
2. 口腔保健学科

Q6 【薬学部】学科・コースはどこですか。

1. 薬学科
2. 創製薬科学科

Q7 【理工学部】コース・系・プログラムはどこですか。

1. 社会基盤デザインコース
2. 機械科学コース

3. 応用化学システムコース
4. 電気電子システムコース
5. 情報光システムコース・情報系/知能情報コース
6. 情報光システムコース・光系/光システムコース
7. 応用理数コース・数理科学系/数理科学コース
8. 応用理数コース・自然科学系/自然科学コース
9. 医光/医工融合プログラム

Q8 【生物資源産業学部】 学科・コースはどこですか。

1. 生物資源産業学科（1年生）
2. 生物資源産業学科応用生命コース
3. 生物資源産業学科食料科学コース
4. 生物資源産業学科生物生産システムコース

Q9 【全員】 何年生ですか。

1. 1年生
2. 2年生
3. 3年生
4. 4年生
5. 5年生
6. 6年生

B. 住居・通学について

Q10 【全員】 あなたの住居区分はどれですか。

1. 自宅（家族と同居）
2. アパート・マンション（家族と別居）
3. 学生寮
4. 間借り（下宿）
5. 親戚・知人宅
6. 国際交流会館・日亜会館
7. その他

Q11 【学生寮及び国際交流会館・日亜会館居住者を除く自宅外通学者】 一ヶ月の家賃（電気代、ガス代等諸費用を除く）はいくらですか。

1. 3万円未満
2. 3～4万円未満
3. 4～5万円未満
4. 5～6万円未満
5. 6～7万円未満
6. 7～8万円未満
7. 8万円以上

Q12 【全員】 あなたの主な通学方法は何ですか。

1. 徒歩
2. 自転車
3. バイク（原付自転車・自動二輪）
4. 自動車
5. バス・JR

Q13 【全員】 通学時間はどのくらいですか。

1. 15分未満
2. 15分～30分未満
3. 30分～1時間未満
4. 1時間～2時間未満
5. 2時間以上

Q14 【全員】 通学中に交通事故をおこした事、または交通事故の被害にあったことがありますか。

1. ある
2. ない

C. 収入・支出について

Q15 【全員】 あなたの生計を支援している家庭の年収（税込み）はどれくらいですか。（自活者は自己の年収）

1. 250万円未満
2. 250～500万円未満
3. 500～750万円未満
4. 750～1,000万円未満
5. 1,000～1,500万円未満
6. 1,500万円以上
7. わからない

Q16 【全員】 授業料免除についてお尋ねします。（直近のものでお答えください）

1. 高等教育の修学支援新制度（又は大学独自の授業料免除制度）は知っているが申請していない
2. 全額免除を受けている
3. 一部減免を受けている
4. 申請したが不採用（不許可）だった
5. 高等教育の修学支援新制度（又は大学独自の授業料免除制度）を知らなかった

Q17 【自宅外通学者】 保護者等からの援助はいくらありますか。

1. 全くない
2. 3万円未満
3. 3～5万円未満
4. 5～7万円未満
5. 7～10万円未満
6. 10～15万円未満

7. 15～20万円未満
8. 20万円以上

Q18 【自宅外通学者】あなたの1か月の平均支出額（授業料支出は除く）はいくらですか。

1. 3万円未満
2. 3～5万円未満
3. 5～7万円未満
4. 7～10万円未満
5. 10～15万円未満
6. 15～20万円未満
7. 20～25万円未満
8. 25～30万円未満
9. 30万円以上

Q19 【全員】現在の経済状況について

1. ゆとりがある（家計支持者からの仕送りのみ）
2. 普通（あまり不自由を感じない）
3. やや苦しい（奨学金あるいは軽度のアルバイトで充足できる）
4. 大変苦しい（定期的なアルバイトが必要である）

Q20 【全員】奨学金を受けていますか。

1. 現在受給中であり、受給の継続を希望する
2. 現在受給中であるが、更に増額を希望する
3. 現在受給中であるが、次は希望しない
4. 現在受給していないが、新たに受給を希望する
5. 現在受給していないし、希望もしない

Q21 【全員】現在、アルバイトをしていますか。1週間の平均従事日数は何日ですか。

1. いいえ
2. 1日
3. 2日
4. 3日
5. 4日
6. 5日以上

Q22 【Q21で「2」～「6」を選んだ方】1週間の従事時間は合計何時間ですか。（移動に要する時間も含む）

1. 5時間未満
2. 5～10時間未満
3. 10～15時間未満
4. 15～20時間未満
5. 20～25時間未満
6. 25時間以上

Q23 【Q21で「2」～「6」を選んだ方】アルバイトによって勉学に支障が生じていますか。

1. 支障が生じている
2. 支障は生じていない

Q24 【Q21で「2」～「6」を選んだ方】アルバイトは主にどのような目的でしていますか。〈複数回答可〉

1. 生活費や学費のため
2. レジャー・旅行費のため
3. 日常の娯楽・嗜好品等のため
4. 高額商品（自動車・パソコン等）購入のため
5. 課外活動費のため
6. 社会体験のため
7. その他

Q25 【Q21で「2」～「6」を選んだ方】どのようなアルバイトをしていますか。〈複数回答可〉

1. 家庭教師・学習塾講師等
2. 会場設営・撤収, 搬入搬出
3. 受付・接客
4. イベントスタッフ補助
5. 商品販売
6. 商品等整理・包装
7. 飲食店等手伝い
8. 駐車場整理員
9. 引越しスタッフ
10. その他

Q26 【Q21で「2」～「6」を選んだ方】あなたのアルバイトによる収入（1か月平均）はいくらですか。

1. 3万円未満
2. 3～5万円未満
3. 5～7万円未満
4. 7～10万円未満
5. 10～15万円未満
6. 15万円以上

Q27 【Q21で「2」～「6」を選んだ方】アルバイトでトラブルを経験したことがありますか。どのようなトラブルですか。〈複数回答可〉

1. ない
2. 給料の不払い
3. 給料が契約より低かった
4. 客とのトラブル
5. 解雇
6. 雇用者との意見の不一致
7. 事故・ケガ
8. その他

D. 健康状態について

Q28 【全員】 1日の睡眠時間は平均何時間ですか。（休日を除く）

1. 4時間未満
2. 4～6時間未満
3. 6～8時間未満
4. 8～10時間未満
5. 10時間以上

Q29 【全員】 現在気になる症状は何ですか。（複数回答可）

1. 特にない
2. 頭痛・めまい
3. アトピー・アレルギー
4. 不眠
5. 動悸・不整脈
6. 下痢・便秘
7. 咳・痰
8. 生理痛・生理不順
9. その他

Q30 【Q29で「9」を選んだ方】内容を記載して下さい。（2000文字以内）

--

Q31 【全員】喫煙について

1. 喫煙したことはない
2. ときどき喫煙している
3. 毎日喫煙している
4. 過去に喫煙していたが、現在はしていない
5. その他

Q32 【全員】飲酒について

1. 飲酒はしない
2. たまに飲酒する
3. 1週間に1～2日飲酒している
4. 1週間に3～4日飲酒している
5. 1週間に5日以上飲酒している

Q33 【Q32で「4」～「5」を選んだ方】1回に飲む量はどのくらいですか。（日本酒ならコップ1杯(180ml), ビールなら中瓶1本(500ml)を1合としてお答えください）

1. 1合未満
2. 1合以上2合未満

3. 2合以上3合未満
4. 3合以上4合未満
5. 4合以上5合未満
6. 5合以上

E. 食事について

Q34 【全員】朝食を取りますか。

1. 毎日食べる
2. 時々食べる
3. ほとんど食べない

Q35 【全員】昼食を取りますか。

1. 毎日食べる
2. 時々食べる
3. ほとんど食べない

Q36 【全員】夕食を取りますか。

1. 毎日食べる
2. 時々食べる
3. ほとんど食べない

Q37 【全員】昼食は主にどうしていますか。

1. 学内の食堂を利用
2. 学外の食堂（飲食店）を利用
3. コンビニや売店で購入（パンや弁当，ファーストフードなど）
4. 自宅（下宿）にて自炊
5. 自宅（下宿）から弁当を持参
6. 食べない
7. その他

F. 学生生活上の問題点

Q38 【全員】あなたは、大学生活で何を重視した生活をしていますか。

1. 勉強や研究
2. サークル活動
3. 趣味・娯楽
4. 豊かな人間関係を結ぶこと
5. 将来を考えた資格等の取得
6. アルバイト
7. 明確な目的はない
8. その他

Q39 【全員】 現在悩みや不安はありますか。それは主にどんなことですか。〈複数回答可〉

1. ない
2. 経済状態
3. 勉学
4. 交友・異性関係
5. 身体的不調
6. 家族関係
7. 自分の性格
8. 就職や進路
9. 生き甲斐や目標
10. その他

Q40 【全員】 悩み事は誰に相談しますか。〈複数回答可〉

1. 友人
2. 家族
3. クラス担任・指導教員
4. 担任・指導教員以外の教員
5. キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門(総合相談室)
6. 学務(教務)係
7. その他
8. 誰にもしない

Q41 【全員】 あなたは、これまで迷惑行為を受けたことがありますか。〈複数回答可〉

1. 受けたことはない
2. 悪徳商法に引っかかった
3. いたずら電話を受けた
4. ストーカーにあった
5. 大学内でセクハラを受けた
6. 大学内でアカハラを受けた(アカハラとは、大学などで、指導教員等が学生に対し、教育・研究活動への妨害を含めた学習・研究上の嫌がらせを継続的に行うこと)
7. サークルを辞めようとしたが、辞めさせてもらえなかった
8. サークル内でいじめ(嫌がらせを含む)を受けた
9. カルトの勧誘を受けた
10. その他

Q42 【Q41で「2」～「10」を選んだ方】内容を記載して下さい。(2000文字以内)

--

Q43 【Q41で「5」又は「6」を選んだ方】誰に相談しましたか。

1. 友人
2. 家族
3. クラス担任・指導教員
4. 担任・指導教員以外の教員
5. キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門(総合相談室)
6. 学務(教務)係
7. その他
8. 誰にもしない

Q44 【全員】キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門(総合相談室)を利用したことがありますか。

1. 利用したことがある
2. 総合相談部門(総合相談室)があるのは知っているが、利用したことはない
3. 総合相談部門(総合相談室)があるのを知らない

Q45 【全員】大学事務室の対応に満足していますか。

1. 満足している
2. ほぼ満足している
3. やや不満足である
4. 不満足である

Q46 【全員】あなたは、入学以来、盗難(盗み)、強盗、傷害、性犯罪・性暴力等の事件の被害に遭ったことがありますか。〈複数回答可〉

1. 被害に遭ったことはない
2. 盗難(盗み)
3. 強盗
4. 傷害
5. 性犯罪・性暴力
6. その他

Q47 【Q46で「2」～「6」を選んだ方】あなたは、どこで被害に遭いましたか。〈複数回答可〉

1. 大学構内
2. 自宅, アパート
3. 路上
4. その他

G. 修学状況について

Q48 【全員】あなたが本学を選んだ主な動機は何ですか。〈複数回答可〉

1. 地元の大学だから
2. 親や親戚に進められたから
3. 高校の進学指導による
4. 希望する学部・学科があったから
5. 就職等将来を考慮して
6. 国立大学だから
7. ただ何となく

8. 先輩や友人に勧められて
9. その他

Q49 【全員】あなたは所属している学部・学科に満足していますか。

1. 満足している
2. ほぼ満足している
3. やや不満足である
4. 不満足である

Q50 【全員】あなたは、受講している授業に満足していますか。

1. 満足している
2. ほぼ満足している
3. やや不満足である
4. 不満足である

Q51 【Q50で「3」, 「4」を選んだ方】授業が満足できない理由は何ですか。〈複数回答可〉

1. 授業内容が難し過ぎて理解できない
2. 授業内容がつまらない
3. 教員の教え方に工夫が足りない
4. 受講者が多すぎて精神集中できない
5. 休講が多すぎる
6. 試験・レポートが多すぎる
7. 単位認定が厳しすぎる
8. その他

Q52 【全員】オフィスアワーを利用したことがありますか。

1. 利用したことがある
2. オフィスアワーがあるのは知っているが、利用したことはない
3. オフィスアワーがない
4. オフィスアワーについて知らない

Q53 【Q52で「2」を選んだ方】オフィスアワーを利用しない主な理由は何ですか。

1. 講義内容を充分理解できるのでその必要がない
2. オフィスアワーの時間が短く利用しにくい
3. オフィスアワーの時間以外にいつでも利用できる
4. 教員に相談するのが面倒である
5. 講義の理解は充分ではないが、どのように質問してよいか分からない
6. その他

Q54 【全員】あなたは現在のクラス担任制度に満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

Q55 【Q54で「3」「4」を選んだ方】理由を記載して下さい。（2000文字以内）

--

Q56 【全員】図書館をどのくらいの頻度で入館利用（実際に登校して入館すること）しますか。

1. ほぼ毎日
2. 1週間に2～3回
3. 1週間に1回程度
4. 2週間に1回程度
5. 1か月に1回程度
6. 半年に1回程度
7. 1年に1回程度か、それ以下

Q57 【全員】図書館を利用する主な目的は何ですか（オンライン等の非来館利用も含む）。（複数回答可）

1. 図書等の貸し出し
2. 図書等の閲覧やコピー
3. 自習
4. グループ研究（学習）
5. パソコンの利用
6. 電子ジャーナル・データベース
7. 授業等の間の時間調整
8. その他

Q58 【全員】図書館のサービス（施設設備，図書・雑誌，電子ジャーナル等）に対する満足度はどの程度ですか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

Q59 【Q58で「3」「4」を選んだ方】理由を記載して下さい。（2000文字以内）

--

H. 課外活動について

Q60 【全員】学内外のサークル（以下同好会を含む）に加入していますか。（文化系、体育系及びサポート系サークルで、2つ以上に加入している人は、主として活動している方に回答してください）

1. 学内の文化系サークルに加入している
2. 学内の体育系サークルに加入している
3. 学内のサポート系サークルに加入している
4. 学外の文化系サークルに加入している
5. 学外の体育系サークルに加入している
6. 学外のサポート系サークルに加入している
7. 以前加入していたが現在は加入していない
8. 加入したことがない

Q61 【Q60で「1」～「6」を選んだ方】サークルに加入した主な動機は何ですか。

1. サークルの活動内容に魅力があったから
2. 集団活動に魅力があったから
3. 友人を得るため
4. 先輩・友人に勧められたから
5. 学生生活を豊かにするため
6. 健康増進のため
7. 自分の特技を伸ばすため
8. 自分の短所を補うため
9. その他

Q62 【Q60で「7」, 「8」を選んだ方】サークルに加入していない主な理由は何ですか。

1. 学業の妨げとなる
2. 練習がいやである
3. 活動するための体力・能力に自信がない
4. 個人の自由が束縛される恐れがある
5. 集団生活についていけない
6. アルバイトをしているので時間的余裕がない
7. 通学に時間がかかるので時間的余裕がない
8. 個人の金銭的負担が多すぎる
9. 魅力的なサークルがない
10. 特に理由はないが何となく

Q63 【全員】新入生歓迎会や大学祭などの学生行事について、どのように考えていますか。

1. 必要だと考えており積極的に参加している
2. 必要だと思うがあまり参加していない
3. どちらでもいい
4. なくてもいい

Q64 【全員】あなたは、大学入学後ボランティア活動をしたことがありますか。

1. 個人でしたことがある
2. 団体（組織）に入っていたことがある
3. ない

I. 進路・就職について

Q65 【全員】進路を考える上での情報入手手段は何ですか。〈複数回答可〉

1. 指導教員
2. 就職担当教員
3. キャリア支援室の情報又は就職相談員
4. 先輩・知人
5. 直接会社に照会
6. 就職情報誌・新聞・マスコミ
7. 家族等
8. 大学内資料
9. インターネット
10. 会社等説明会
11. その他

Q66 【全員】進路、就職について信頼できる相談相手は誰ですか。〈複数回答可〉

1. 家族等
2. 教員
3. 職員
4. 知人・先輩
5. その他
6. 相談相手はいない

Q67 【全員】就職希望ですか。進学希望ですか。

1. 就職
2. 進学
3. その他

Q68 【Q67で「1」を選んだ方】就職先選択で重視するものは何ですか。〈複数回答可〉

1. 収入
2. 就職先の将来性・安定性
3. 就職先の社会的評価
4. 能力を発揮できること
5. 勤務地の地理的条件
6. 仕事に対して適正な評価をしてくれるところ
7. 先端技術を駆使しているところ
8. 経営方針
9. 企業規模
10. 転勤・異動の有無
11. 人間関係の良いこと
12. その他

Q69 【Q67で「1」を選んだ方】就職に際して、会社等の情報をどのように入手しましたか。

〈複数回答可〉

1. 指導教員
2. 就職担当教員
3. キャリア支援室の情報又は就職相談員
4. 先輩・知人
5. 直接会社等に照会
6. 就職情報誌・新聞・マスコミ
7. 家族等
8. 大学内資料
9. インターネット
10. 会社等説明会
11. その他

Q70 【Q67で「1」を選んだ方】希望職種は何ですか。〈複数回答可〉

1. 大学・官公庁の教育・研究職
2. 1以外の公務員
3. 技術職
4. 企業等の研究職
5. 総合職・営業職
6. 事務職
7. 教育職
8. 専門職（医師・看護師等）
9. マスコミ関係
10. その他

Q71 【全員】社会人になるために必要なキャリア形成を目的として、学外で関わりをもったものに該当する項目は何ですか？〈複数回答可〉

1. ボランティア
2. インターンシップ
3. 留学
4. 起業
5. キャリア形成を意識したアルバイト
6. その他（キャリア形成を意識した社会人との交流）
7. その他（キャリア形成を意識した他大学学生との交流）
8. なし

Q72 【全員】本学のキャリア支援室を利用したことがありますか。

1. 現在も利用している
2. 以前に利用したことがある
3. 利用したことがない

ご協力ありがとうございました

第1章 住居・通学について

1-1 住居区分 (図1-1)

全体として最も多いのが、アパートとマンション（60%）、次に自宅（28%）である。続いて、間借り（下宿）（9%）、学生寮（2%）となっている。全体として前回調査とほとんど同じである。自宅の割合は、学部別では、総合科学部（48%）と理工学部夜間（34%）が高く、薬学部（12%）が最も低い。医学部、歯学部、理工学部昼間、生物資源産業学部での自宅の割合は、25～32%である。総合科学部では、自宅の割合が48%であることから、徳島県出身者が半数近くを占めると考えられる。

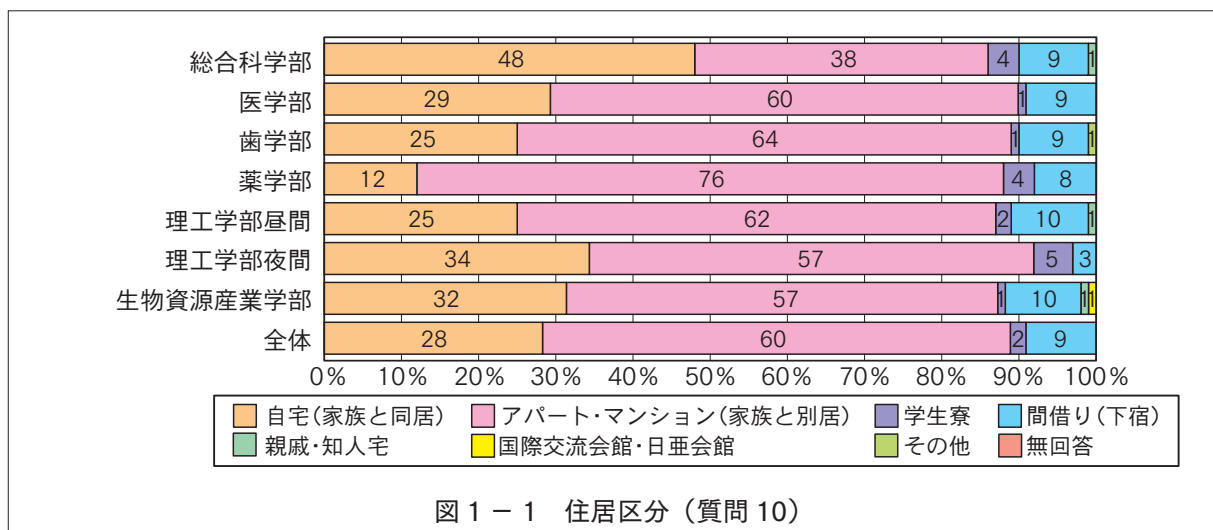


図1-1 住居区分 (質問10)

1-2 1か月の家賃 (図1-2)

全体として5万円未満の割合が74%であり、前回調査から5ポイント減少している。

学部によって家賃支出の割合は異なり、総合科学部、理工学部昼間・夜間では4万円未満の物件の割合が多いが、医学部、歯学部、薬学部、生物資源産業学部では4万円以上の物件が半数を超えている。これは、蔵本周辺の家賃相場や学生の家庭状況と関連するのかもしれない。医学部、歯部の家賃支出は他の学部と比べて高い傾向にあるが、主に5万円～7万円未満の価格帯の割合が他学部と比べて高

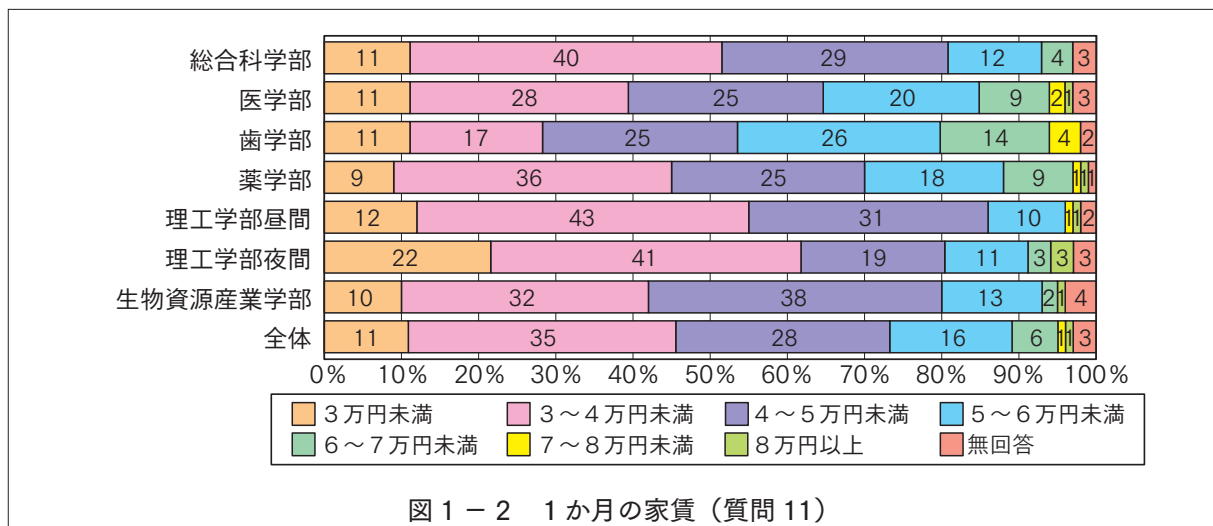
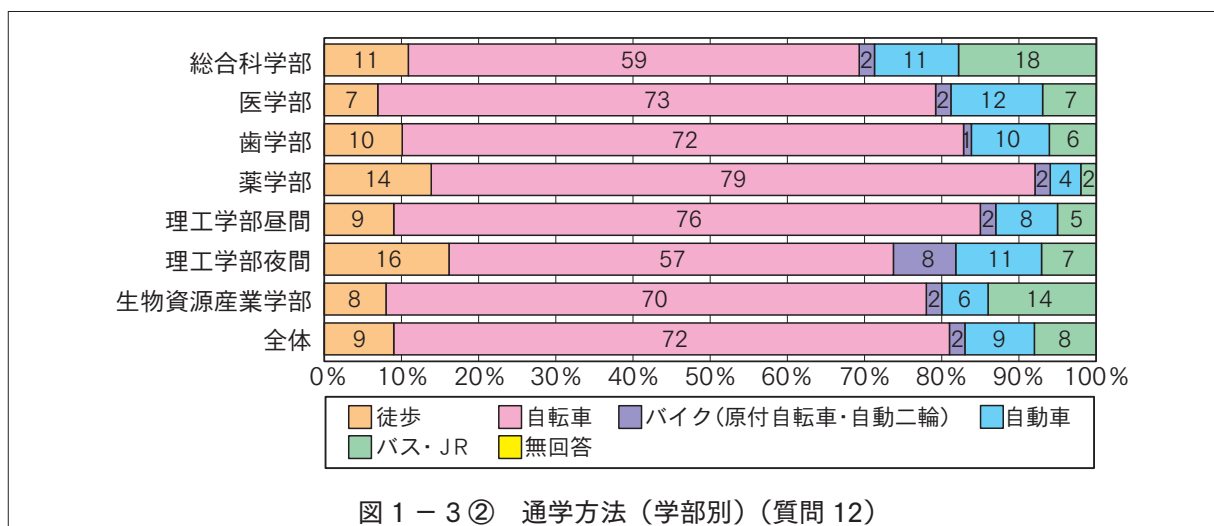
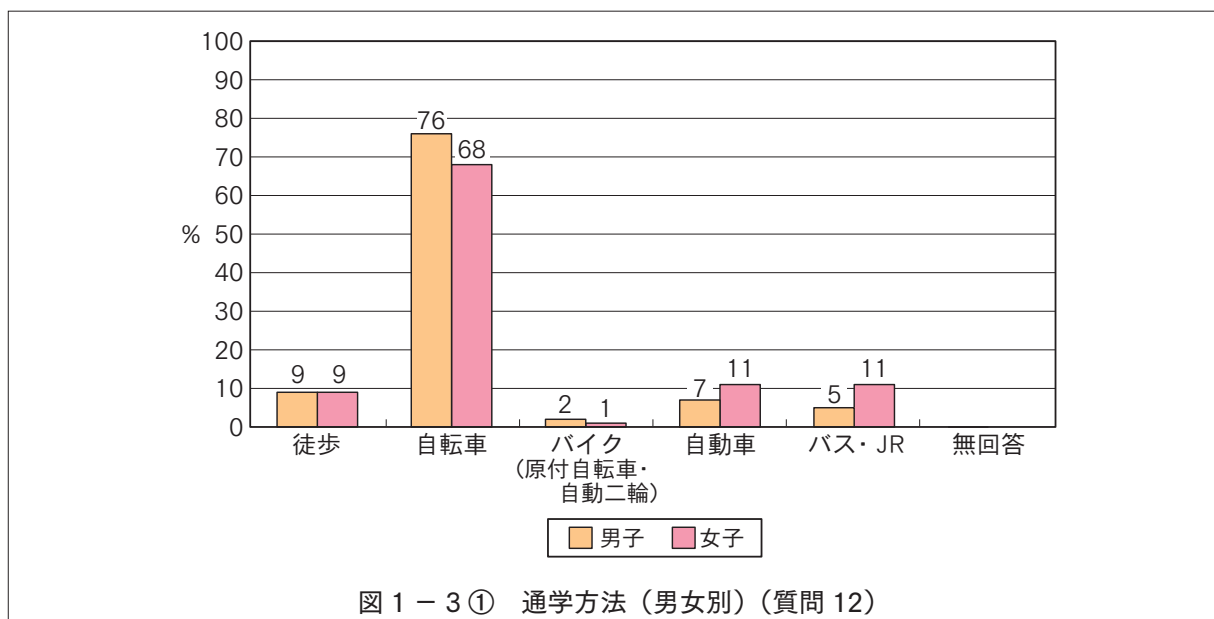


図1-2 1か月の家賃 (質問11)

い傾向にあることがその要因となっている。

1-3 通学方法 (図1-3①, 図1-3②)

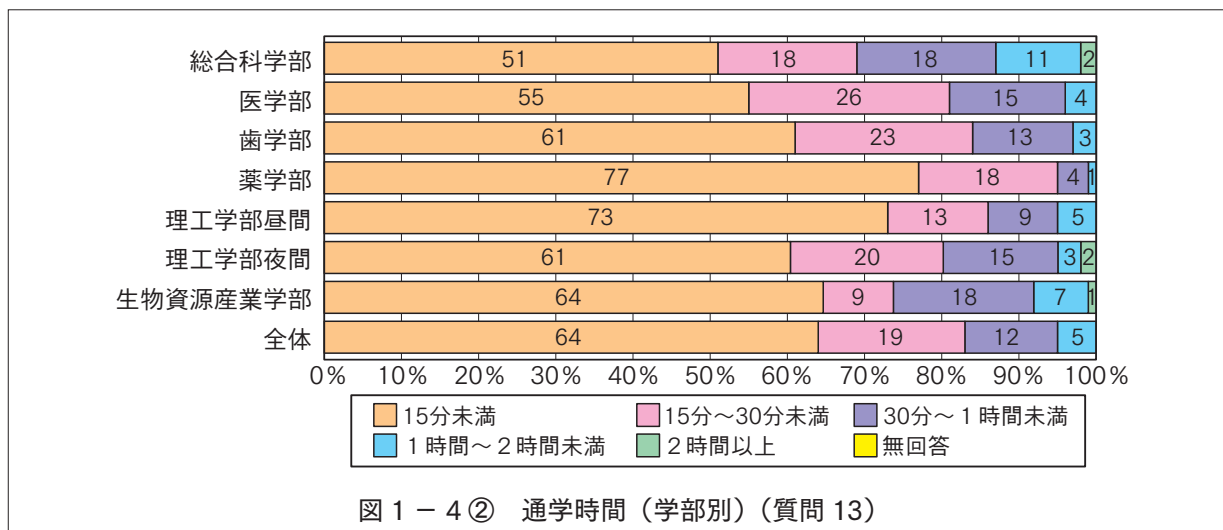
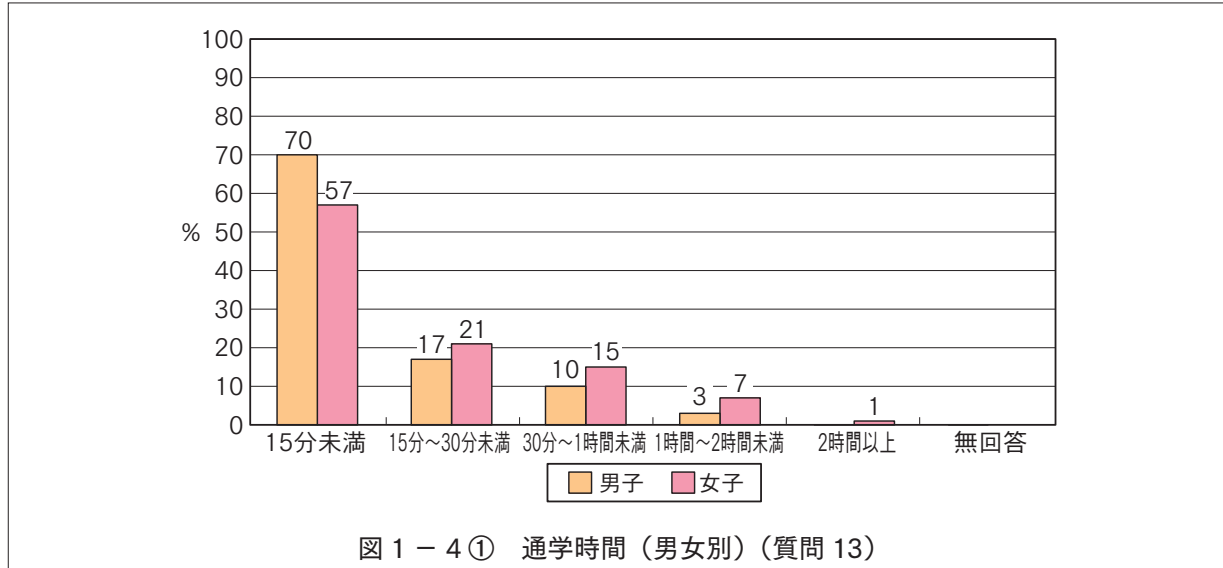
全体として自転車の割合が72%で、前回調査と同様に自転車が主要な通学手段である。徒歩、バス・JR、バイク、自動車通学については、各学部とも、数%あるいは20%以下の割合である。学部別では、バス・JRの利用者の割合が、県内出身者の多い総合科学部(18%)、生物資源産業学部(14%)でやや高く、各学部とも、徒歩の割合が7~16%、自動車の割合が4~12%である。男女別では、前回調査と同じく、男子、女子ともに自転車を利用する割合が最も高く(男子76%、女子68%)、男子では、徒歩、自動車、バス・JR、バイクと続き、女子では、自動車あるいはバス・JR、徒歩、バイクの順である。



1-4 通学時間 (図1-4①, 図1-4②)

全体として通学時間の割合は、15分未満が64%で最も高く、15分~30分未満を合わせると83%であり、多くの学生の通学時間は30分未満と短く、1時間未満を合わせると95%の学生が含まれる。学

部別では、通学時間が30分以上の割合が、総合科学部（31%）、生物資源産業学部（26%）、理工学部夜間（20%）、で、他学部よりも高い。これは、アンケート項目1-1で、これら3つの学部では自宅から通学する学生の割合が高いことと関係すると考えられる。男女別で、通学時間が15分以上である回答では、前回調査と同じく女子の割合が男子より少し高いが、自宅から通学する割合が女子に高いことと関係するのかもしれない。



1-5 通学中の交通事故 (図1-5①, 図1-5②)

交通事故を起こしたかあるいは被害に遭った学生の割合は、全体として6%であり、前回調査と同様である。学部別では、歯学部で12%あり、他学部（5~8%）と比べると割合がやや高い。男女別では、男子、女子ともに同様の結果であった。平成27年6月に改正道路交通法が施行されて自転車に対する規制が厳格化されており、学生の約70%が自転車通学していることを考慮して、自転車通学者を含めて交通安全の指導を継続して十分に行う必要がある。

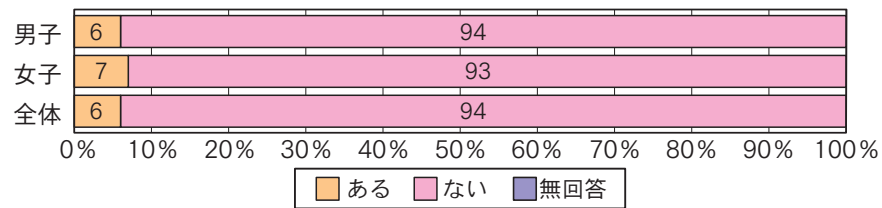


図 1 - 5 ① 通学中の交通事故（男女別）（質問 14）

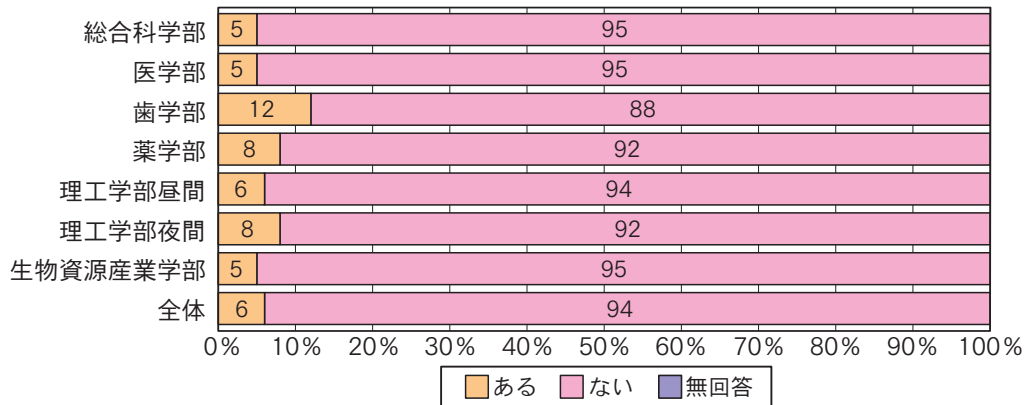


図 1 - 5 ② 通学中の交通事故（学部別）（質問 14）

第2章 収入・支出について

2-1 家庭の年収 (図2-1)

家庭の年収について、大学全体では 250 万円未満 (8%), 250～500 万円 (12%), 500～750 万円 (13%), 750～1,000 万円 (11%), 1,000～1,500 万円 (8%), 1,500 万円以上 (4%) である。前回の調査と比べて、ほとんど変化がない。

学部別にみると前回の調査と同様、歯学部や医学部、薬学部、生物資源産業学部の学生の家庭は 1,000 万円以上の家庭が 10% を超えており高収入な傾向がうかがえる。一方、理工学部夜間は年収 250 万円未満の家庭の割合が (18%), 250～500 万円未満の家庭も 36% と他学部に比べ多い。

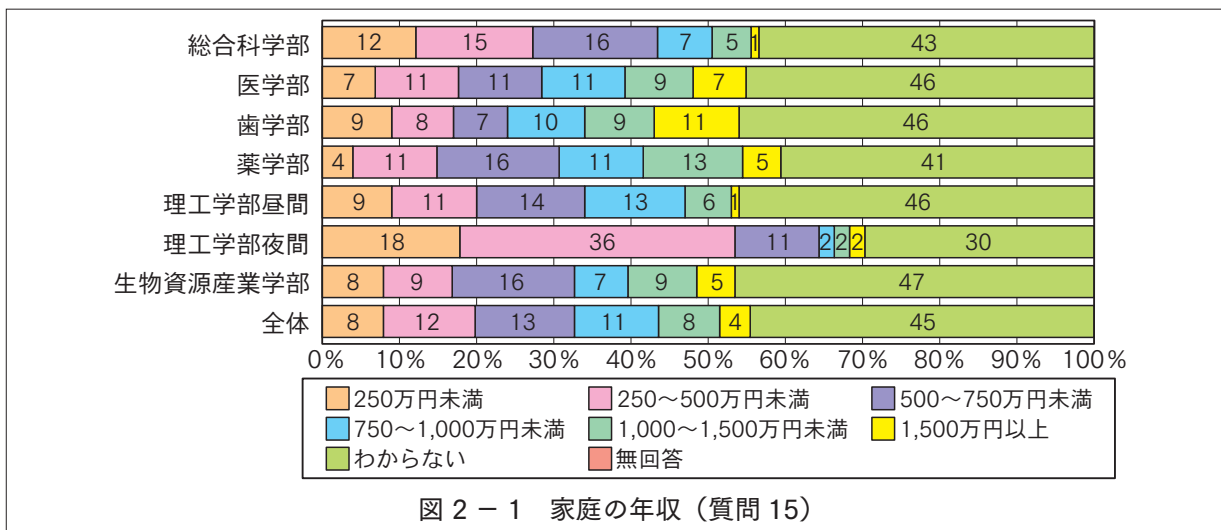


図2-1 家庭の年収 (質問15)

2-2 授業料の免除について (図2-2)

授業料の免除状況について、「高等教育の修学支援新制度 (又は大学独自の授業料免除制度) は知っているが申請していない」が 62%, 「全額免除を受けている」割合は 6%, 「一部減免を受けている」が 7%, 「申請したが不採用 (不許可) だった」が 7%, 「高等教育の修学支援新制度 (又は大学独自の授業料免除制度) を知らなかった」が 7% であった。

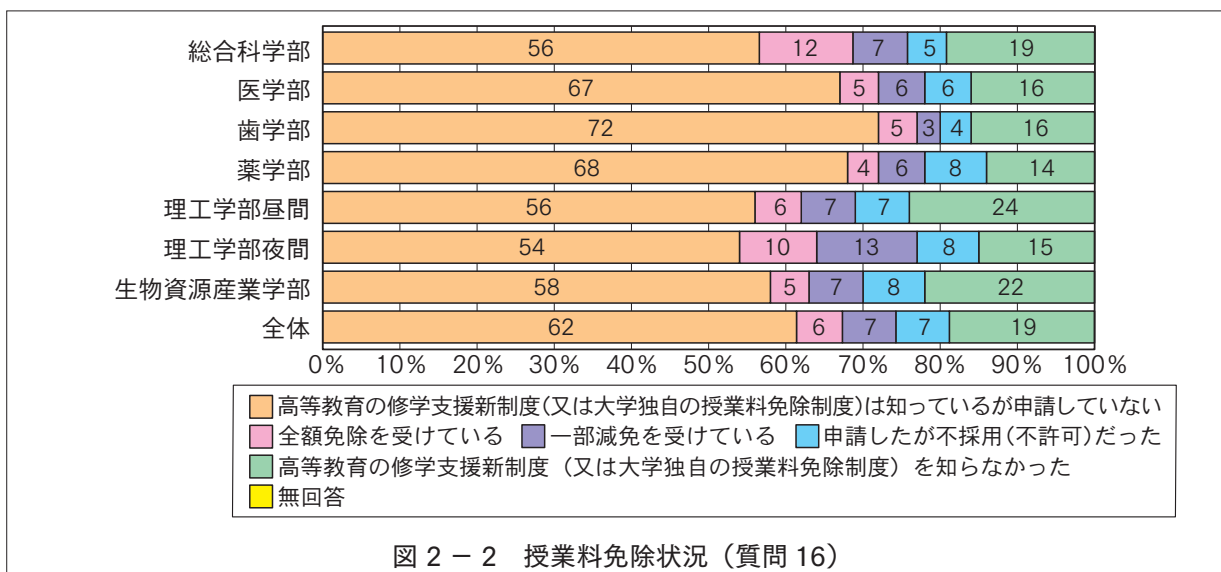


図2-2 授業料免除状況 (質問16)

学部別に見ると、申請者の割合は前設問の家庭の年収が500万円未満の学生の割合と近く、医学部、歯学部、薬学部では申請者の割合は少なく（それぞれ17%、12%、18%）、総合科学部、理工学部夜間では多かった（それぞれ24%、31%）。申請して不採用だった学生の割合は学部による差はほとんどなかった。

授業料の免除制度の認知度について、実際には申請する学生が少ない医学部、歯学部、薬学部では授業料免除制度を知らなかった学生が少なく（それぞれ16%、16%、14%）、申請する学生のより多い総合科学部、理工学部昼間、生物資源産業学部ではむしろ知らなかった学生が多い（それぞれ19%、24%、22%）ことに特徴があった。学部ごとに学生への認知の方法に違いがあるか、学部ごとの学生の情報への関心の程度に差がある可能性がある。

2-3 保護者からの援助額【自宅外通学者】（図2-3）

自宅外通学者の保護者からの援助額は、大学全体として最も多い区分は3～5万円未満（31%）であり、前回調査（32%）とほぼ同じ割合である。続いて3万円未満（17%）、5～7万円未満（17%）で前回調査とほぼ同様である。「援助が全くない」学生は9%であり、前回調査（11%）よりもわずかに減少した。一方、10万円以上の援助を受けている学生は11%で、前回調査（10%）よりも増加した。

学部別に見ると、医学部、歯学部と薬学部で7万円以上保護者から援助を受けている学生の割合はそれぞれ31%、34%、31%であり、他学部に比べ高い。一方、理工学部夜間の30%が援助を全く受けていないことは夜間の特性から理解されるが、前回（24%）よりも顕著に増加していることが目立つ。

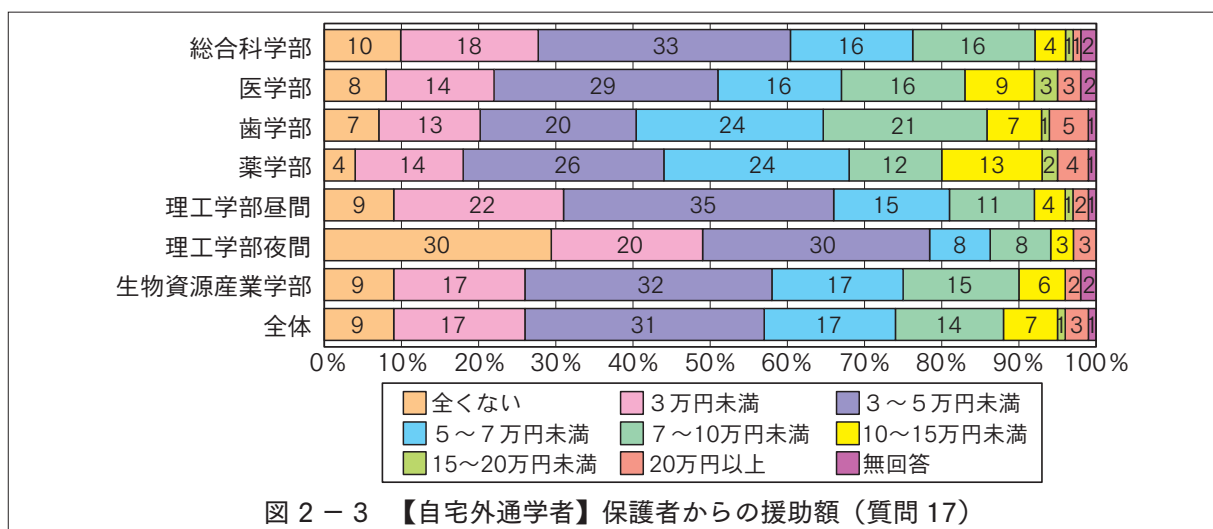


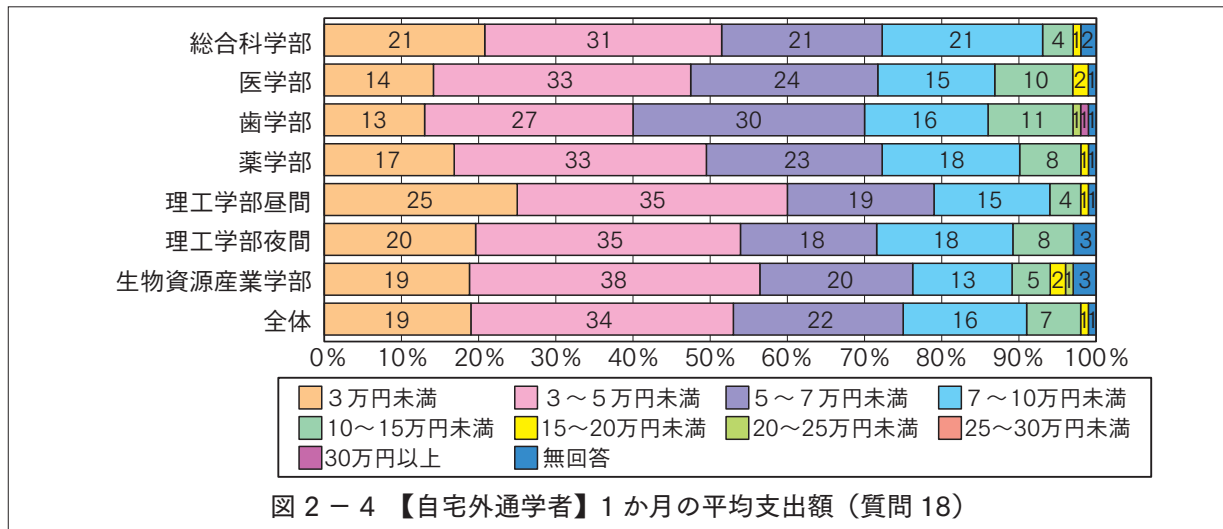
図2-3 【自宅外通学者】保護者からの援助額（質問17）

2-4 1か月の平均支出額【自宅外通学者】（図2-4）

自宅外通学者の1か月の平均支出額（授業料支出は除く）は、大学全体として最も多い区分は3～5万円未満（34%）で、前回調査（40%）より割合は低くなった。続いて5～7万円未満（22%）3万円未満（19%）、と7～10万円未満（16%）であり、前回調査と比べて全体として支出額の低い学生の割合が減少している。10万円以上の平均支出額は8%であり、前回調査（4%）と比べ倍増している。家庭の年収にほとんど変化がない（図2-1）こと、保護者からの援助額にも大きな差がない（図2-3）ことから、前回調査時に支出が低かったのは、新型コロナの状況下で支出をする機会が一時的に減っていたためであり、平常に近づきつつあると考えられる。

学部別では、医学部、歯学部、薬学部で1か月に7万円以上支出している学生は、それぞれ27%、

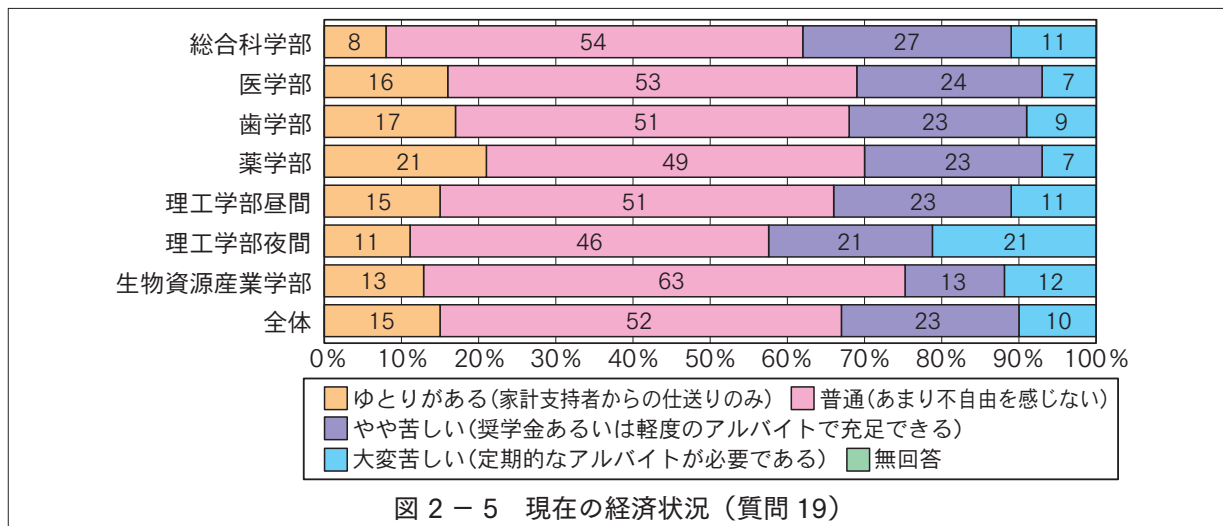
29%, 27%であり他学部よりも多いが、総合科学部、理工学部夜間ともほとんど差がない程度である。理工学部昼間は、5万円未満の平均支出額の区分が60%で、他学部と比べ高くなっている。



2-5 経済状況 (図 2-5)

この項目からは自宅通学者も含めた全員が対象である。大学全体として33%の学生が、経済状況が「苦しい」と感じている（「やや苦しい」23%、「大変苦しい」10%）。一方、半数は「普通（あまり不自由を感じない）」と、15%は「ゆとりがある（家計支持者からの仕送りのみ）」と回答した。これらの割合は、前回調査の結果（それぞれ24%、8%、53%、15%）とほぼ同様であった。

学部別では、理工学部夜間の21%が「大変苦しい」と回答し、前回調査（16%）を上回っている。年収や支出の額は上がっている状況で「大変苦しい」が増えているということは、余裕のある学生と苦しい学生とに二極化しているのか、あるいは生活のレベルをより高く保つためにアルバイトに追われるということがあるかもしれない。

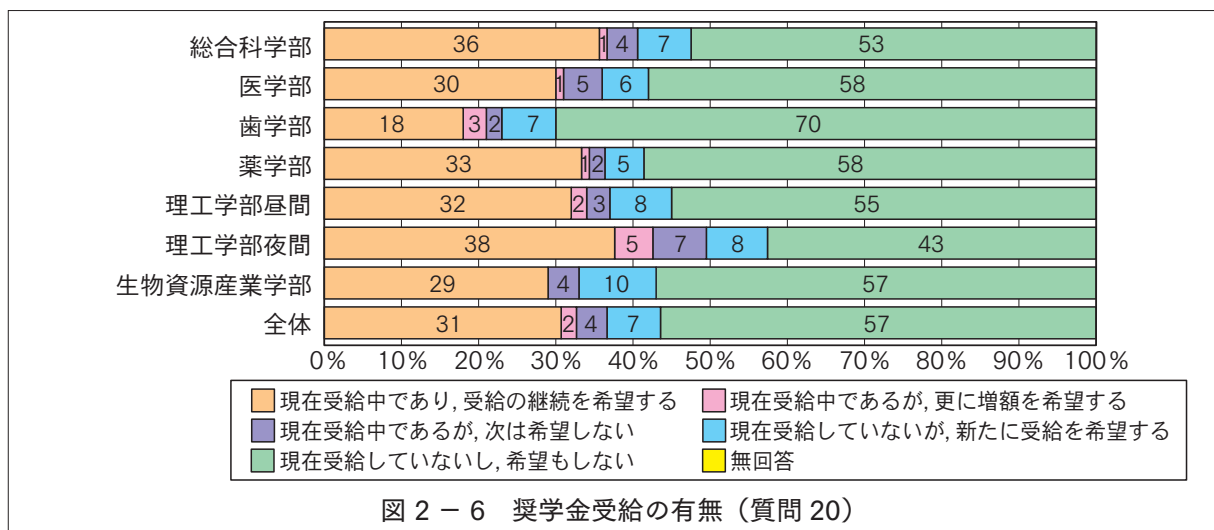


2-6 奨学金 (図 2-6)

大学全体としては、57%の学生は「現在受給していないし、希望もしない」。一方、31%は「現在受給中であり、受給の継続を希望する」と回答し、これに「現在受給中であるが、更に増額を希望する」2%

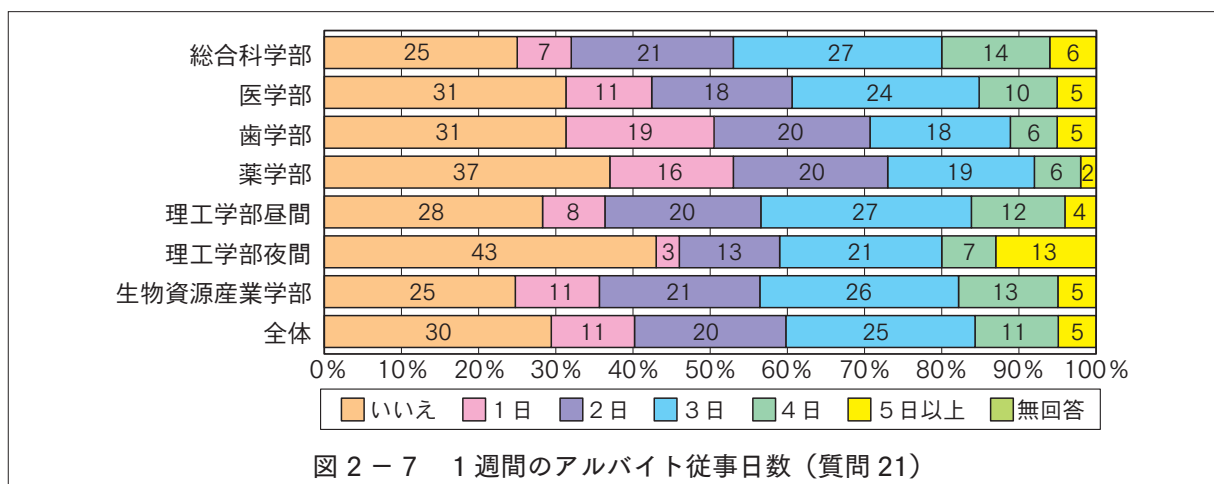
と、「現在受給していないが、新たに受給を希望する」7%を加えると、合計で40%になり、すなわち約4割の学生は奨学金の受給を今後も希望している。

学部別では、理工学部夜間の50%は奨学金を受給しており高い割合となっている。また、歯学部では奨学金を希望しない者の割合が70%と他学部と比べて高い傾向にある。



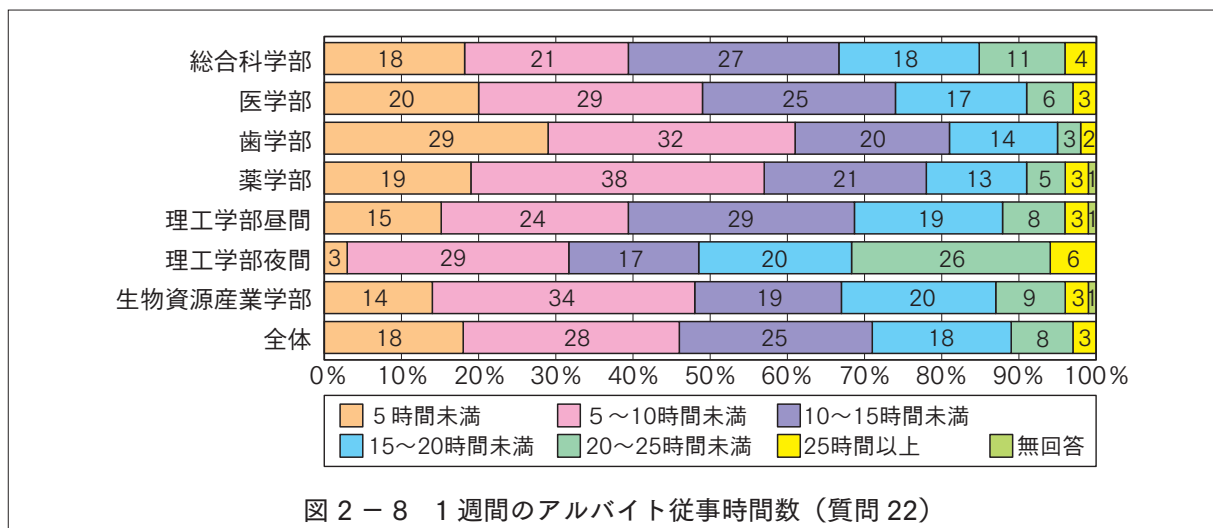
2-7 1週間のアルバイト従事日数 (図 2-7)

アルバイトをしている割合は学生全体の70%であった。学部別に見ると、総合科学部、生物資源産業学部が75%と最も高く、逆に薬学部は63%と最も低かった。週4日以上アルバイトしている学生の比率は全体の16%であり、学部別では総合科学部と理工学部夜間が20%と最も高く、医学部、歯学部、薬学部は8%~15%と相対的に低かった。



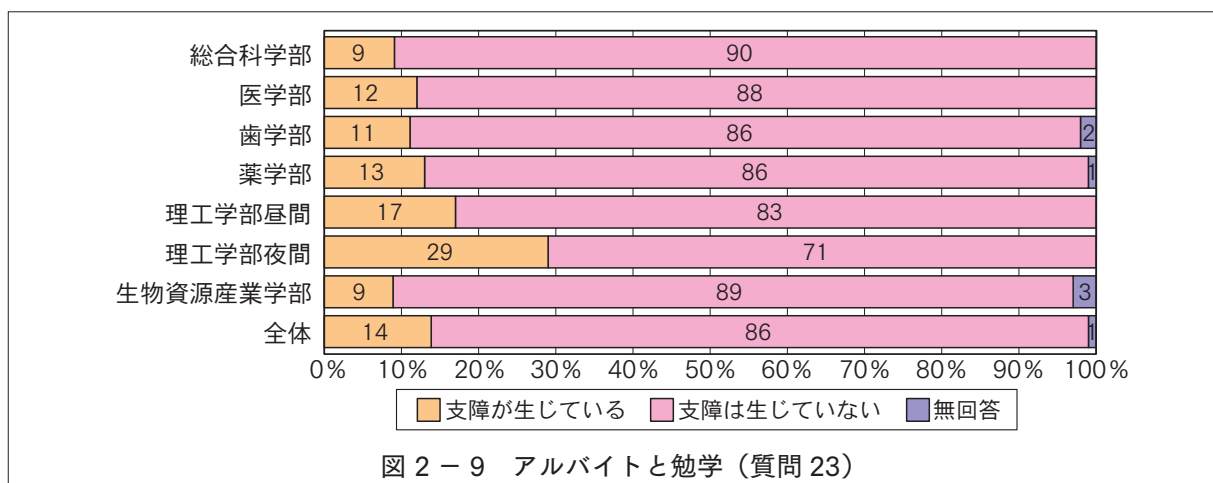
2-8 1週間のアルバイト従事時間数 (図 2-8)

1週間のアルバイト従事時間は全体で、5時間未満が18%、5~10時間未満が28%、10~15時間未満が25%、15~20時間未満が18%、20~25時間未満が8%、25時間以上が3%であった。5時間以上の従事時間の割合が相対的に高かったのは、理工学部夜間97%、生物資源産業学部85%であった。20時間以上の従事時間について見てみると、理工学部夜間が32%と突出して高かった。一方、歯学部、薬学部では10時間未満の従事時間の割合が高かった。



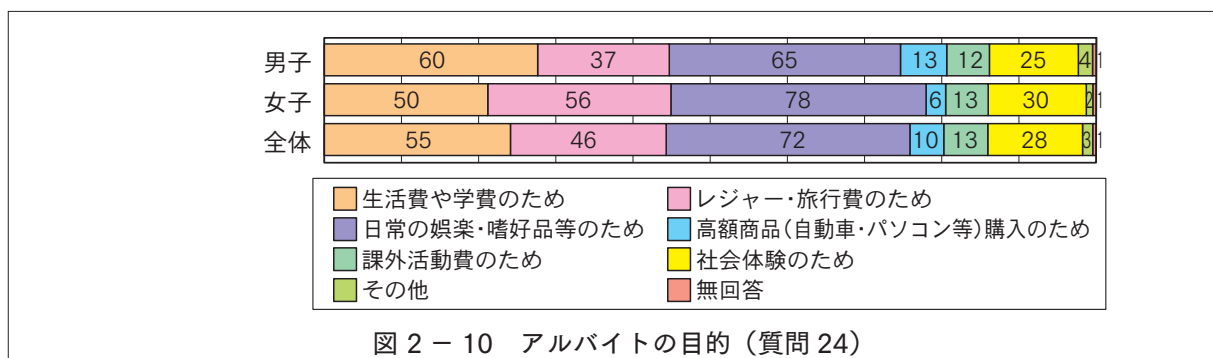
2-9 アルバイトと勉学 (図 2-9)

アルバイトによって勉学に支障が生じている学生の割合は全体で 14%であった。割合が高いのは理工学部夜間 (29%), 理工学部昼間 (17%) で, 総合科学部 (9%), 生物資源産業学部 (9%) は低かった。今後, アルバイト従事時間との相関を解析する価値を認めた。



2-10 アルバイトの目的 (図 2-10)

アルバイトの目的 (複数回答可) は, 学生全体では「日常の娯楽・嗜好品等のため」が 72%で最も



(※問 24 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

多く、次いで「生活費や学費のため」が55%、「レジャー・旅行費のため」が46%である。男子と女子を比較すると男子は「生活費や学費のため」が高く、女子は「日常の娯楽・嗜好品等のため」、「レジャー・旅行費のため」が高かった。「生活費や学費のため」の差については、自宅生比率の違いと関連している可能性があり、今後詳細に分析する価値を認めた。

2-11 アルバイトの種類 (図2-11)

アルバイトの内容（複数回答可）は、全体では「飲食店等手伝い」が46%で最も多く、次いで「家庭教師・学習塾講師等」が31%、「受付・接客」が23%、「商品販売」が14%であった。

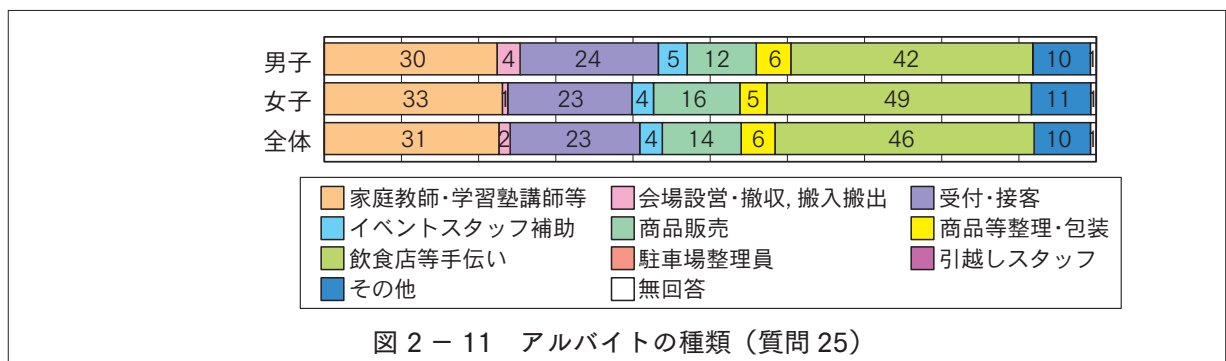


図2-11 アルバイトの種類 (質問25)

(※問25は複数回答のため合計は100%にはならない。)

2-12 アルバイト収入 (図2-12①, 図2-12②)

アルバイトによる収入は、大学全体では「3～5万円未満」が最も多く36%、「5～7万円未満」が25%、「3万円未満」が24%であった。男子と女子に顕著な差はなかった。学部別では理工学部夜間が相対的に多く、医学部、歯学部、薬学部は相対的に少なかった。

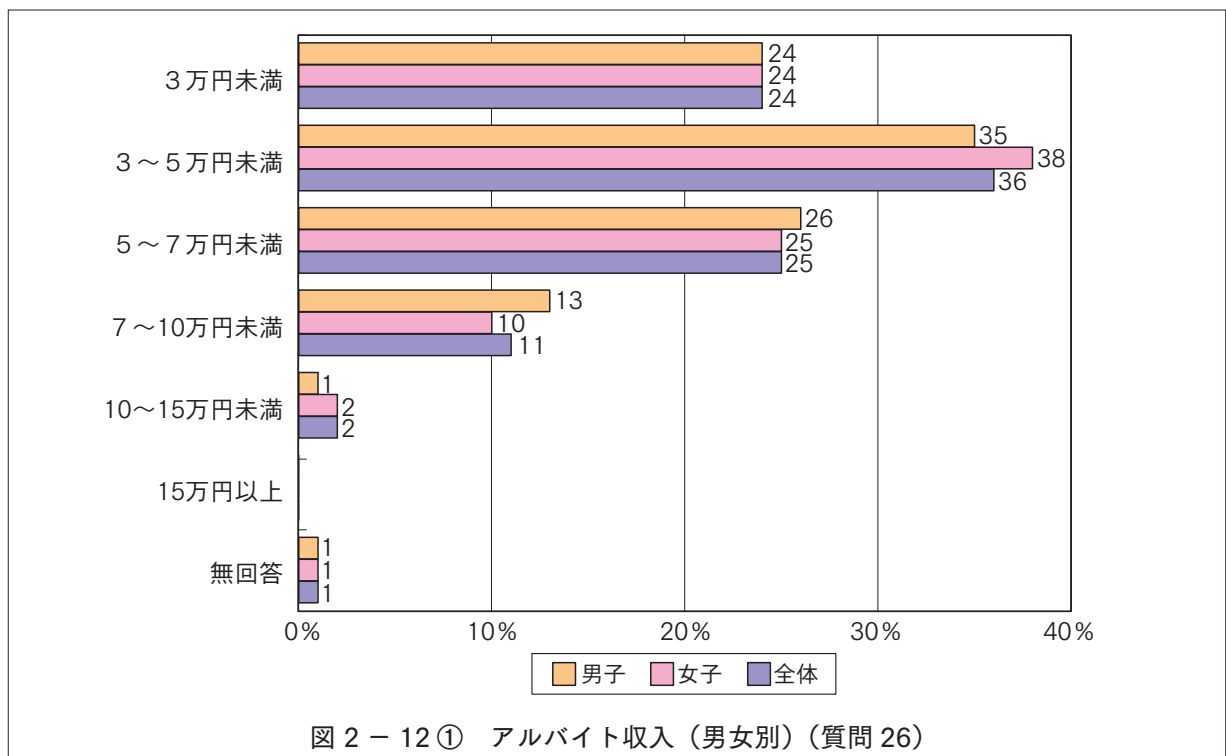
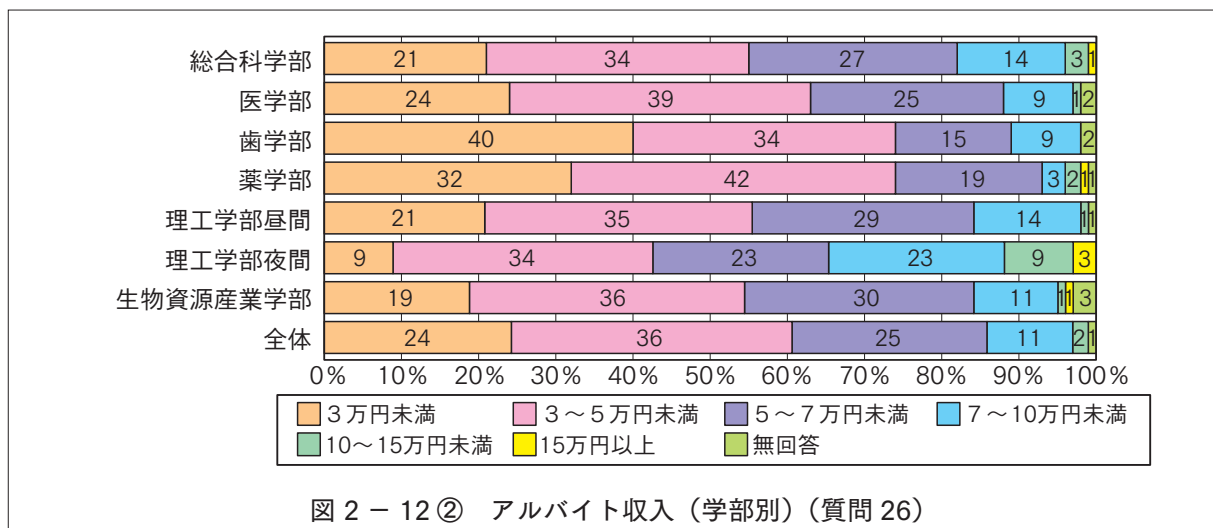
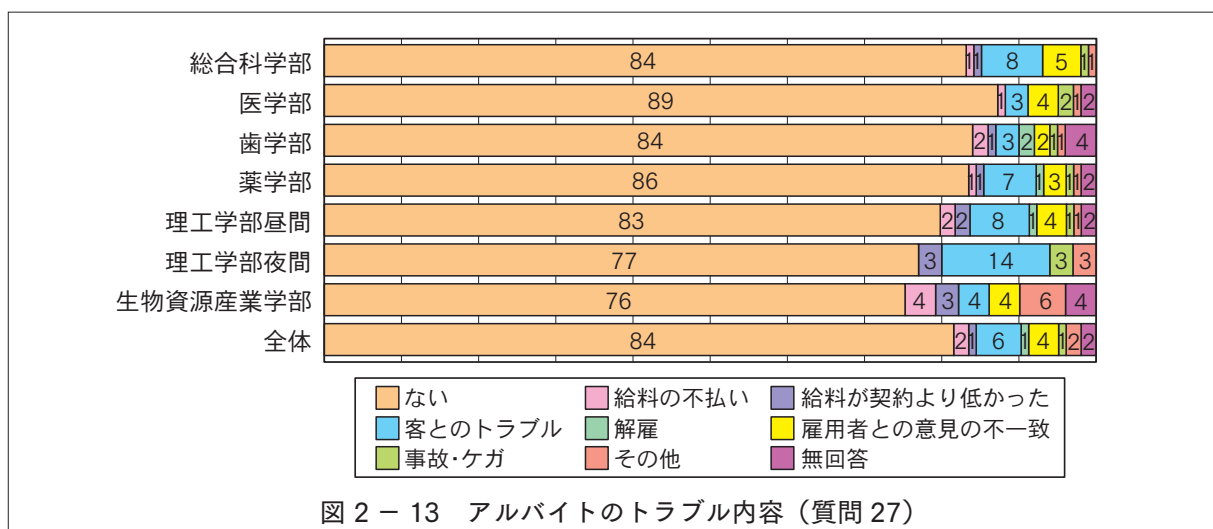


図2-12① アルバイト収入 (男女別) (質問26)



2 - 13 アルバイトのトラブル内容 (図 2 - 13)

アルバイトにおけるトラブル (複数回答可) について、「ない」と回答した割合が全体の 84%で、おもなトラブルの内容 (複数回答可) は「客とのトラブル」(6%)である。アルバイトをしている学生の 6人に1人はトラブルを経験していることになり、比較的高い割合と考えられる。学生がアルバイトでトラブルに遭遇しないように、その内容を具体的に把握・検証して、注意喚起する必要がある。



(※問 27 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

第3章 健康状態について

3-1 睡眠時間 (図3-1①, 図3-1②)

睡眠時間については前回調査と比べ大きな変化はなく、睡眠時間「6～8時間」が男子で57%、女子で52%と最も多くを占めているが、「4～6時間」が男子で36%、女子で43%と前回調査からそれぞれ3%、2%の増加、「4時間未満」については男子3%、女子2%と前回調査からそれぞれ1%増加していた。健康的な睡眠時間を確保できている学生が多いと思われるが、睡眠時間が十分でない、または睡眠に問題をきたしている可能性のある学生も認められている。これらの学生には睡眠衛生の向上についての心理教育やサポートが求められる。

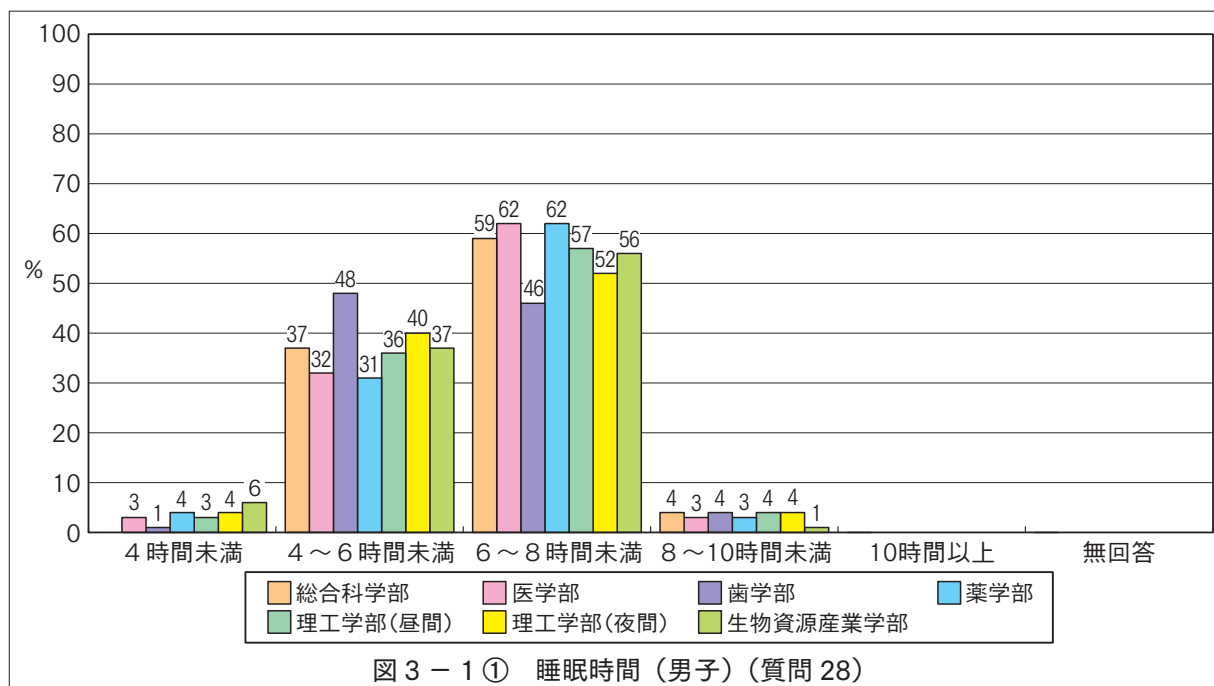


図3-1① 睡眠時間 (男子) (質問28)

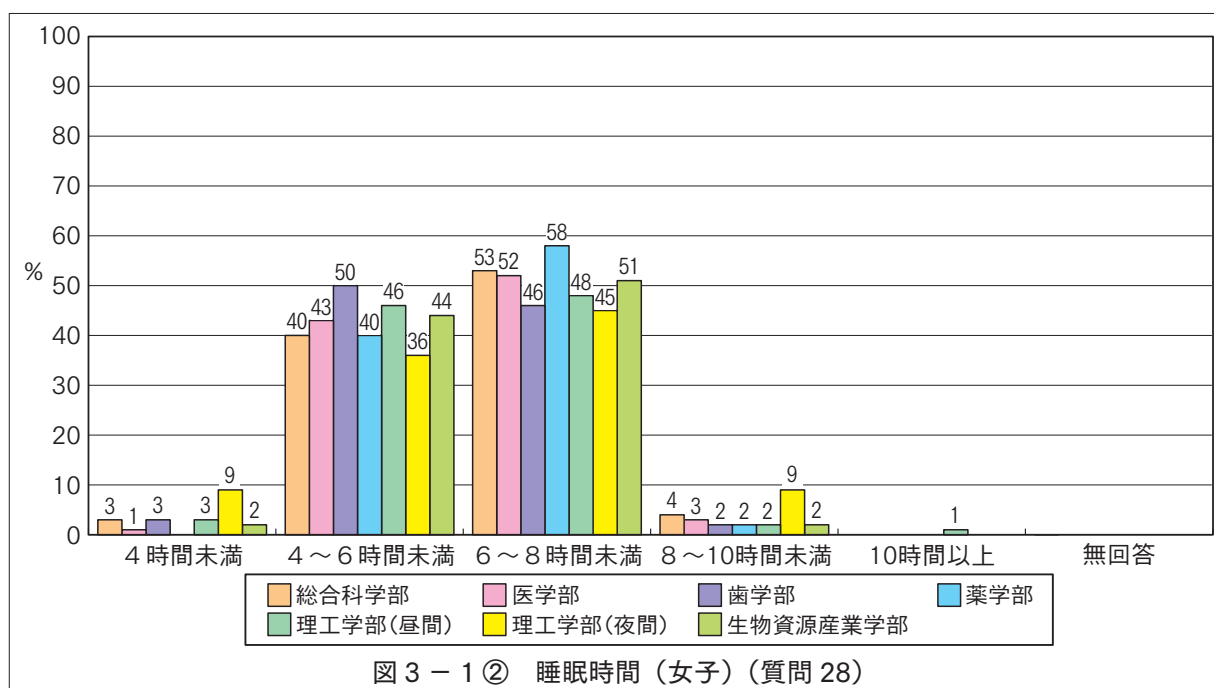


図3-1② 睡眠時間 (女子) (質問28)

3-2 気になる症状 (図3-2①, 図3-2②)

現在気になる症状がある学生は、男子で29%（前回調査27%，前々回34%），女子で50%（前回44%，前々回49%）であり、男子より女子で何らかの不調を抱えている傾向は同様で、前回調査では男女とも気になる症状がある学生の割合が減少していたが、今回は特に女子学生で前々回並みの割合に戻った。気になる症状の内容としては、男子では「アトピー・アレルギー」が11%と最多、「頭痛・めまい」、「不眠」がそれぞれ9%、「下痢・便秘」6%と続き、女子では「生理痛・生理不順」が最多で24%、「頭痛・めまい」が17%、「アトピー・アレルギー」が14%、「不眠」が10%、「下痢・便秘」が9%

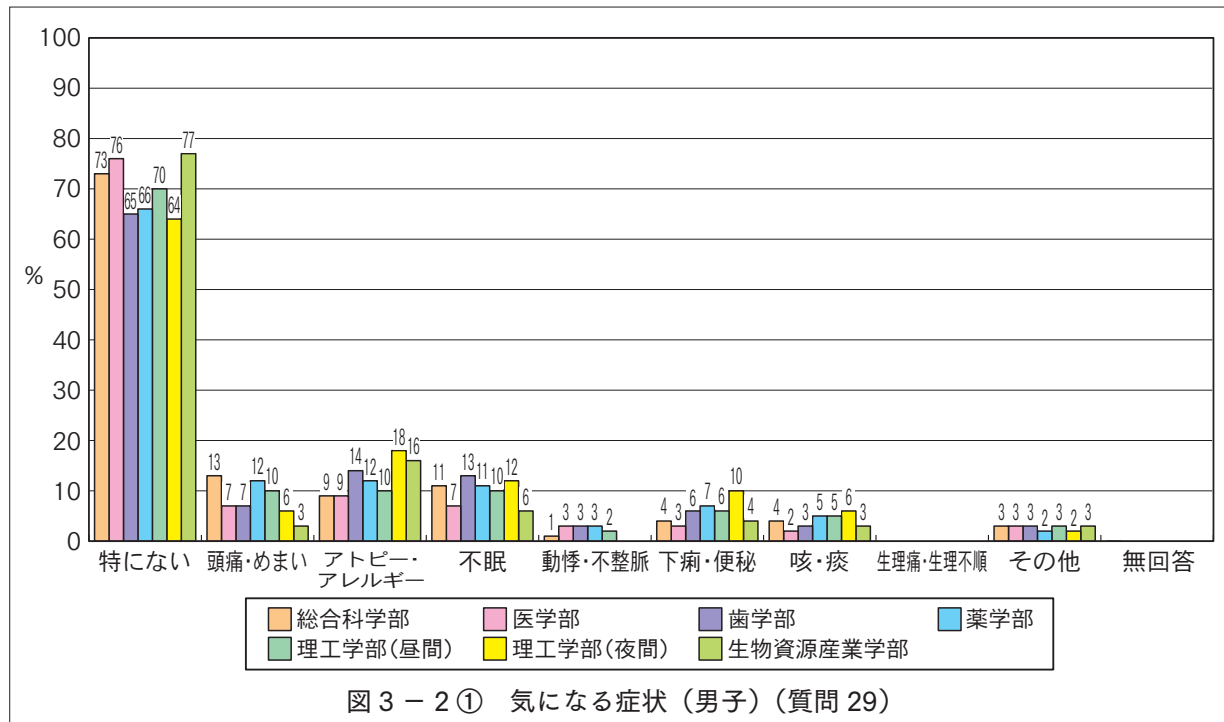


図3-2① 気になる症状（男子）（質問29）

(※問29は複数回答のため合計は100%にはならない。)

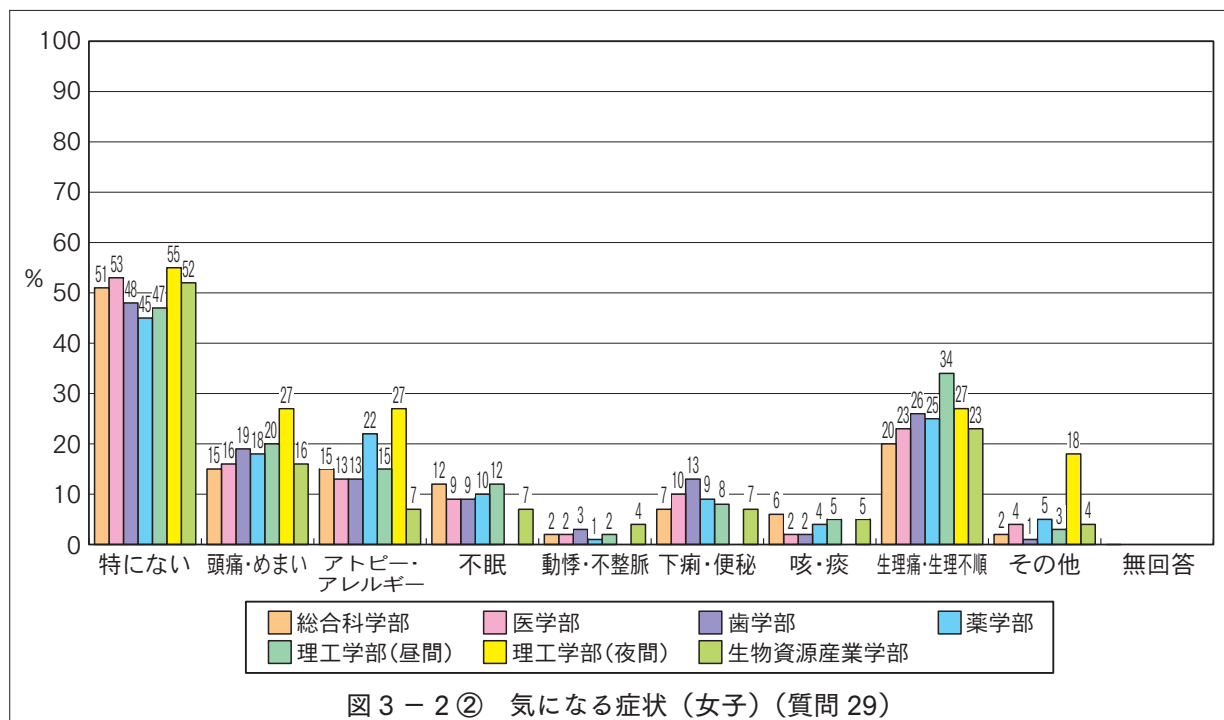


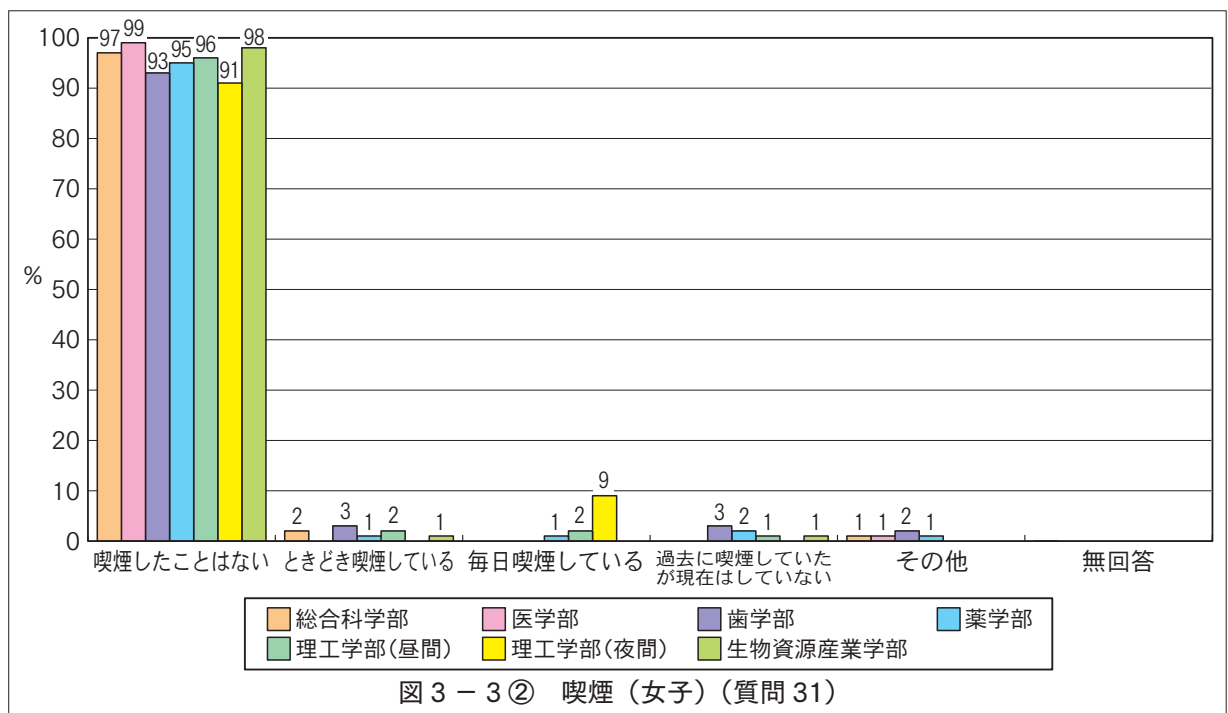
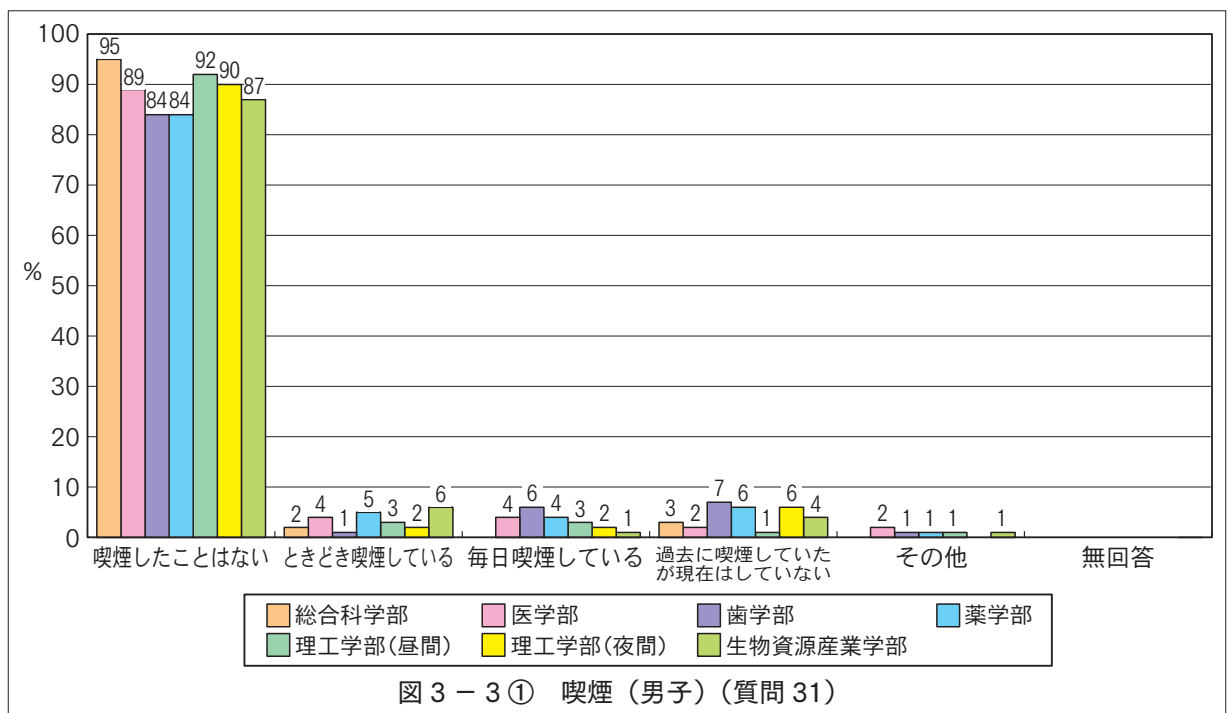
図3-2② 気になる症状（女子）（質問29）

(※問29は複数回答のため合計は100%にはならない。)

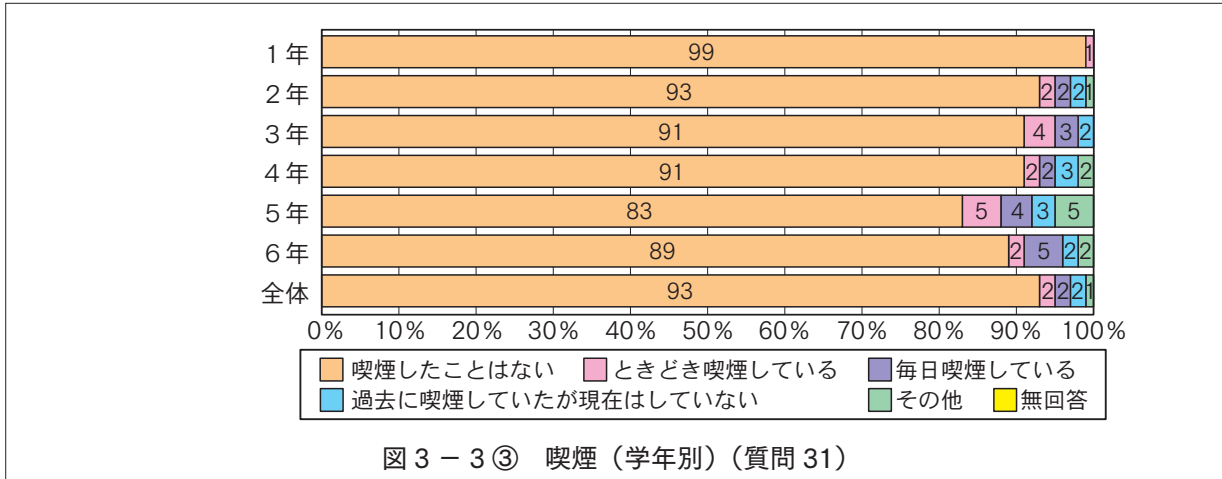
となっている。男子では、「頭痛・めまい」が前回調査より3%増加し、女子では「アトピー・アレルギー」が3%、「生理痛・生理不順」が2%増加し、「不眠」は男女ともに1%増加していた。女子の月経関連の不調については、症状が強い場合は日常生活に支障が出ることもあり、我慢や自己対処に頼らず、婦人科的な対応が有効であり望まれるところである。必要に応じて、医療機関での治療および生活習慣の見直し、キャンパスライフ健康支援センターの保健管理部門の健康相談等を活用し改善をはかりたい。

3-3 喫煙について (図3-3①, 図3-3②, 図3-3③)

「喫煙したことがない」学生は男子で90%、女子で97%であり、「過去に喫煙していたが現在はしていない」学生が男子2%、女子1%であったため、非喫煙率は男子で92%（前回調査93%）、女子で

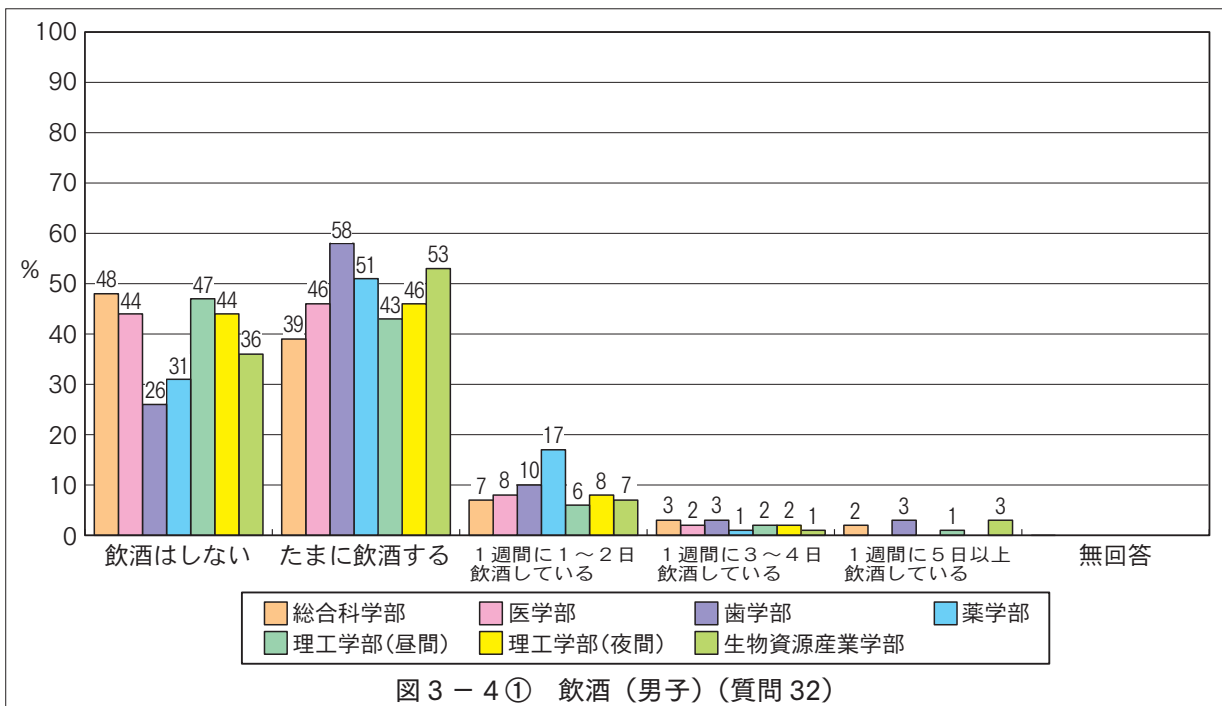


98%（前回調査 99%）という結果となった。男子・女子ともに非喫煙率は前回調査と比べ高い水準が維持されているという結果となった。「ときどき、もしくは毎日喫煙している」喫煙率は全体で4%であった。学年別でみると、1年生の喫煙率が1%（前回調査2%）と低く、2年生以降に喫煙者が増加し、3～5年生で喫煙者が増加する傾向がみられ、かつ再度禁煙に取り組む者も同時に増えている。喫煙習慣が長年に及ぶと様々な有害作用を健康に及ぼすことから、学生時代に喫煙を始めない、習慣づけないことが望まれる。

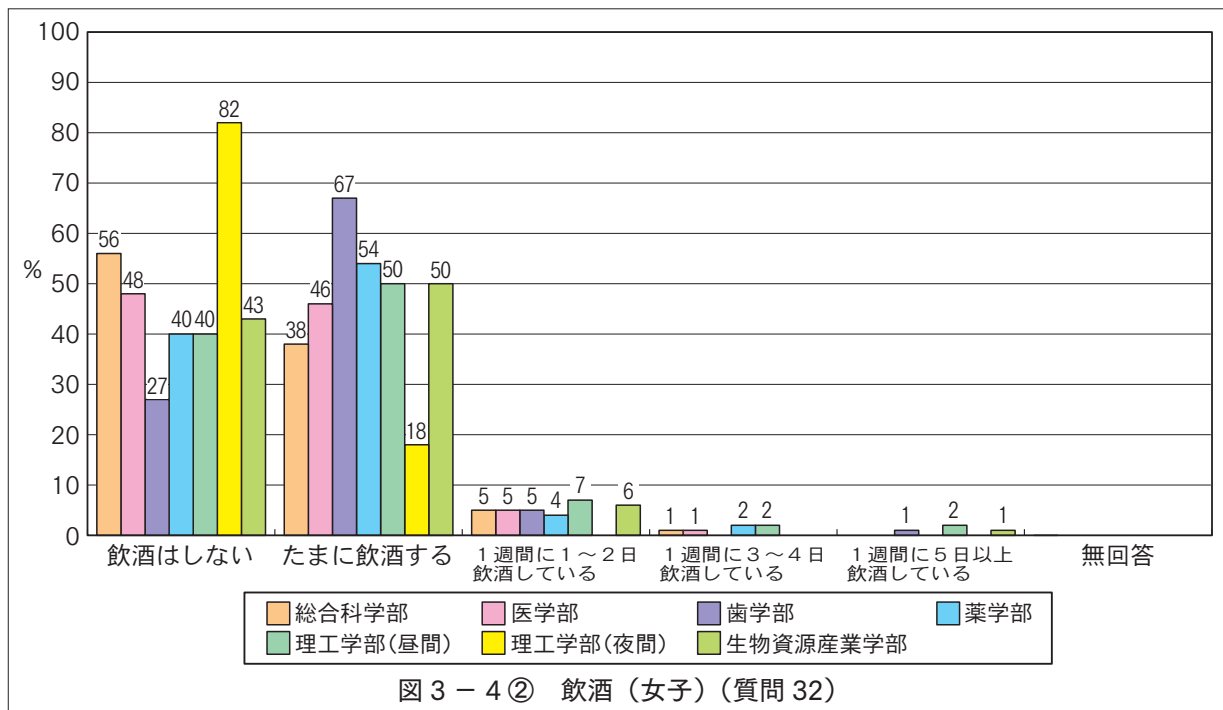


3 - 4 飲酒について（図 3 - 4 ①，図 3 - 4 ②，図 3 - 4 ③，図 3 - 4 ④）

「飲酒はしない」と答えた学生は男子 43%（前回調査 45%），女子 45%（前回調査 47%）であり，飲酒はしないと答えた学生が10%以上増加した前回調査よりは2%減であるが，ほぼ変わらない結果となった。「たまに飲酒する」と答えた学生は男子 46%，女子 48%であり，飲酒しない者と機会飲酒者を合わせると，男子の 89%，女子の 93%の学生に飲酒習慣がみられないという結果になった。また，飲酒習慣のある学生のうち，「週 3，4 日以上飲んでいる」学生は男子で 2%，女子で 1%（前回調査ではそれぞれ 4%，2%）と減少していた。飲酒習慣がない者，および飲酒習慣があっても週 1～2 日まで

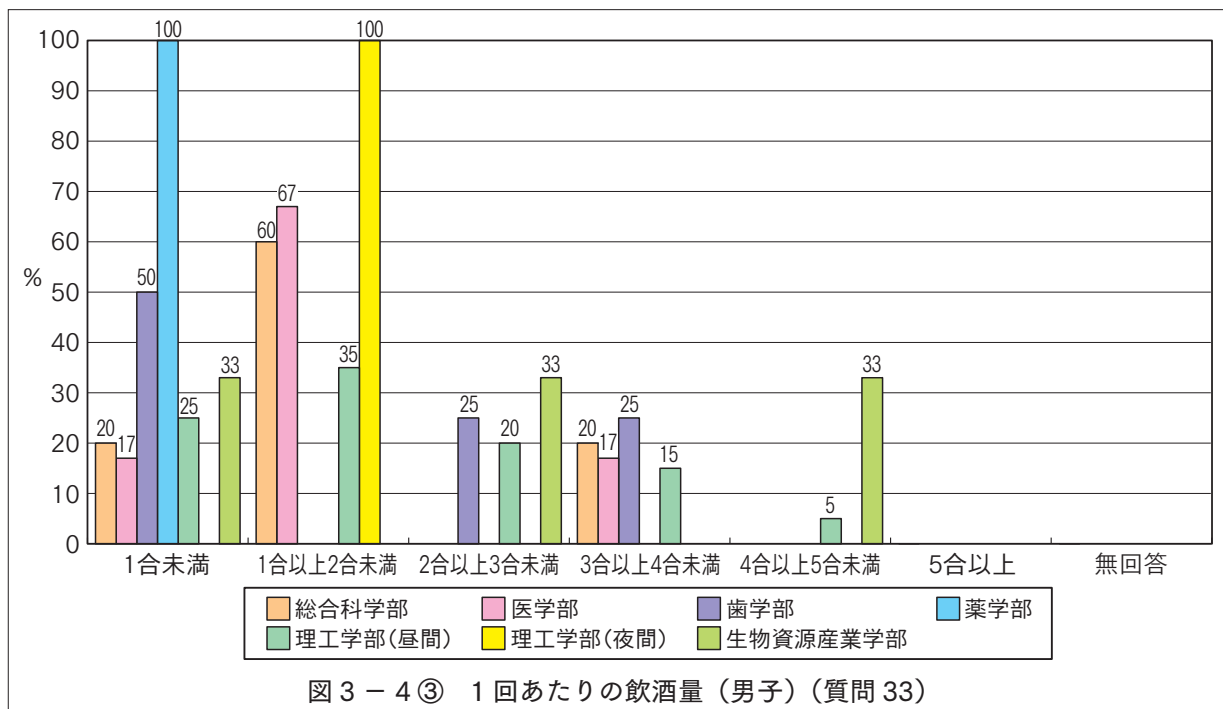


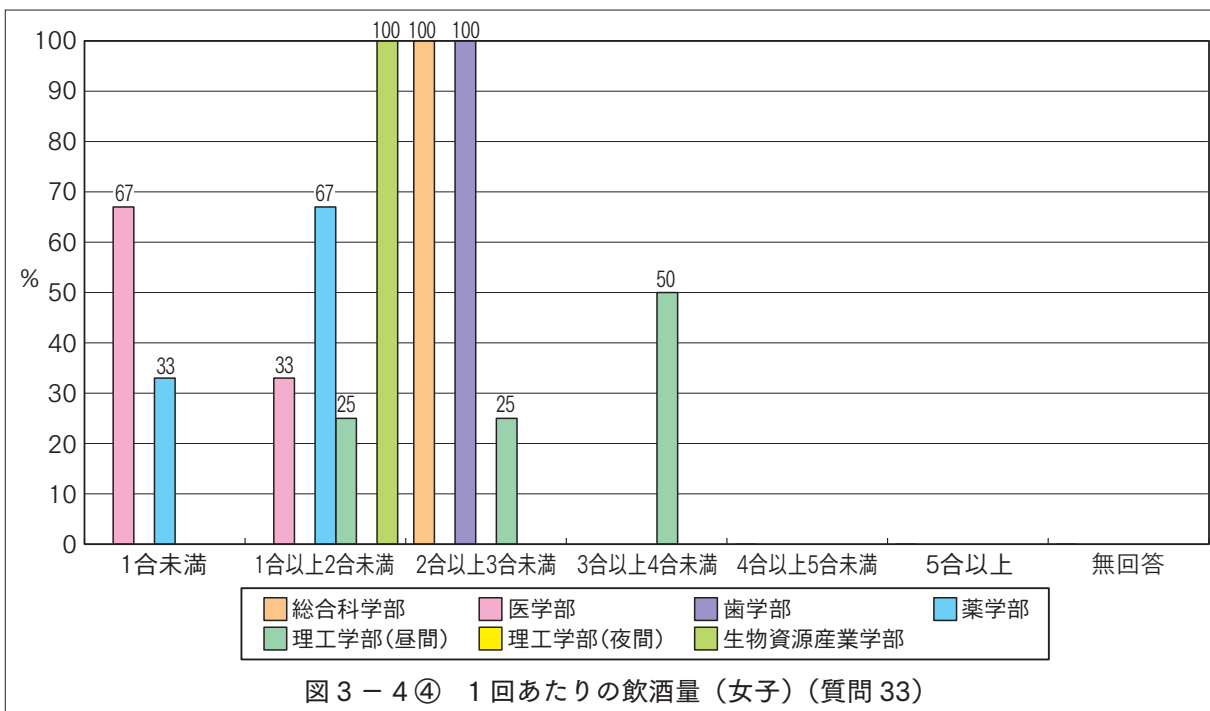
の者が増加している傾向が伺える。これらの学生はアルコールとの付き合い方については問題がなく、飲酒した際には、飲酒量が増えすぎないように留意することは必要と思われる。



一方、週3回以上の飲酒習慣があると答えた学生のうち、1回の飲酒量が3合以上である学生は少数で、男子で20%（前回調査21%）、女子で15%（前回調査10%）であった。

飲酒習慣がある場合も、アルコールの適量といわれている1日平均純アルコール20g（日本酒で1合）未満にとどめ、引き続きアルコール関連健康障害などの酒害への発展が危惧される多量飲酒（1日平均純アルコール量で60g以上）に至らないように留意できることが望ましい。





第4章 食事について

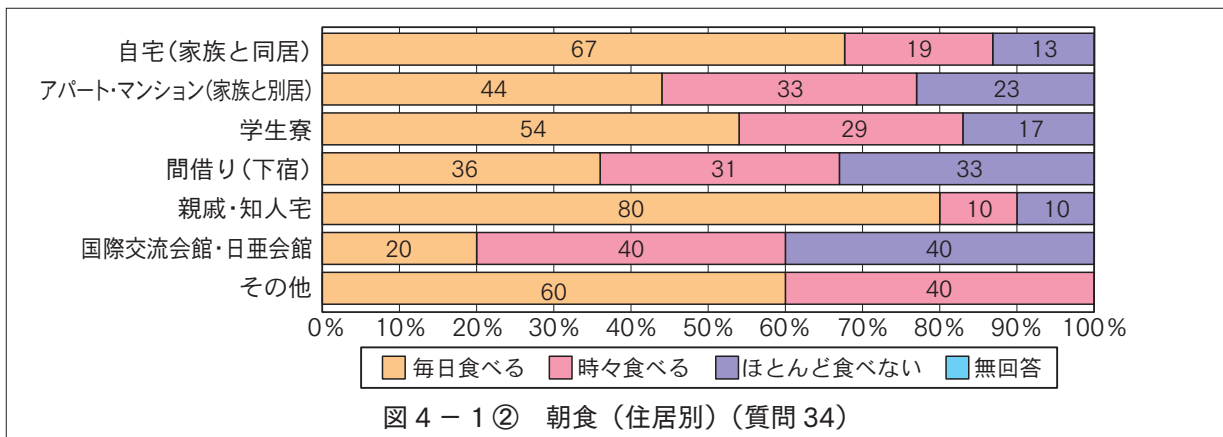
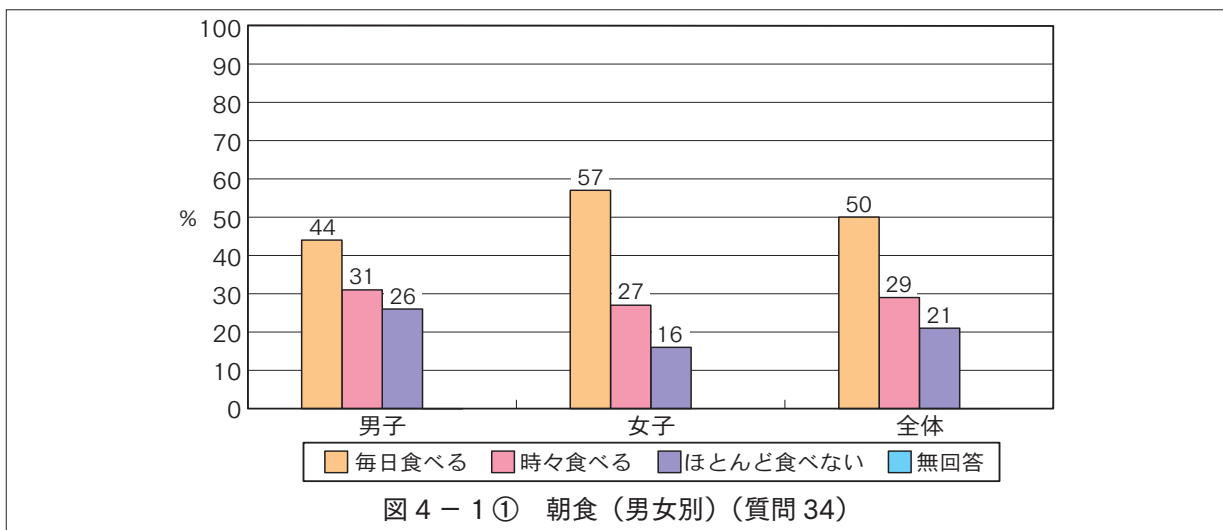
4-1 朝食 (図4-1①, 図4-1②)

学生全体では、50%の学生は毎日朝食を食べており、「時々食べる」が29%、ほとんど食べないが21%であった。全体としては、毎日朝食を食べる学生が前回調査から5%増加している。

男女別にみると、毎日朝食を食べている割合は、女子(57%)が男子(44%)よりも高く、前回調査より女子では2%、男子では7%、それぞれ増加していた。一方、朝食をほとんど食べない割合は女子(16%)が男子(26%)よりも低く、前回調査と変化はなかった。

住居区分別では、毎日朝食を食べている割合は、自宅(家族と同居)が67%(前回調査59%)、アパート・マンション(家族と別居)が44%(前回39%)、学生寮が54%(前回33%)、間借り(下宿)が36%(前回37%)であった。毎日朝食を食べる割合は、自宅生が最も多いことには変わりはないものの、自宅生だけでなく一人暮らしの学生においても、毎日朝食をとる割合が前回調査よりも増加していた。(親戚・知人宅と国際交流会館・日亜会館に居住する回答者はごく少数のため、傾向の解釈はできない。)

以上のことから、朝食においては、COVID-19流行下で遠隔授業が中心であった前回調査時期にくらべ、一定数の学生が朝起床して朝食をとるという生活習慣を取り戻したことが伺える。しかし、健康的な生活習慣の観点からは、より朝食をとる学生が増えていくことが望まれる。



4-2 昼食 (図4-2)

学生全体では、毎日昼食を食べている学生が87%（前回調査81%）、男女別では、女子が91%（前回85%）、男子が84%（前回78%）であり、全体、男女別とも毎日昼食を食べている割合が前回調査に比べ増加し、前々回調査時程度の割合となった。一方、ほとんど食べない学生（男子3%、女子1%）は女子では1%減少したが、男子では1%増加している。昼食の摂取においても、男女ともに毎日とする学生の割合がコロナ禍以前に戻ったと思われる。

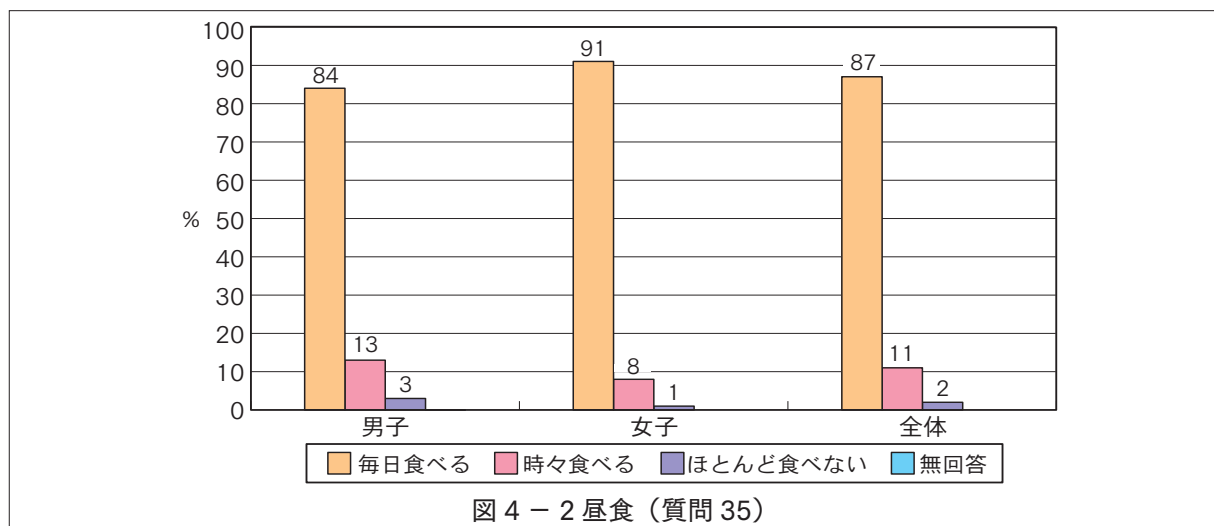


図4-2 昼食 (質問35)

4-3 夕食 (図4-3)

学生全体では、93%の学生は毎日夕食を食べており、7%は時々夕食を食べており、夕食をほとんど食べない学生は0%であり、夕食については前々回調査、前回調査と変化はなかった。男女別にみると、毎日夕食を食べている割合は、男子が94%、女子が91%と男女とも9割を超えており、ほとんど食べないとした学生は男女とも0%であった。ただ、男子で5%、女子で8%の学生が夕食を十分とっていないという結果については、これらの学生には何らかの支援が必要と思われる、その要因については、経済面、生活習慣面、体調面など多方面からの検討が必要と思われる。

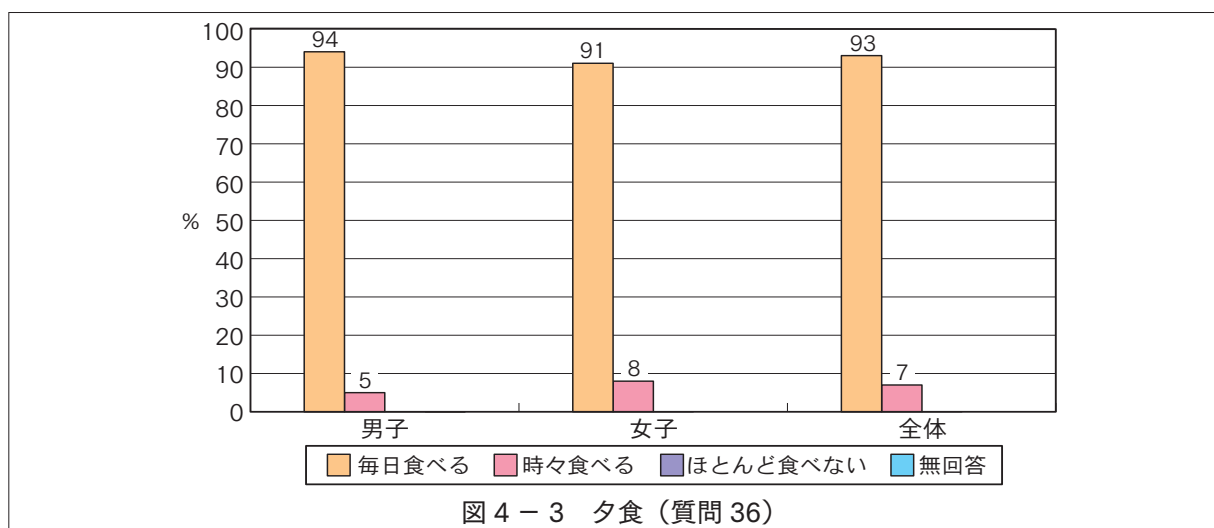
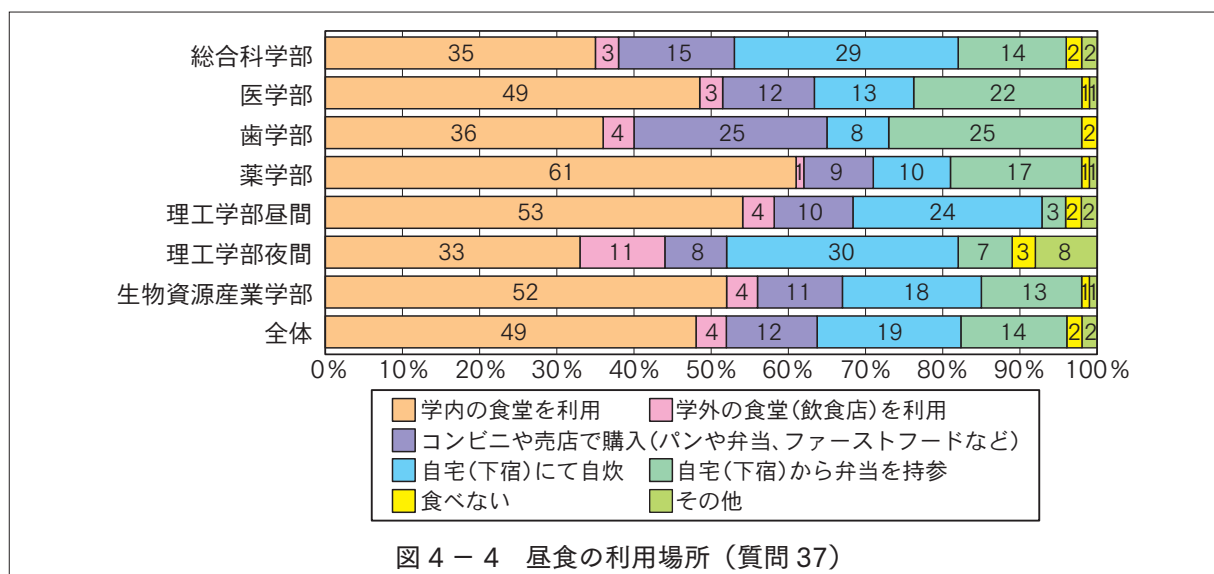


図4-3 夕食 (質問36)

4-4 昼食の利用場所 (図4-4)

学生全体での昼食の場所については、学内の食堂が49%（前回調査29%、前々回49%）、次に自宅が19%（前回54%、前々回18%）、自宅から弁当持参が14%（前回項目なし）、弁当等を購入が12%（前回7%、前々回13%）の順となった。昼食の利用・場所についても、コロナ禍の前回調査時期を経て、前々回調査と同様の結果に戻っている。すなわち、前回調査では、自宅での昼食が最も多く半数を超えたが、今回調査では学内の食堂利用が最も多く約半数を占めていた。なお、学部ごとにみると、常三島地区の学部学生において、自炊して自宅で食べる割合が比較的多い傾向が見受けられる。



第5章 学生生活上の問題点

5-1 大学生生活の意義 (図5-1①~図5-1③)

【項目間の比較】(図5-1①)

どの学部・学科共、第1位は「勉強や研究」であり(36-55%)、全体の平均値は、前回調査の値より3%低い45%である。前回調査の値よりも少し低下したのは、コロナ感染拡大の収束によって、勉強や研究以外の活動が再開されたことによると推察されるが、それでも学生が本分としての勉強や研究を最も重視していることが伺える。第2位は「趣味・娯楽」、第3位は「豊かな人間関係を結ぶこと」および「明確な目的はない」となり、前回調査と同じ結果であった。第2位と第3位までは僅差であり、学生は個人活動を重視しつつも、他者との関わりにも重きを置いていることが伺われる。

【学部・学科・学年間での比較】(図5-1①~図5-1③)

「勉強や研究」は、薬学部が55%で最も高かった。次いで、生物資源産業学部、理工学部夜間と続いている。専門性の高い職業に結びつきやすい学部・学科では学業への意識が高くなる傾向があり、その結果であると考えられる。また、総合科学部、歯学部、および生物資源産業学部では、他の学部・学科に比べて「豊かな人間関係を結ぶこと」の割合が高く、対人援助志向の高さとの関連の強さが伺える。

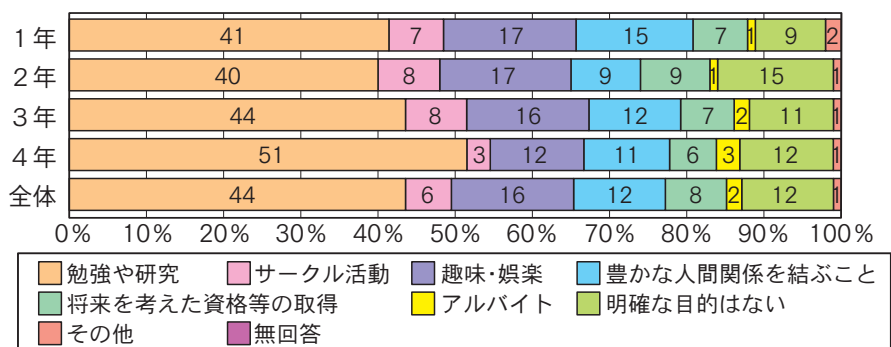
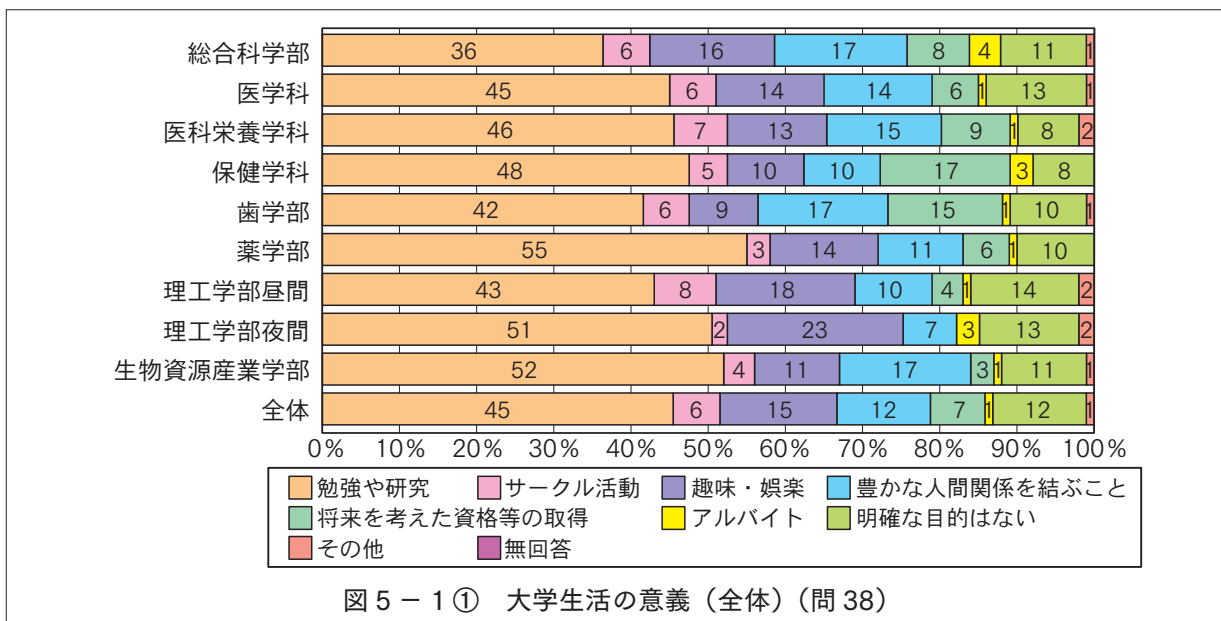
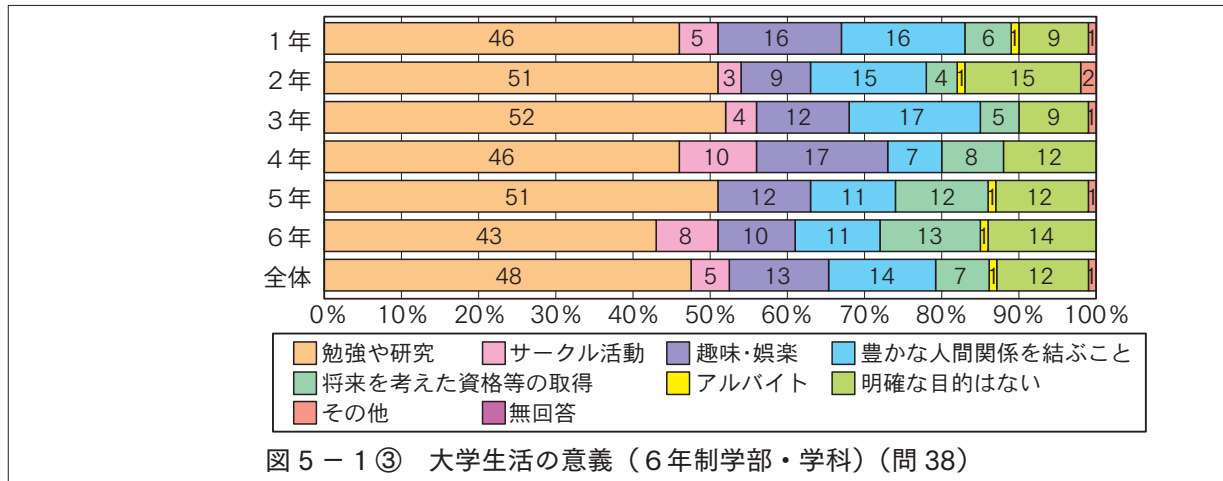


図5-1② 大学生生活の意義 (4年制学部・学科) (問38)

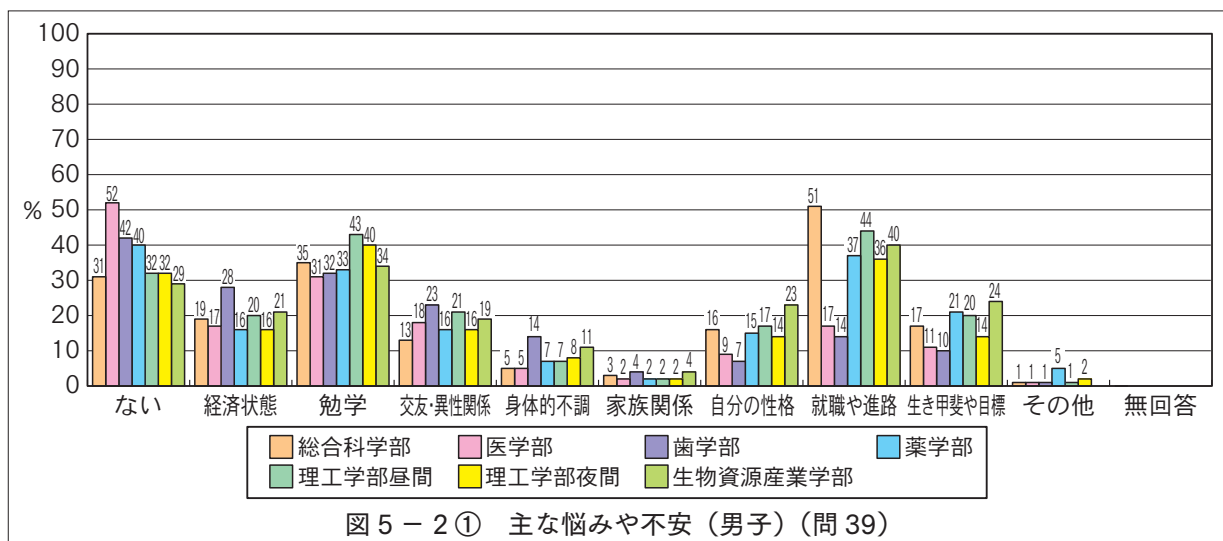
4年制では「勉強と研究」の割合は、前回調査と同様、一番高いのは4年生の51%であり、卒業研究や卒業論文に真摯に取り組んでいる結果と思われる。1・2・3年生は40 - 44%と同じ程度になっている。6年制では「勉強と研究」の割合は、前回調査で最も高かった3年生が今回も最も高かったが、63%から52%と大幅に低下した。これは、コロナ感染拡大状況が収束し、勉強と研究以外の活動が再開したことによると推察される。現に、2年生以外で「趣味・娯楽」の割合が高まっている。また、6年生では前回調査よりも「豊かな人間関係を結ぶこと」の割合が低下した。コロナ禍を経験して、価値観が変化したことが推察される。反対に3年生では、「豊かな人間関係を結ぶこと」の割合が前回調査よりも12%と大幅に増加しており、コロナ禍における自粛生活でなかなか拡げることが困難であった人間関係を拡げることへの意欲の高さが伺えた。



5 - 2 悩みと相談 (図 5 - 2 ①~図 5 - 2 ⑤)

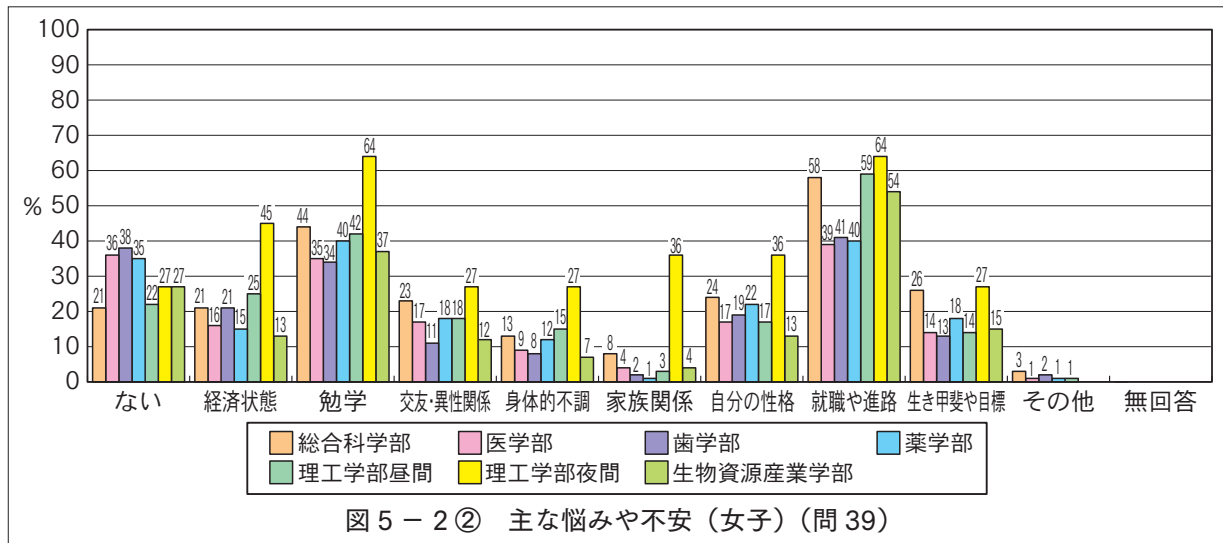
【主な悩みや不安】(図 5 - 2 ①~図 5 - 2 ③)

悩みや不安がないと回答した割合は全学部において男子の方が多かった。男子も女子も、「勉学」や「就職や進路」で悩んでいる者が多かった。国家試験で資格を得られる学部では、「就職や進路」に関する悩みや不安を持つ学生の割合が低い傾向が見られる。逆にこの割合が高いのは、理工学部夜間女子であり、約6割(64%)の者が将来の就職・進路に不安を感じており、次いで多い、理工学部昼間女子や総合科学部女子と合わせて、大学からのきめ細やかな支援が必要と思われる。また、理工学部夜間女子の

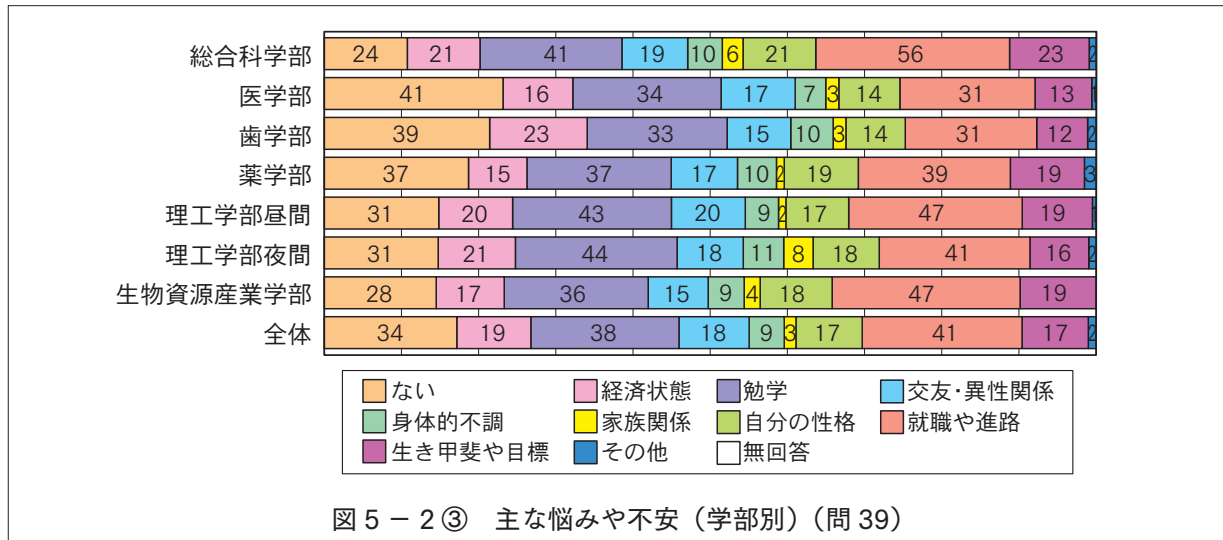


(※問 39 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

64%が「勉学」について悩みや不安を持っており、こちらも大学からのきめ細やかな支援が必要であろう。



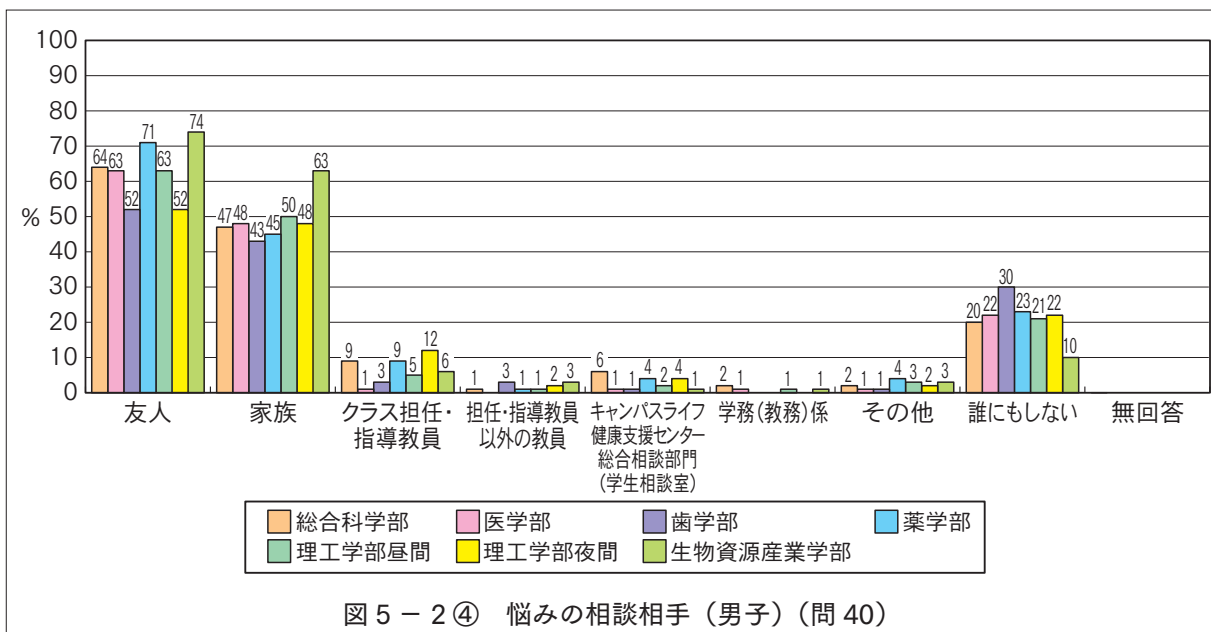
(※問 39 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)



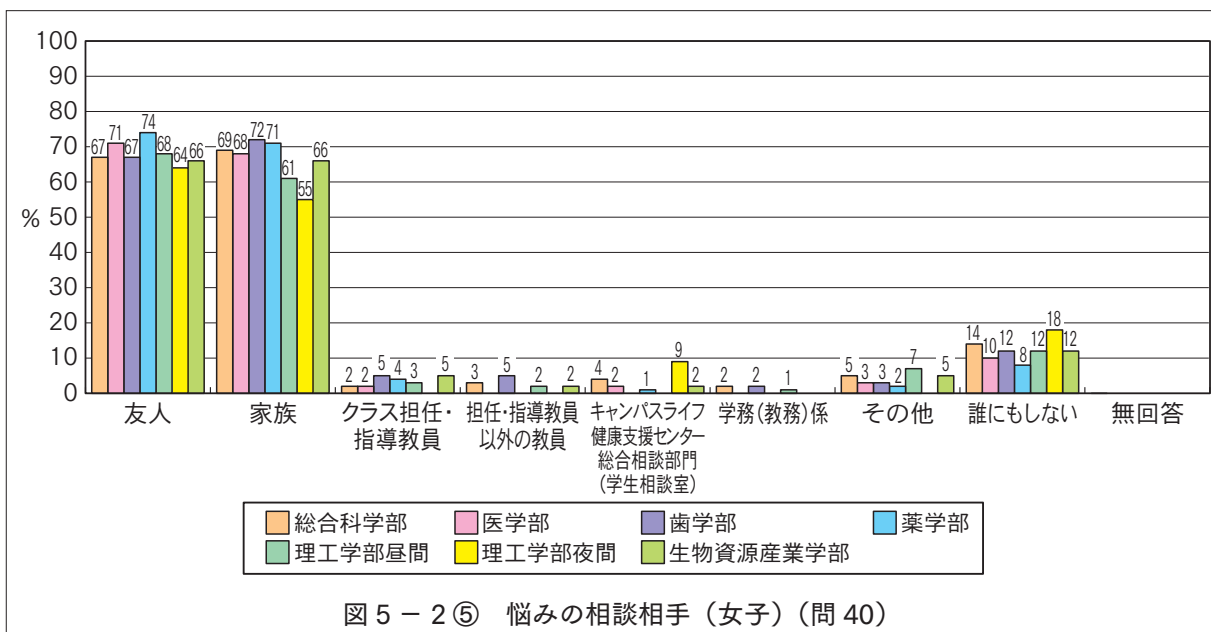
(※問 39 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

【相談相手】(図 5 - 2 ④, 図 5 - 2 ⑤)

男女ともほとんどの学部・学科にて第 1 位が友人，第 2 位が家族であり，生物資源産業学部以外の学部・学科では友人の割合が男子よりも女子が高かった。また，総合科学部女子と歯学部女子においては，友人よりも家族を選んでいる割合が高かった。クラス担任・指導教員と回答した割合は低い，その中では，総合科学部男子，薬学部男子，及び理工学部夜間が目立って高く，9%，9%，及び 12%であった。これらの学部において男子学生に対し，教員らによるきめ細かい対応が奏功していると思われる。男子の 21%と女子の 11%は誰にも相談しないと回答しており，前回調査と同様に，ある程度の学生が自力で悩みや不安を何とかしようとしている様子が伺われるが，解消できない場合も多いと思われるため，支援を要する学生を早めに見出し，悩みや不安の内容に応じて，部局教職員やキャンパスライフ健康支援センターにつないでいく体制を強固にすることが必要と思われる。



(※問 40 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

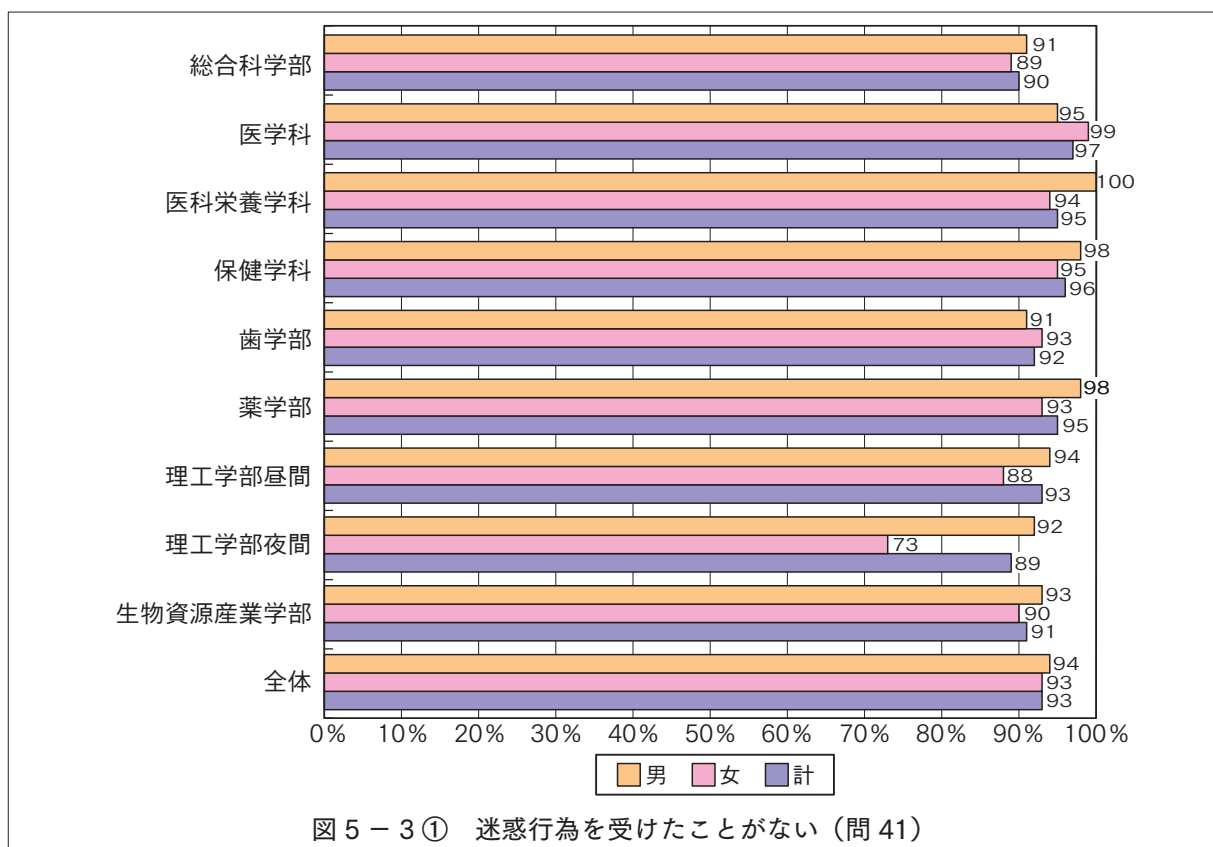


(※問 40 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

5 - 3 迷惑行為 (図 5 - 3 ①~図 5 - 3 ⑪)

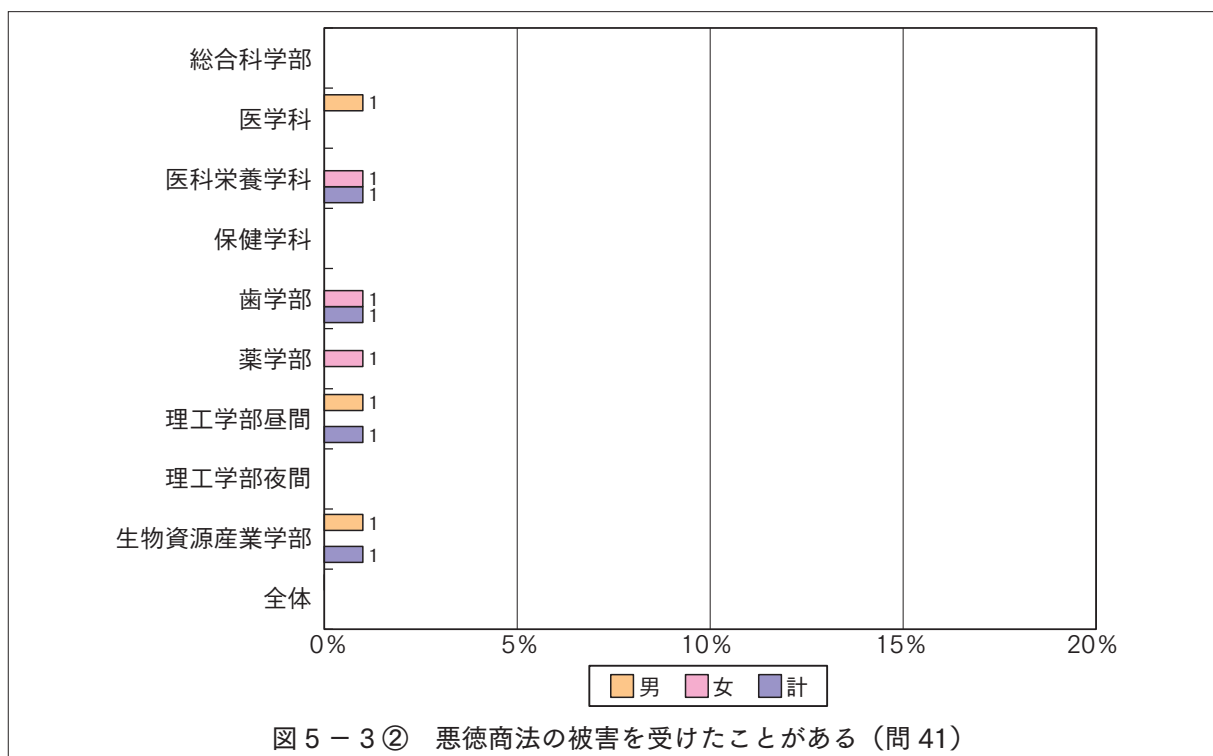
【迷惑行為全体】 (図 5 - 3 ①)

迷惑行為を受けていないと答えたのは、男子全体で 94%、女子全体で 93%と前回調査と同程度であった。コロナ禍が終わっても迷惑行為の被害が少ないままであるのは、学生らの安全意識の高さの現れであると推察される。



【悪徳商法】 (図 5 - 3 ②)

悪徳商法の勧誘を受けた学生は全体の1%未満であり、前回調査で4%と高かった保健学科男子も0%に低下しており、前回調査時よりも予防対策を強化していると推察される。



【いたずら電話】(図5-3③)

全体の1%の学生がいたずら電話を受けたと答えている。前回調査では4%や3%の被害率を示している学部がいくつか見られたが、今回調査では、理工学部夜間男子の6%を除いて低い水準にとどまっている。学生の音声通信環境の安全性が高まっていると考えられる。

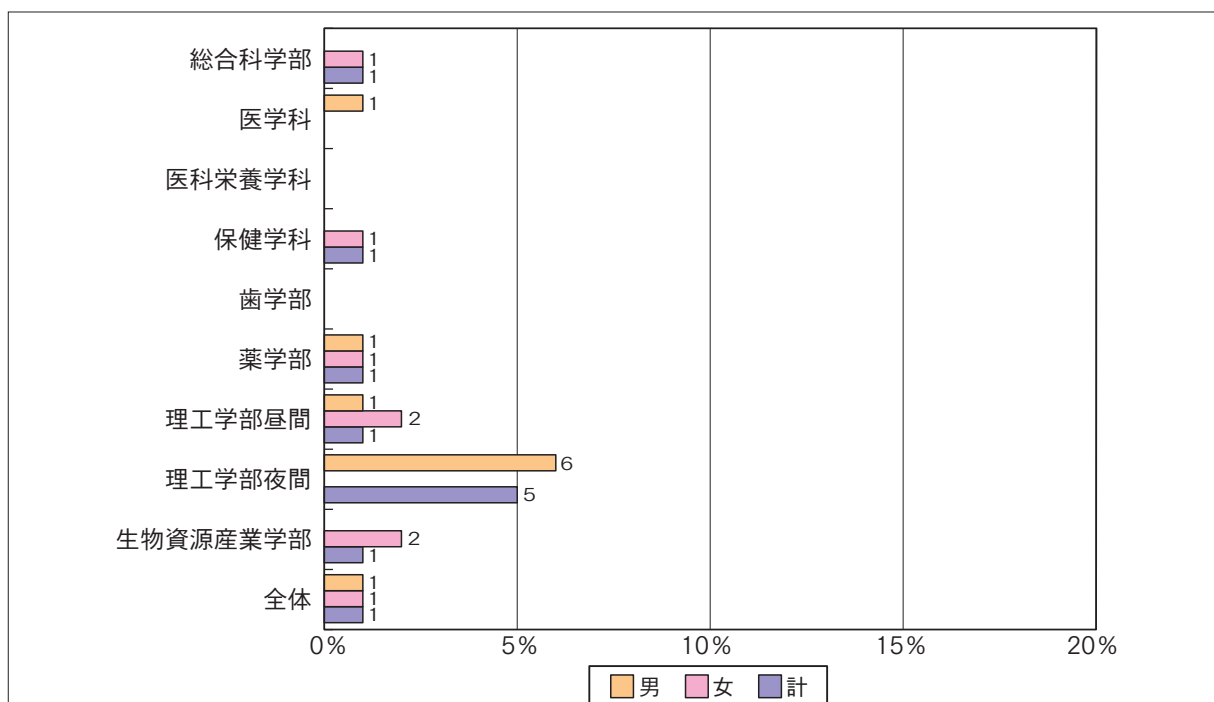


図5-3③ いたずら電話の被害を受けたことがある (問41)

【ストーカー】(図5-3④)

前回調査同様、全体で1%であった。前回調査では歯学部女子で5%と高かったが、今回調査では、理工学部夜間女子が18%と目立って高かった。夜間における活動が多い傾向にある女子学生への注意喚起を強化することが求められる。

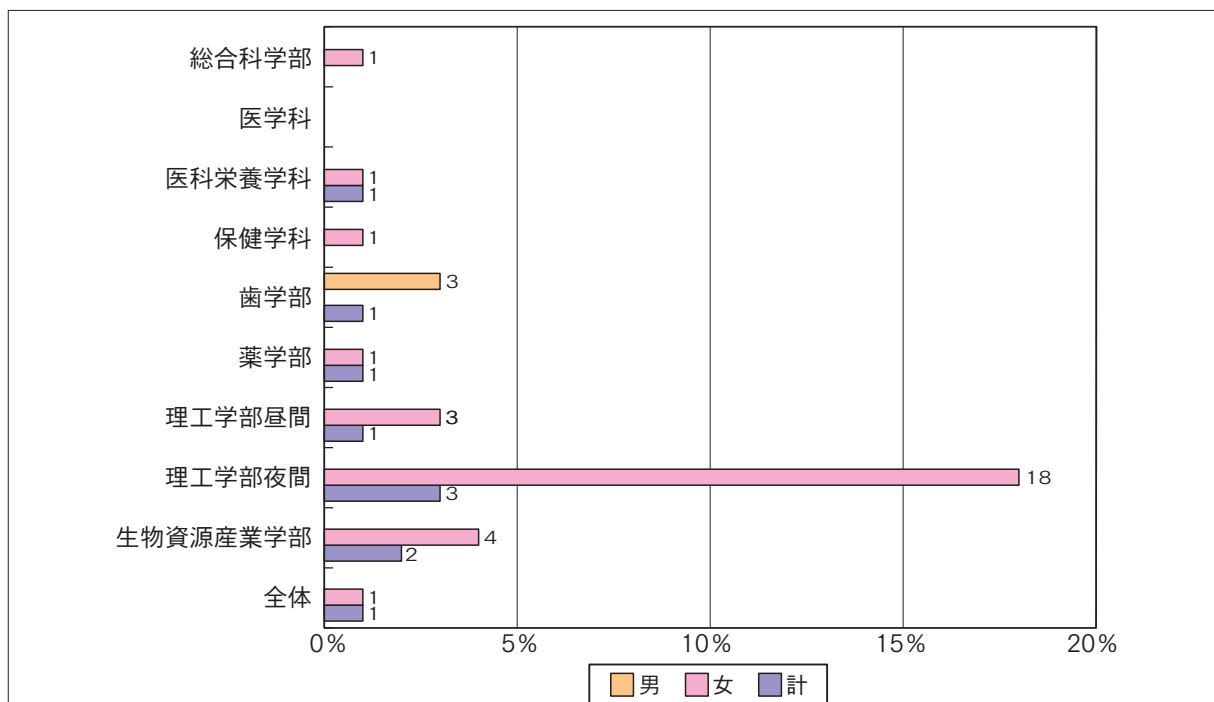


図5-3④ ストーカーの被害にあったことがある (問41)

【大学内でのセクハラ】(図5-3⑤)

全体で「大学内でセクハラの被害にあったことがある」と回答した者は1%と、前回調査と似たような結果となった。引き続き、セクハラ予防啓発活動は行う必要はあるが、コロナ禍が収束して対人接触が多くなったにも関わらず、被害が増加しなかったのは、学生の修学環境の安全性が高まっているからであると推察される。

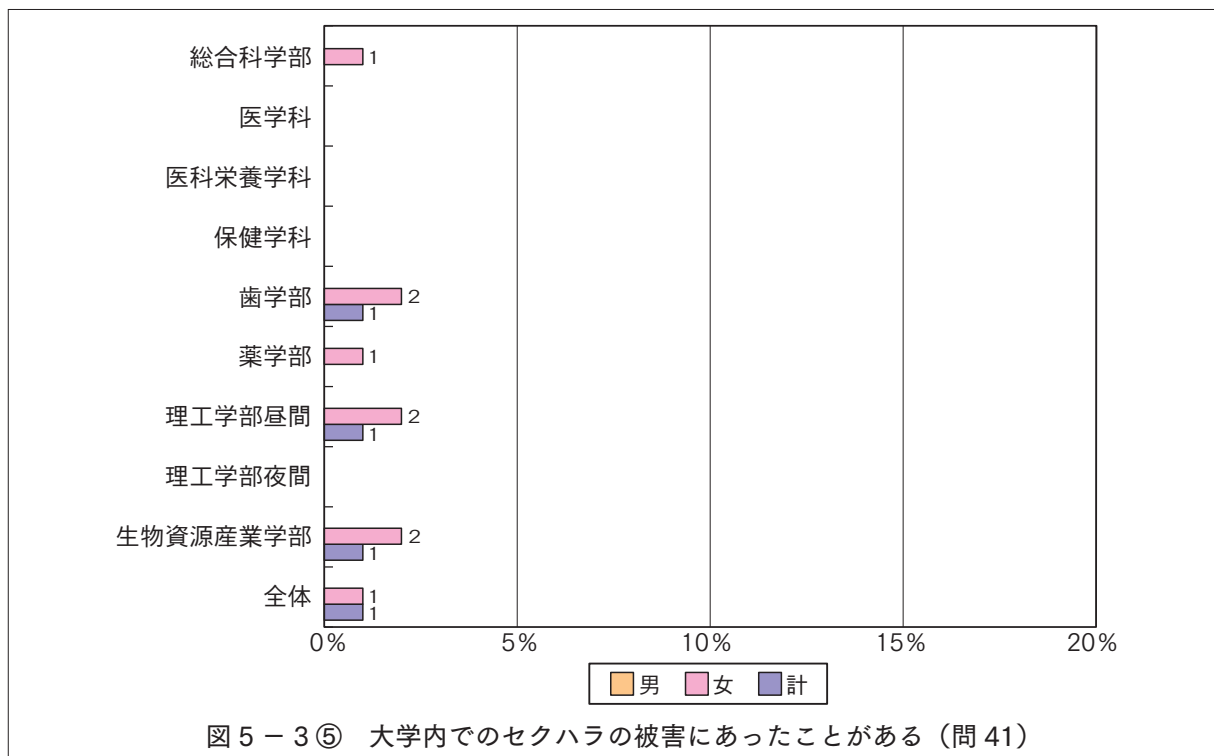


図5-3⑤ 大学内でのセクハラの被害にあったことがある (問41)

【大学内でのアカハラ】(図5-3⑥)

こちらも、大学内でのセクハラ同様、全体では1%となった。ただ学部別で見ると、セクハラと比べて被害経験の割合が高いので、セクハラ同様に予防啓発活動を強化する必要がある。

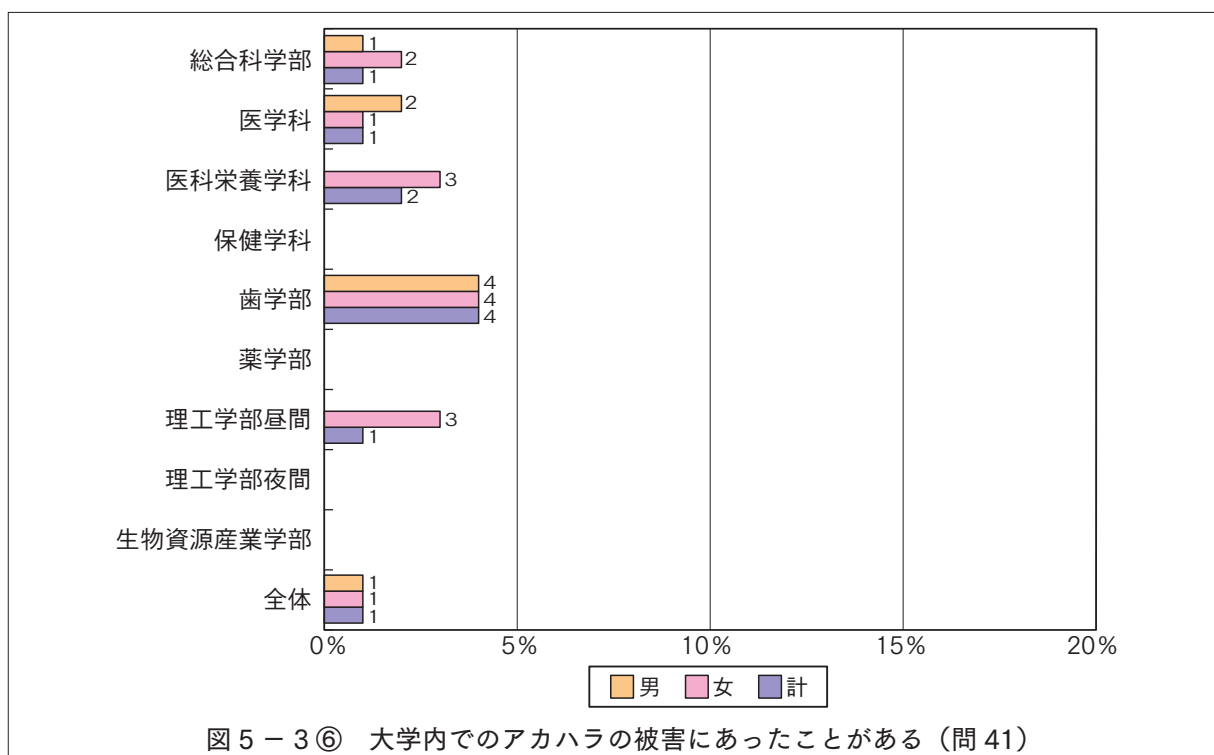
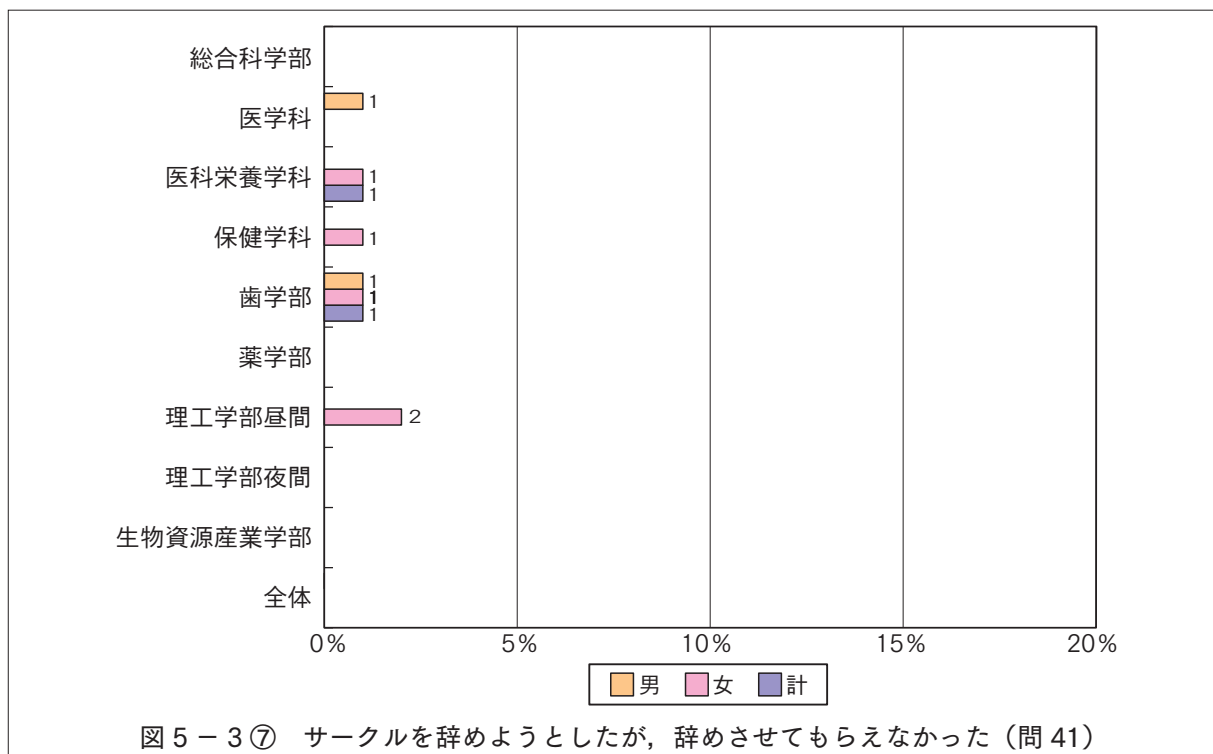


図5-3⑥ 大学内でのアカハラの被害にあったことがある (問41)

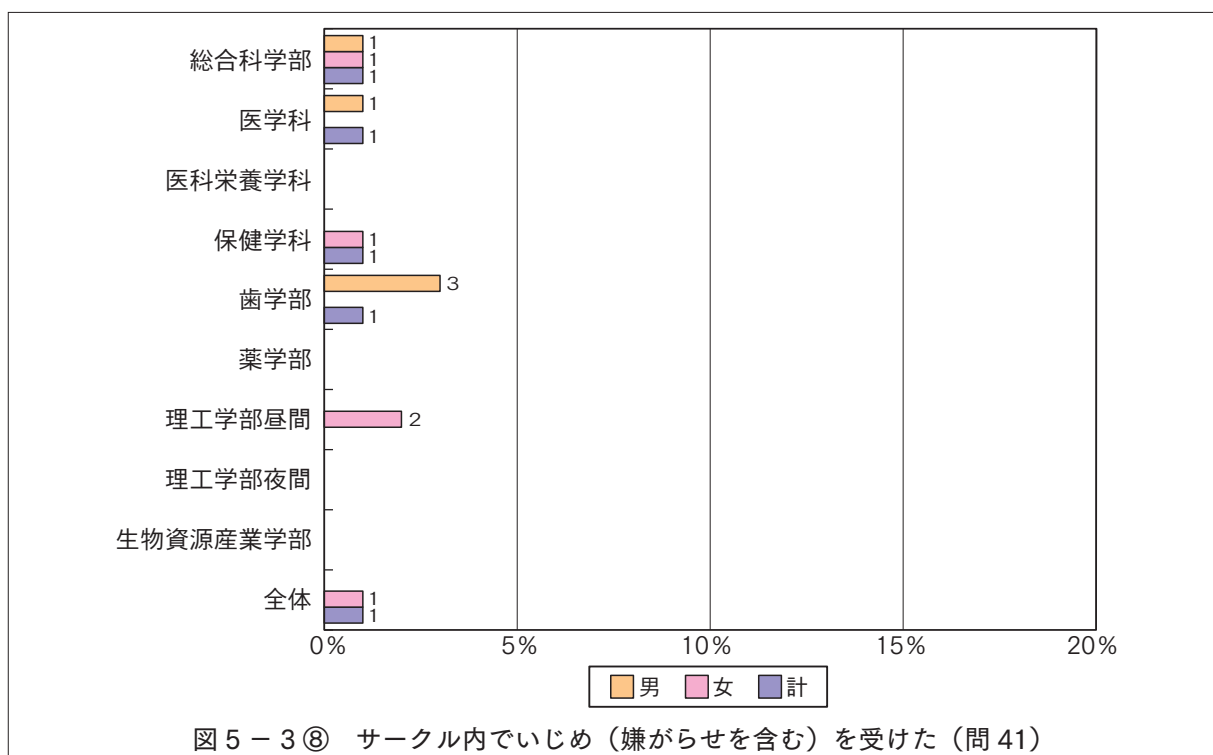
【サークル退部の阻止】（図5-3⑦）

前回調査と同様，サークルを辞めさせてもらえなかった割合は，全体で1%未満となり，学部間差も大きくない。引き続き学生の意向を尊重するようサークル活動の指導を行うことが肝要である。



【サークル内でのいじめ】（図5-3⑧）

サークル内でいじめを受けた割合は全体の1%と，前回調査よりも僅かに増加した。サークル活動・運営に関する指導の中にいじめや飲酒強要などの項目を引き続き盛り込み，予防に努めることが必要である。



【カルトの勧誘】（図5-3⑨）

全体の2%がカルトの勧誘を受けていると答え、前回調査よりも1%増加した。男子の方が女子よりも勧誘を受けた割合が高い。コロナ禍が収束して、社会活動が活発化したことが背景にあると考えられる。カルト勧誘は、様々な関連被害に繋がる潜在リスクを有しており、適切な啓蒙・予防対策を講じる必要がある。

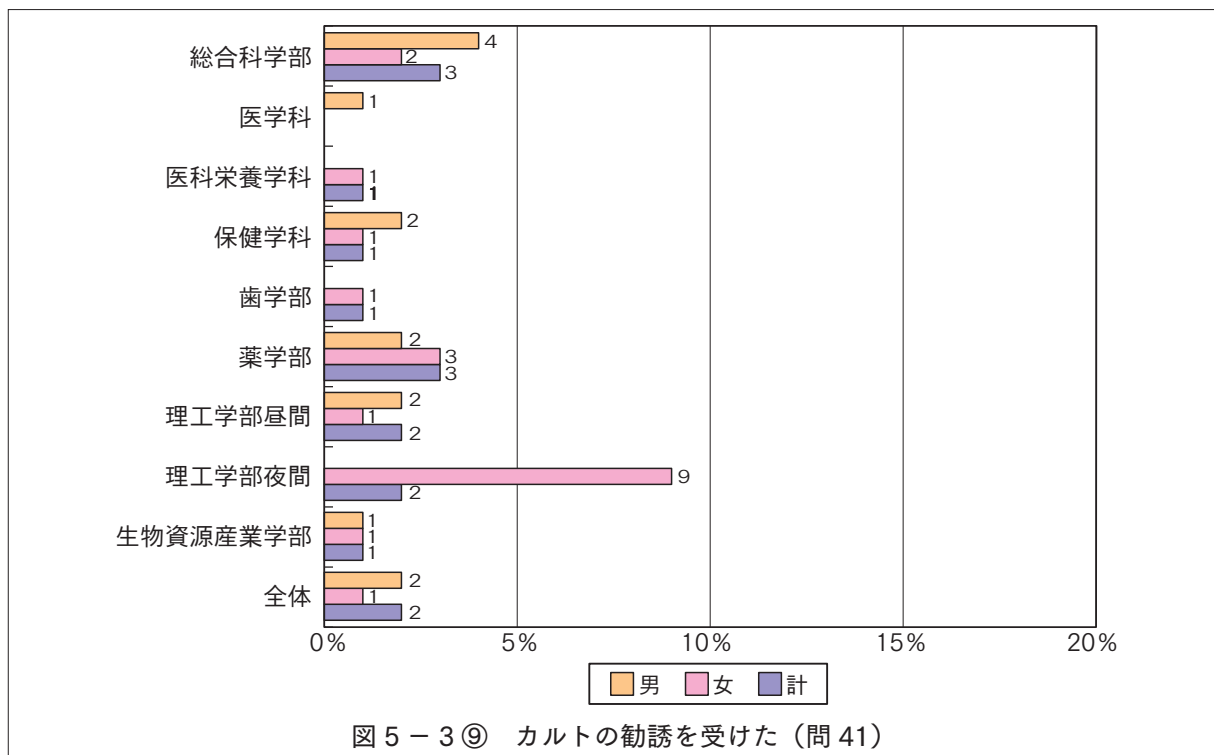


図5-3⑨ カルトの勧誘を受けた (問41)

【迷惑行為を受けた際の相談先】（図5-3⑩）

全体の傾向は第2位と第3位の順位が入れ替わり、友人が第1位、総合相談部門（総合相談室）が第2位となっている。前回調査では保健学科と歯学部で「友人」が100%であったが、今回調査では生物資源産業学部が100%であった。一方、薬学部では「学務（教務）係」が100%となっており、薬学部での手厚い支援が行われていることが伺える。また、全体では、総合相談部門（総合相談室）への相談が前回調査の10%から20%に上昇していた。これは、学生らの間で総合相談部門（総合相談室）の活

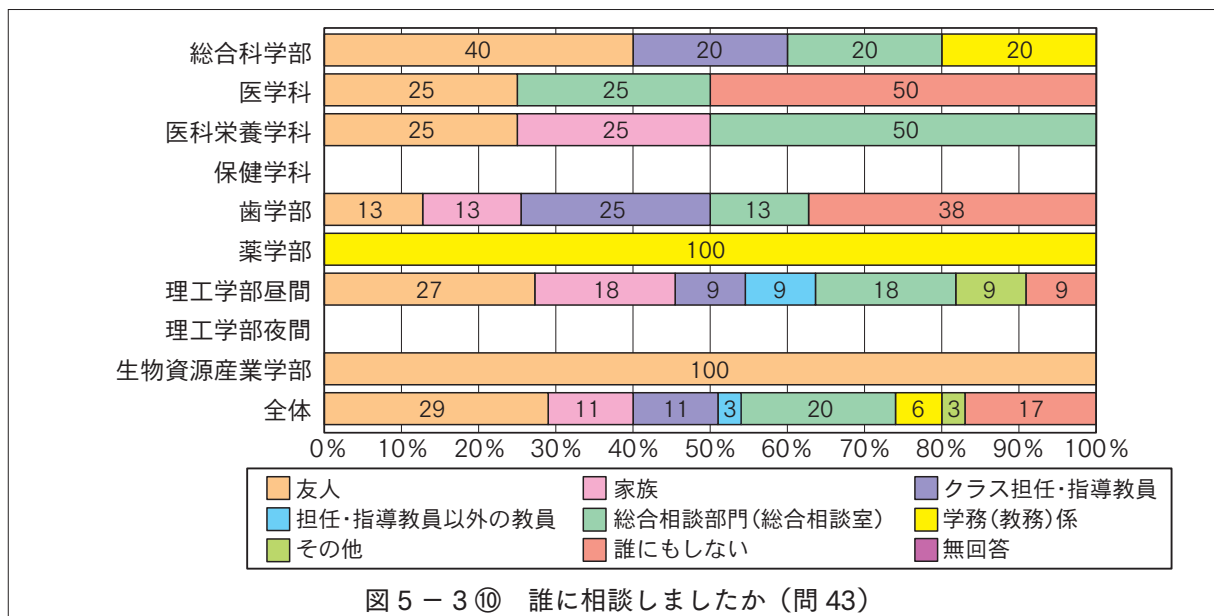


図5-3⑩ 誰に相談しましたか (問43)

用価値の認識が高まっていることを示していると考えられる。

【総合相談部門（総合相談室）】（図 5 - 3 ①）

「総合相談部門（総合相談室）を利用したことがある」と答えた学生は、前回調査同様、全体で11%であった。総合科学部が15%と高く、他の学部・学科も医学科、保健学科、及び歯学部以外は11%から14%とそれほど大きな差は見られない。どの学部・学科でも気軽に利用されている印象である。また、「総合相談部門（総合相談室）があるのを知らない」と答えた学生は、全体で20%であり、前回調査の21%より少し減少した。さらに周知させるために継続して広報することが求められる。

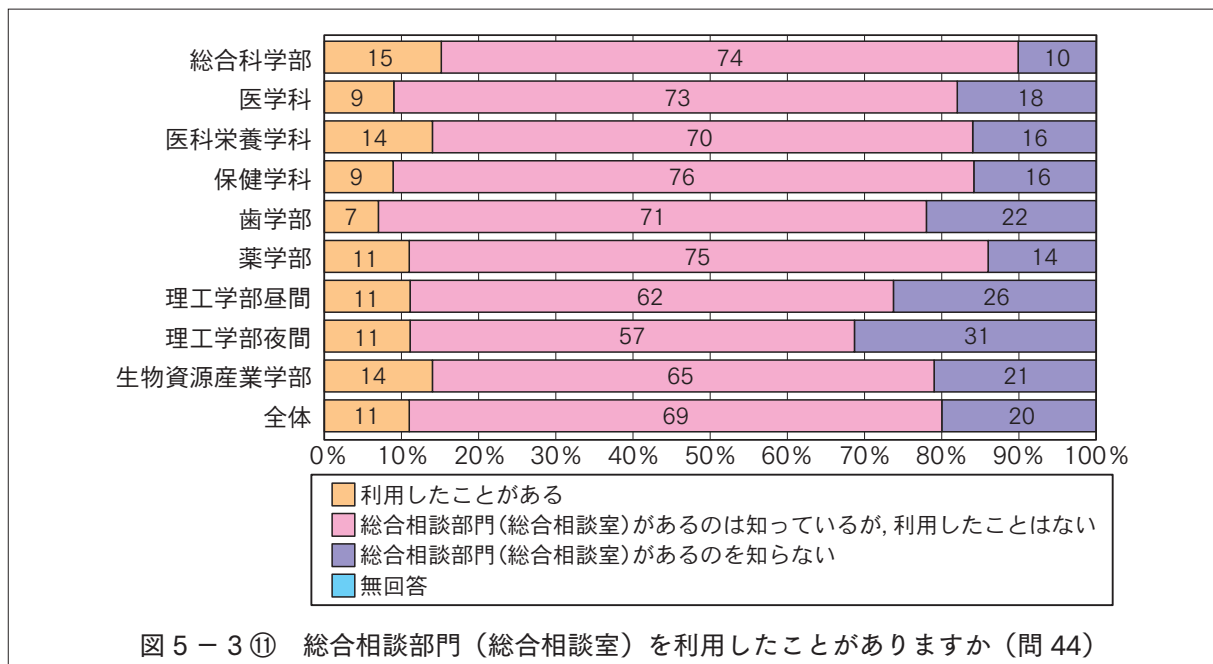


図 5 - 3 ① 総合相談部門（総合相談室）を利用したことがありますか（問 44）

5 - 4 大学事務室の対応への満足度（図 5 - 4）

全体では、「満足」と「ほぼ満足」とを合わせると87%であり、前回調査（84%）より3%高くなった。大学職員の丁寧な対応など職員による日々きめ細やかな対応の効果によると考えられる。「やや不満足」と「不満足」を合わせた割合は、全体で13%と低いが、満足度が相対的に低い学部・学科では改善策を検討する必要がある。

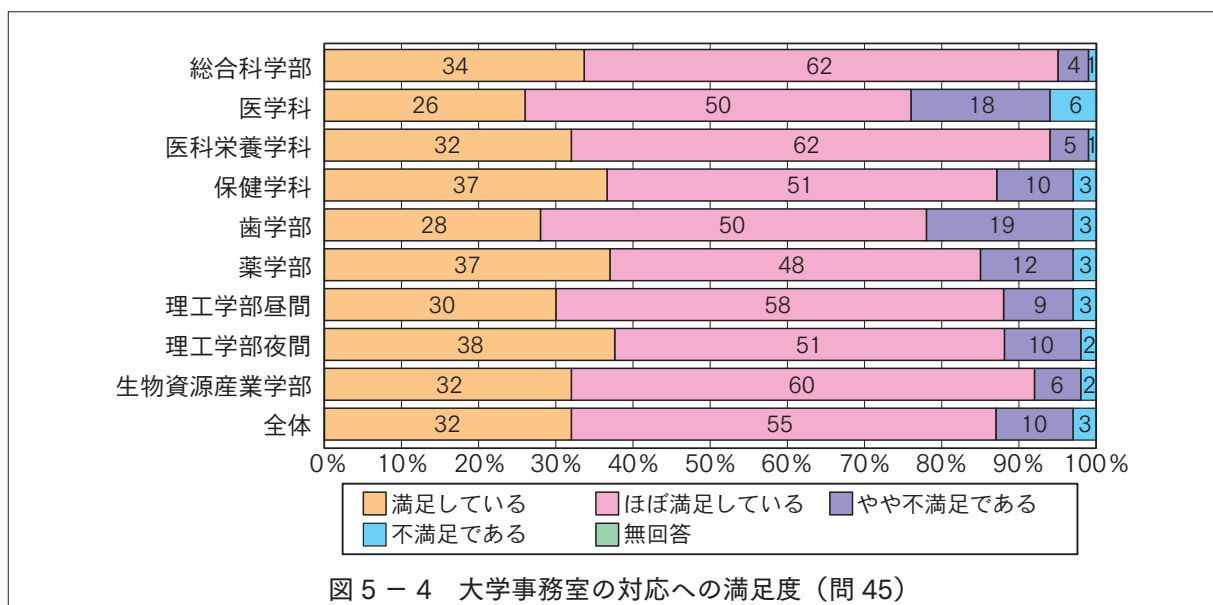
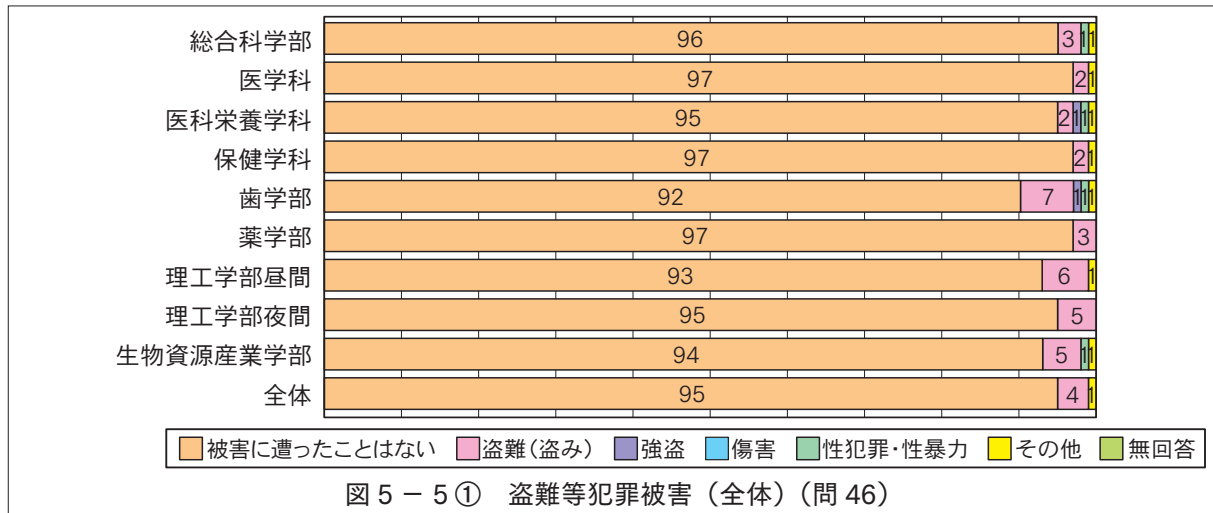


図 5 - 4 大学事務室の対応への満足度（問 45）

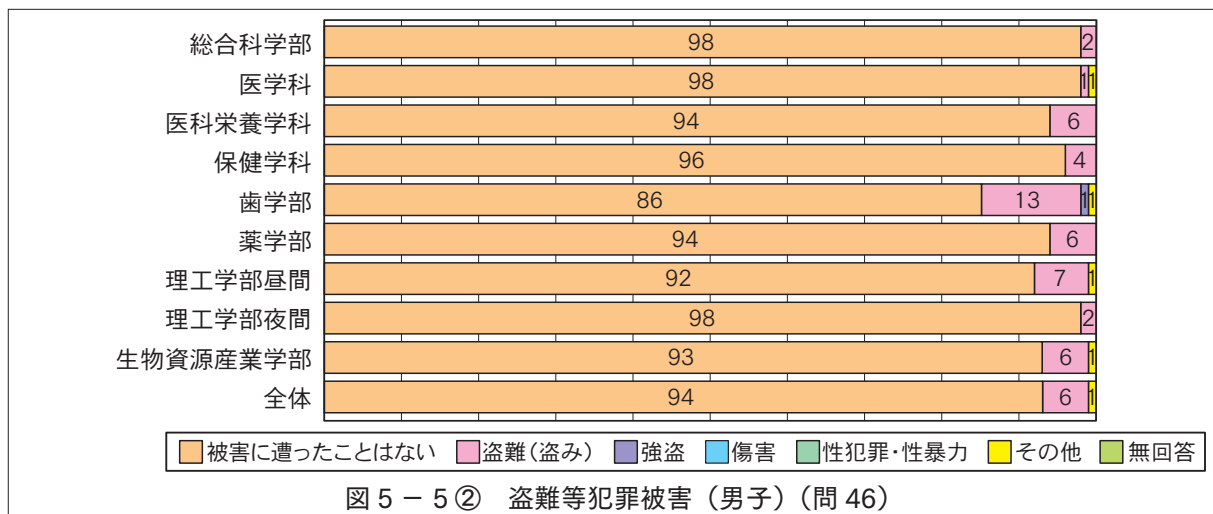
5-5 盗難等犯罪被害 (図5-5①~図5-5⑤)

【盗難等犯罪被害】(図5-5①~図5-5③)

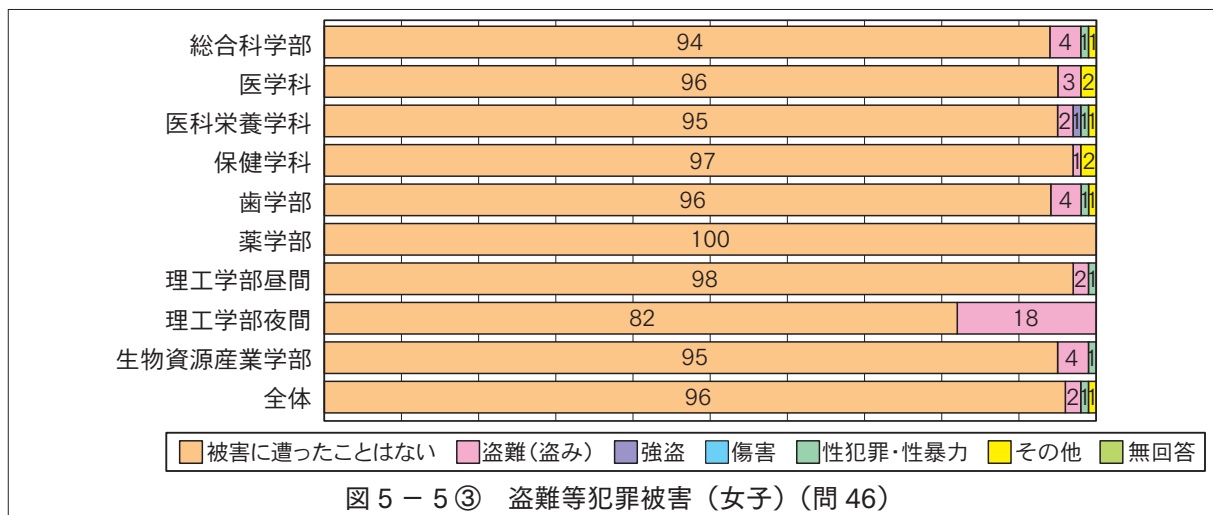
盗難の被害にあったと回答した学生は、前回調査の7%より減少し、4%であった。全体として男子が女子よりも被害にあった割合が高い。特に盗難(盗み)の被害が多いことから、盗難被害への自己防



(※問46は複数回答のため合計は100%にはならない。)



(※問46は複数回答のため合計は100%にはならない。)

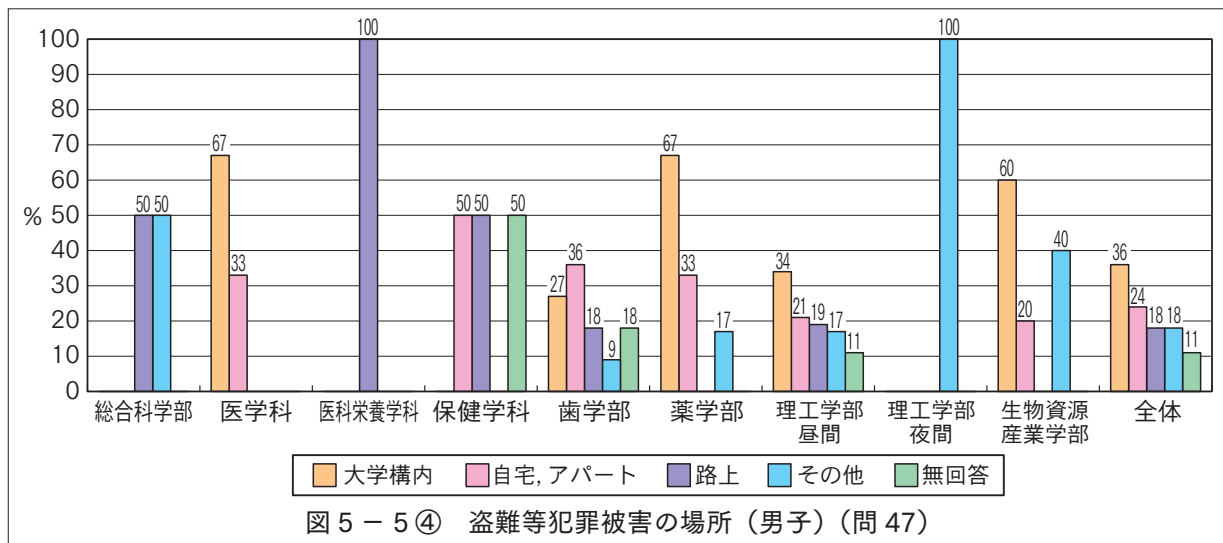


(※問46は複数回答のため合計は100%にはならない。)

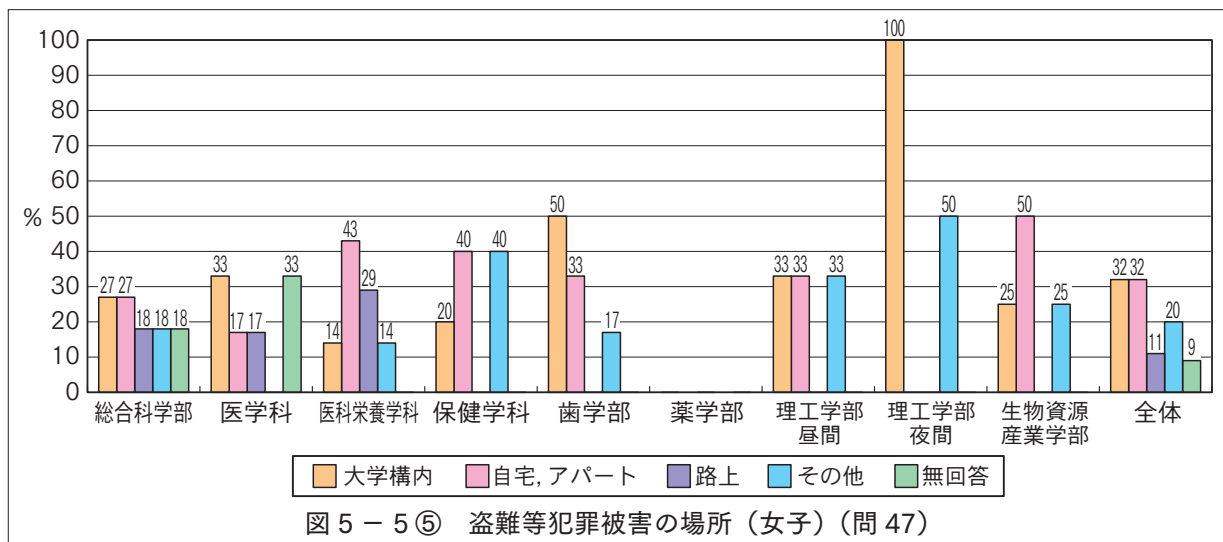
衛手段を強化するための注意喚起を十分に行うことが求められる。

【盗難被害場所】（図5-5④、図5-5⑤）

前回調査、前々回調査同様、大学構内と答えた割合が男女共、最も高かった。しかし、今回の調査では男子全体の36%、女子全体の32%と、前回調査と比べて男子は16%、女子は15%減少している。この減少は防犯教育効果によるものと考えられる。引き続き防犯教育を徹底することが求められる。また、大学構内で起こった盗難等犯罪被害については、即座に全学に通知し、注意を呼びかけて再発防止を図るべきである。また、大学には盗難等犯罪被害時の警察官の立入りに関するガイドラインが用意されている。学生委員会委員や学生支援の担当教職員が適切に犯罪被害に対応できるよう定期的な研修を行う必要がある。



（※問47は複数回答のため合計は100%にはならない。）



（※問47は複数回答のため合計は100%にはならない。）

第6章 修学状況について

6-1 本学を選んだ理由と所属学部への満足度 (図6-1①, 図6-1②)

本学を選んだ理由(複数回答可)は「国立大学だから」が最も多く(59%), 続いて「希望する学部・学科があったから」が54%, 「地元の大学だから」が28%となっており, 前回調査と同様の傾向である(図6-1①)。学部別に見ると, 総合科学部, 理工学部および生物資源産業学部では, 総合科学部: 66%, 理工学部昼間: 60%, 理工学部夜間: 64%, 生物資源産業学部: 63%と「国立大学だから」との回答が最も多い。一方, 歯学部は, 「希望する学部・学科があったから」と「国立大学だから」の回答はそれぞれ55%と54%とほぼ等しく, さらに, 医学部, 薬学部では「希望する学部・学科があったから」の回答がそれぞれ71%, 75%と最も多く, 医療系3学部では国家資格取得もあることから入学時における目的意識と国立大学への選択意識の高いことがうかがわれる。学部で比較した場合, 「国立大学だから」と回答した最も高い学部は, 総合科学部の66%, 「希望する学部・学科があったから」では薬学部の75%, 「地元の大学だから」は総合科学部の43%であった。

所属学部・学科に「満足している」と回答した学生は39%であり, 「ほぼ満足している」と答えた学

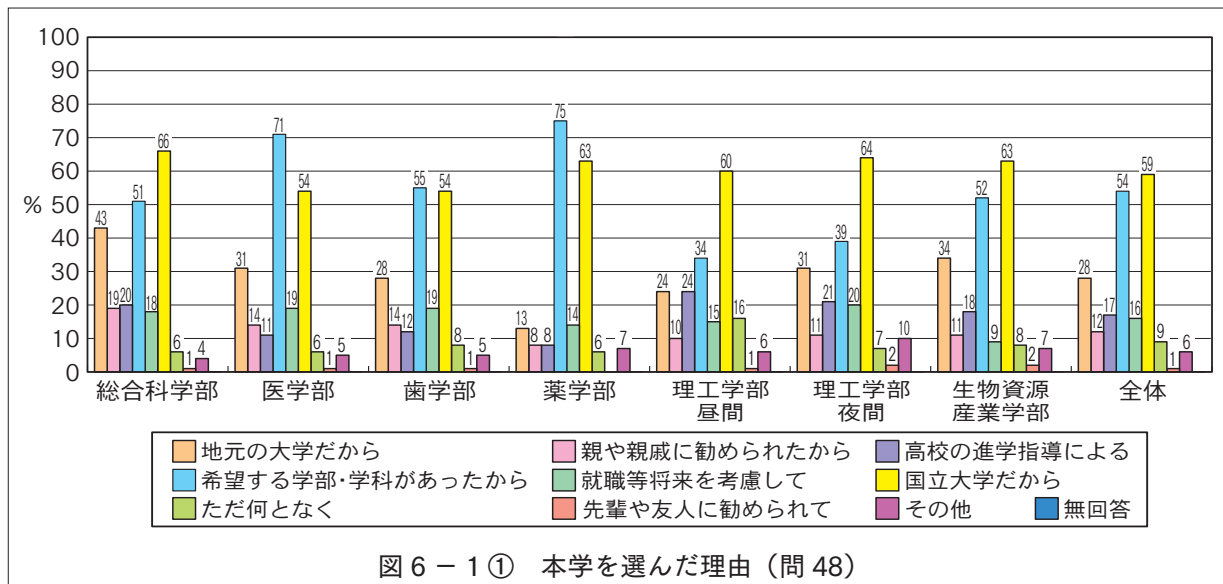


図6-1① 本学を選んだ理由 (問48)

(※問48は複数回答のため合計は100%にはならない。)

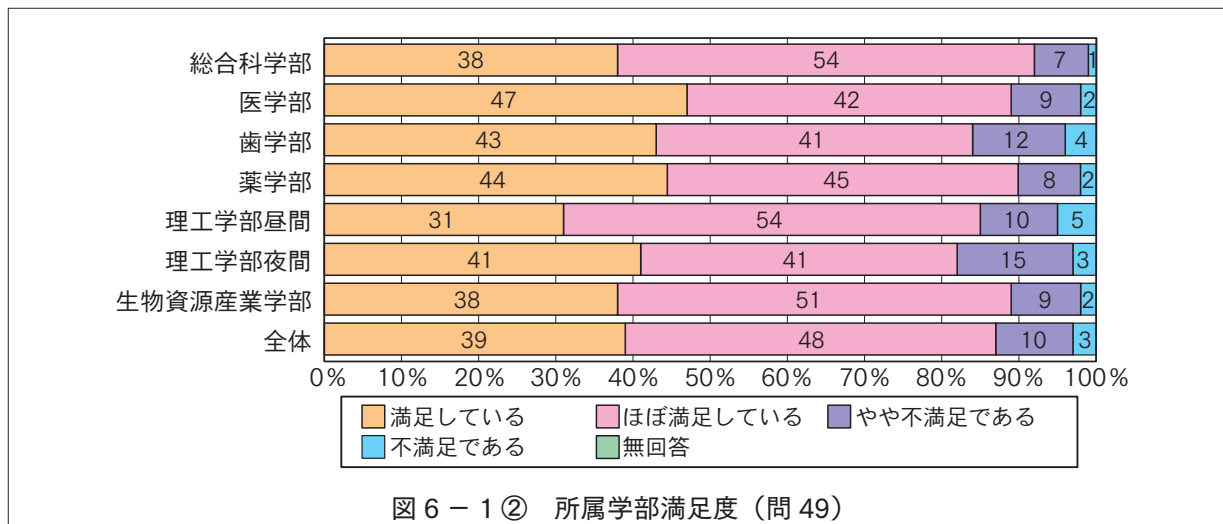
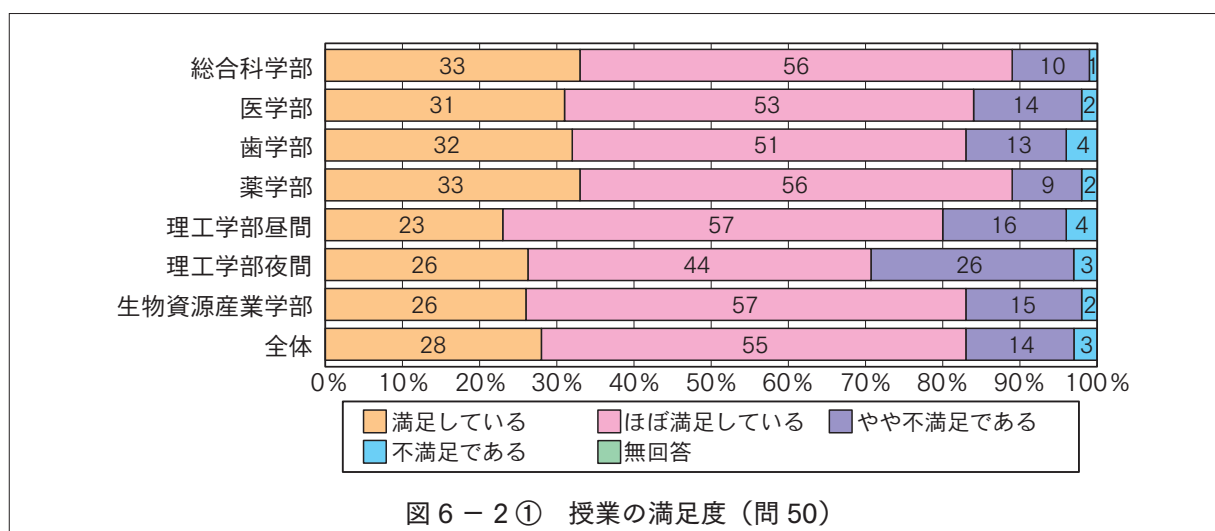


図6-1② 所属学部満足度 (問49)

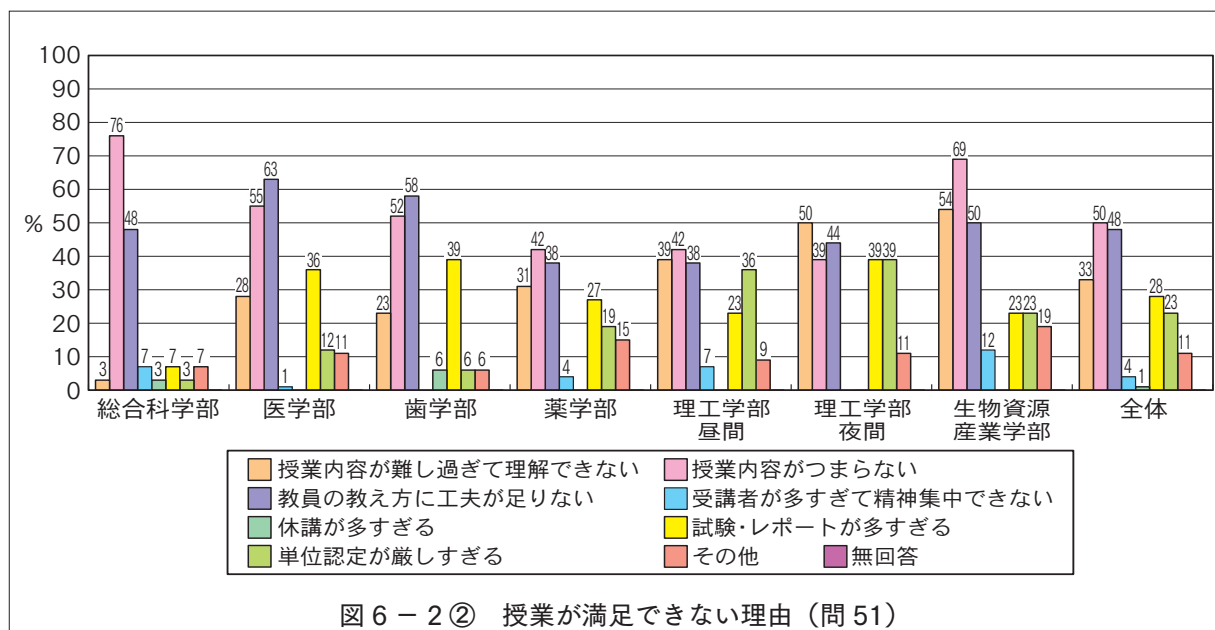
生（48%）と合わせて87%であった（図6-1②）。一方、「やや不満足である」は10%、「不満足である」は3%となっている。学部別に見た満足度（満足している+ほぼ満足している）は、総合科学部が92%と最も高く、次いで医学部、薬学部、生物資源産業学部の89%となっている。その他の学部も80%以上あり、概ね所属学部には満足していると言える。

6-2 授業の満足度（図6-2①，図6-2②）

受講している授業への満足度に対する設問に対しては、「ほぼ満足している」との回答（55%）が最も多く、続いて「満足している」が28%、「やや不満足である」が14%、「不満足である」が3%となっている（図6-2①）。学部別に見ると、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた回答は、理工学部夜間（70%）を除き、その他学部は80%以上が「ほぼ満足している」以上であると回答している。



授業が満足できない主な理由（複数回答可）は、「授業内容がつまらない」が最も多く（50%）、「教員の教え方に工夫が足りない」が48%、「授業内容が難しすぎて理解できない」が33%と、例年の調査と同様であった（図6-2②）。理由の中で最も高い回答を学部別に見てみると、総合科学部、薬学部、

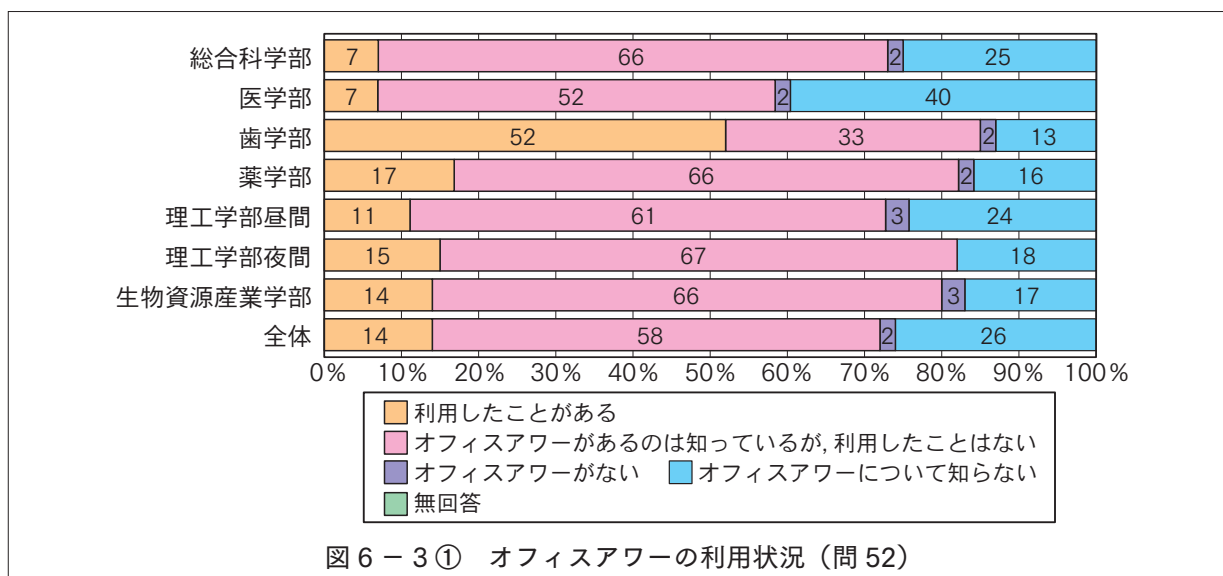


（※問51は複数回答のため合計は100%にはならない。）

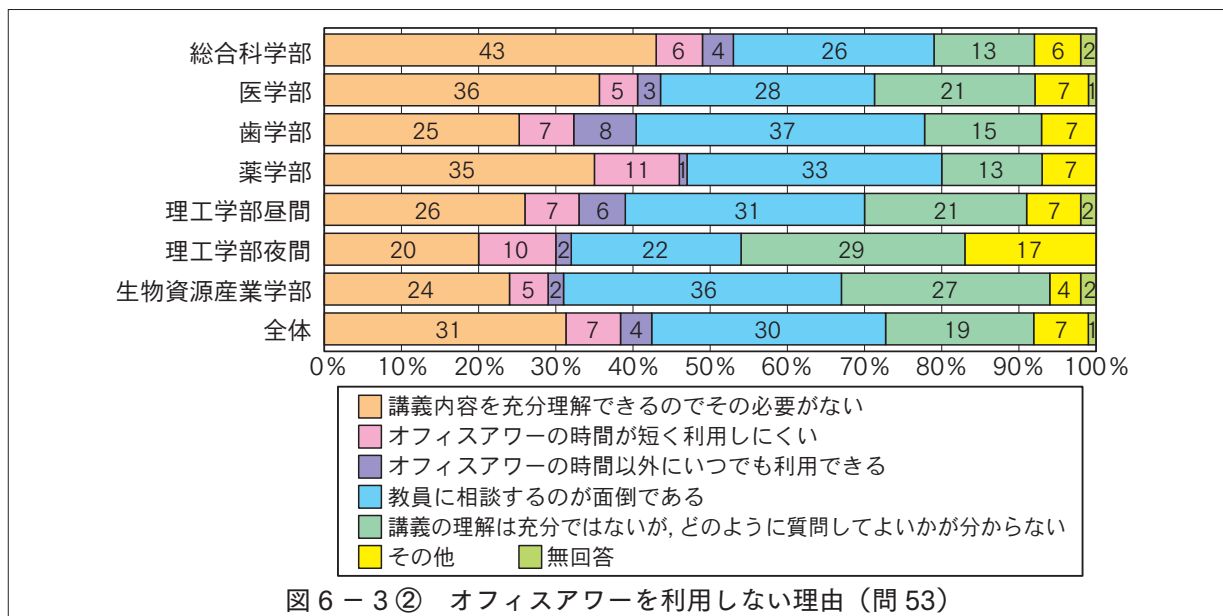
理工学部昼間、生物資源産業学部は「授業内容がつまらない」が高い回答を示し、「教員の教え方に工夫が足りない」については、医学部、歯学部であった。また、理工学部夜間では「授業内容が難し過ぎて理解できない」が最も高い回答となった（図6-2②）。

6-3 学修支援制度の利用状況（図6-3①，図6-3②，図6-3③）

オフィスアワーについては、わずか平均14%の学生が「利用したことがある」と答えている（図6-3①）。一方、「オフィスアワーについて知らない」と回答した学生は26%と、「利用したことがある」と答えた学生よりも多く、オフィスアワーの周知が進んでいないことがうかがわれ、周知へ向けた一層の取り組みが必要である。学部別に見ると、前回調査同様、総合科学部と医学部でのオフィスアワー利用状況が極端に低い（両学部とも「利用したことがある」は7%）。一方、歯学部では52%の学生がオフィスアワーを「利用したことがある」と回答しており、他学部と比較すると高い利用状況である。

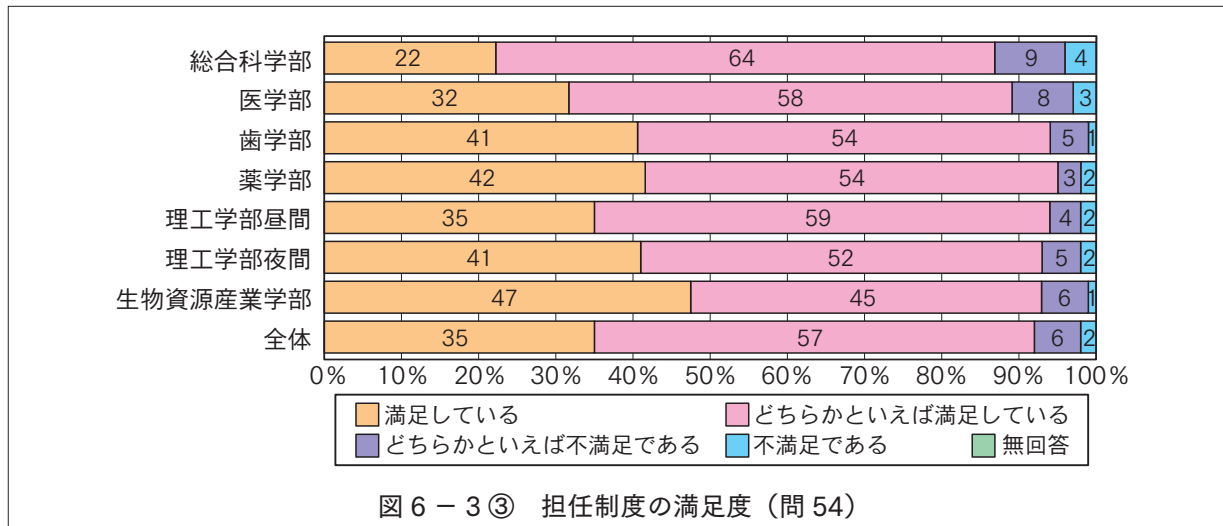


オフィスアワーを利用しない理由として、「講義内容が充分理解できるのでその必要がない」が平均31%、「教員に相談するのが面倒である」平均30%、「講義の理解は充分ではないが、どのように質問してよいか分からない」が平均19%と例年の調査と同様の傾向となっている（図6-3②）。毎回指



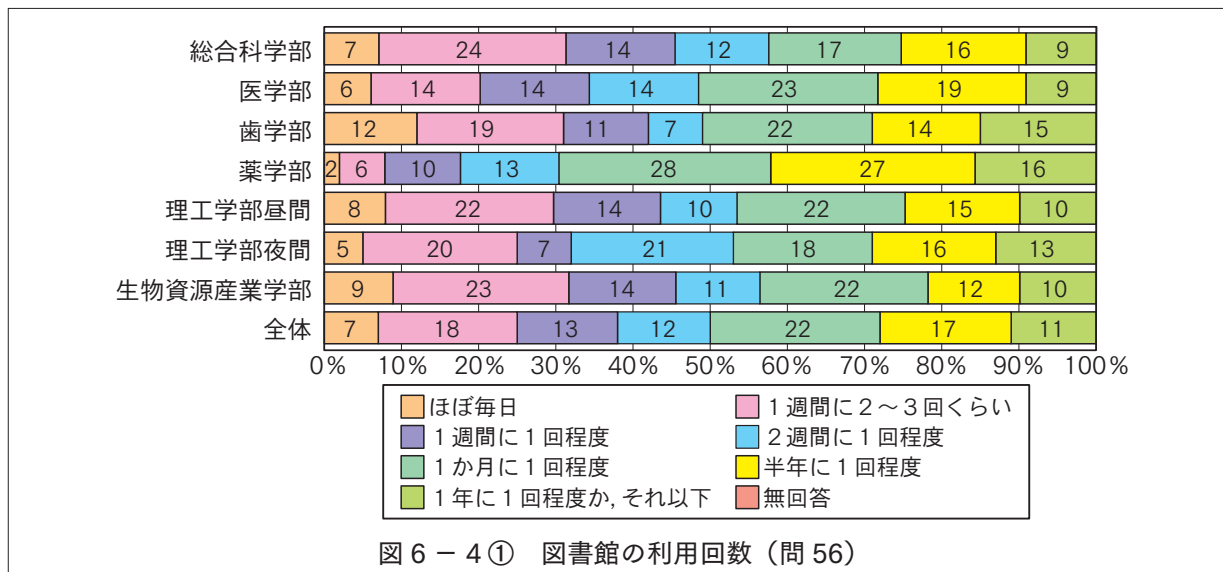
摘があるように、学生が相談しやすい環境づくりなどオフィスアワーの利用改善に向けた取組が必要である。

全学的に進められているクラス担任制において、「どちらかといえば満足している」との回答（57%）が最も多く、続いて「満足している」が35%、「どちらかといえば不満足である」が6%、「不満足である」が2%となっている（図6-3③）。学部別に見ると、40%以上が「満足している」と回答した学部は、歯学部（41%）、薬学部（42%）、理工学部夜間（41%）および生物資源産業学部（47%）であった。



6-4 図書館の利用状況 (図6-4①, 図6-4②, 図6-4③)

図書館を1週間に1回以上利用する学生は38%（毎日：7%、週2～3回程度：18%、週1回程度：13%）であり、学部別に見ると、薬学部（18%）、理工学部夜間（32%）、医学部（34%）が平均より下回っている（図6-4①）。令和3年度には図書館を1週間に1回以上利用する学生が24%であったことと比較すると、コロナ禍が収束し、図書館の利用率が大幅に改善したことがわかる。



図書館を利用する理由（複数回答可）としては「自習」（78%）が最も多く、次いで「図書等の貸し出し」が34%で、「図書の閲覧やコピー」が17%、「授業等の間の時間調整」が16%、「グループ研究（学習）」が10%、「パソコンの利用」が7%であり、各学部とも同様の傾向であった（図6-4②）。学生の多様なニーズに対応したサービスが充実していることが伺える。

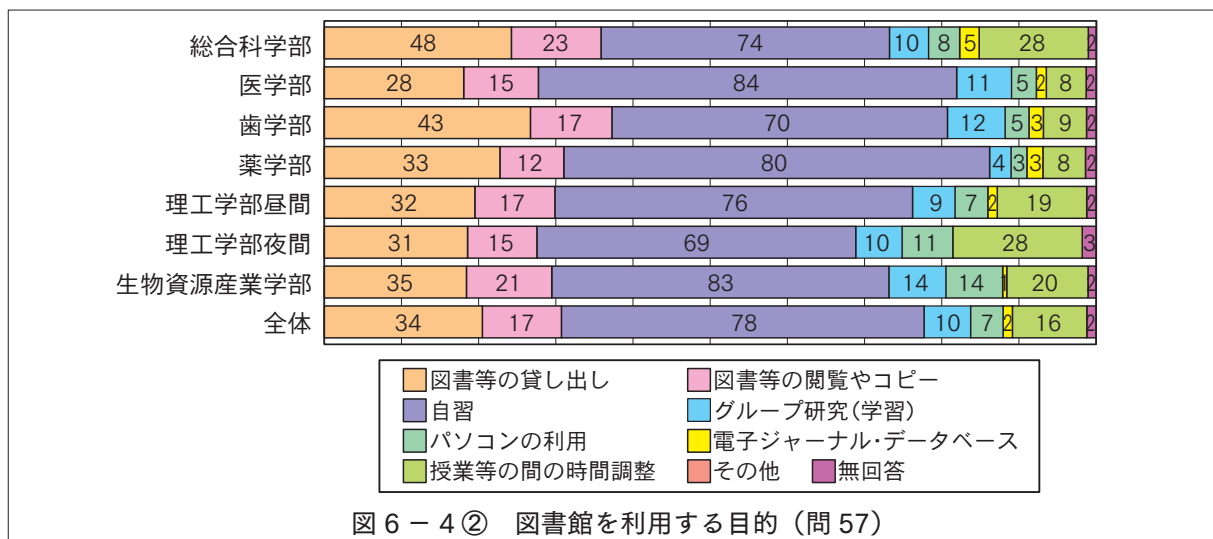


図 6 - 4 ② 図書館を利用する目的 (問 57)

(※問 57 は複数回答のため合計は 100%にはならない。)

図書館のサービスに対する満足度としては、「どちらかといえば満足している」との回答 (50%) が最も多く、続いて「満足している」が 47%, 「どちらかといえば不満足である」が 3%, 「不満足である」が 1%となっており、各学部とも同様の傾向であった (図 6 - 4 ③)。

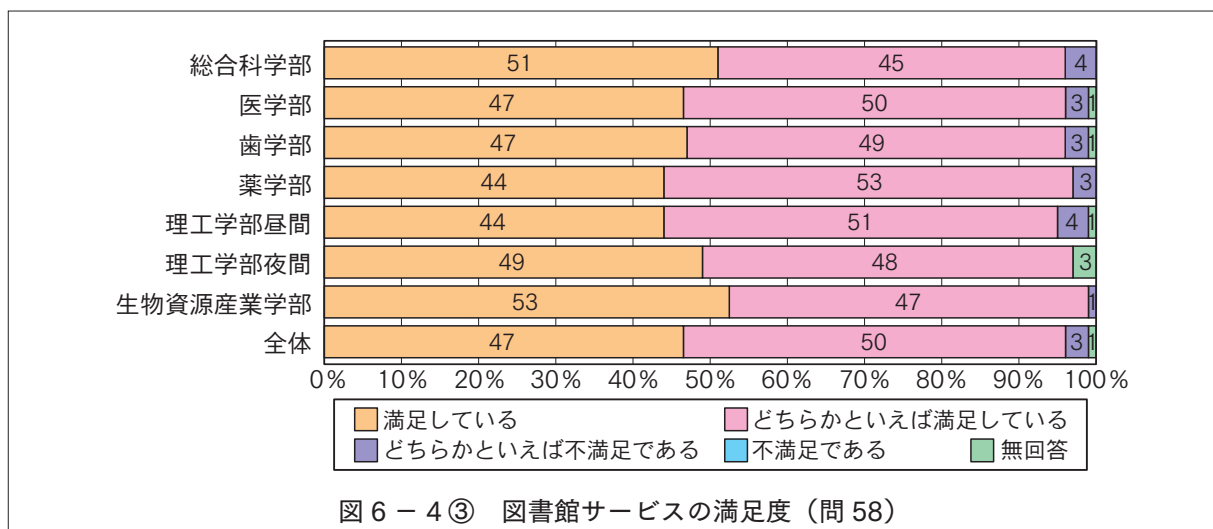


図 6 - 4 ③ 図書館サービスの満足度 (問 58)

第7章 課外活動について

7-1 サークル加入状況 (図7-1①~図7-1③)

回答者2,328名のサークル加入状況をまとめた結果、学内の文化系サークル加入率が21%（男子18%、女子25%）、学内の体育系サークル加入率が38%（男子36%、女子39%）であった、前回の調査と比較すると、文化系が5%増加し、体育系が4%減少しており、全体では1%の減少となった。男女の加入比率は、前回と同様、文化系・体育系双方とも女子が男子より高かった。学内のサポート系サークル加入率は前回と同様で2%だった。

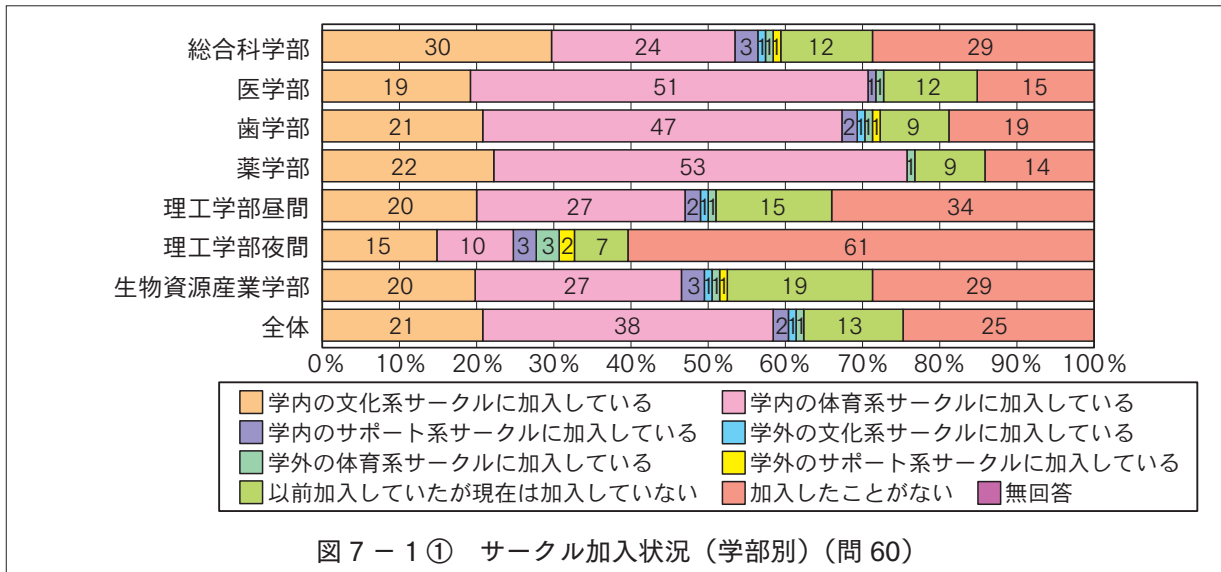


図7-1① サークル加入状況 (学部別) (問60)

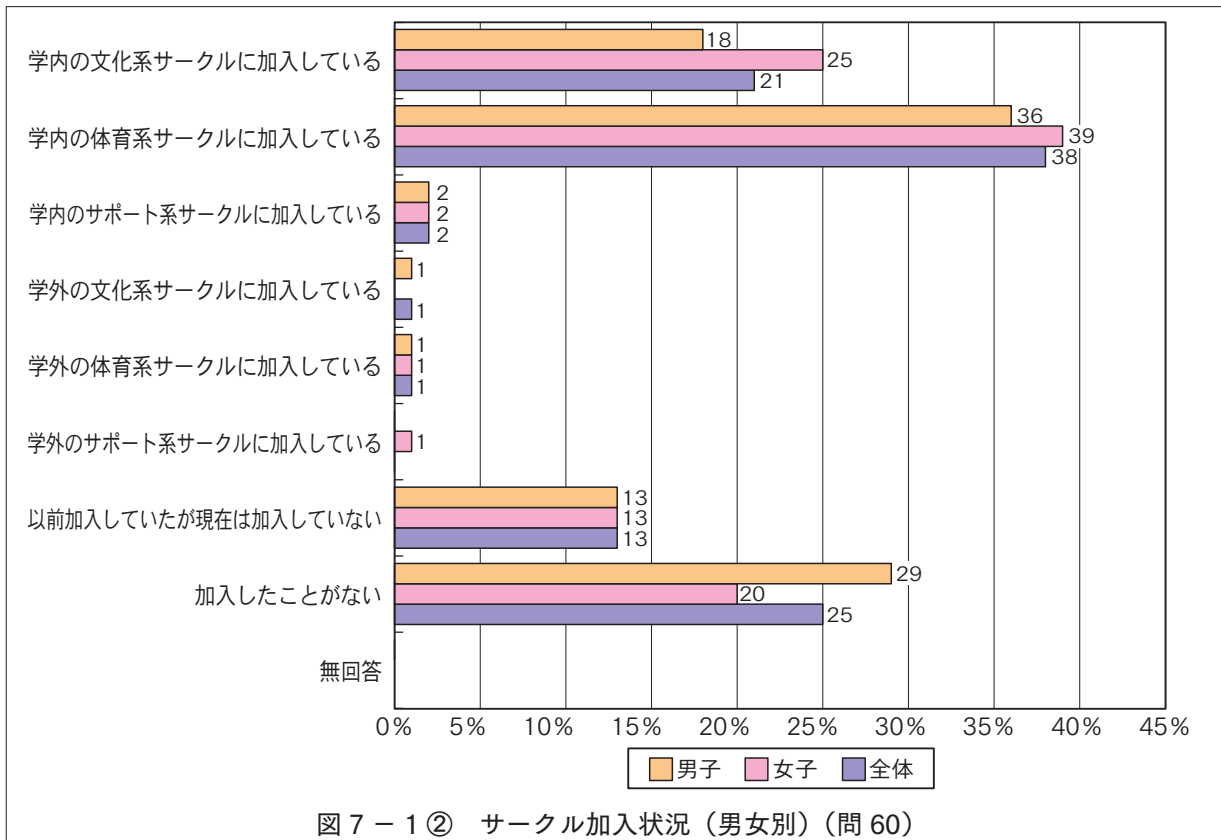
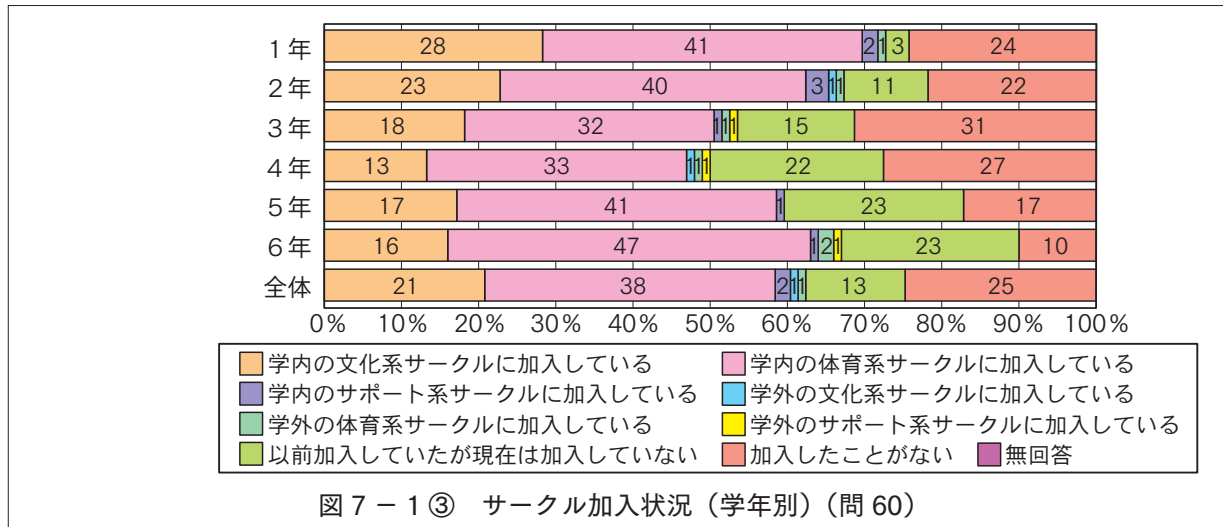


図7-1② サークル加入状況 (男女別) (問60)

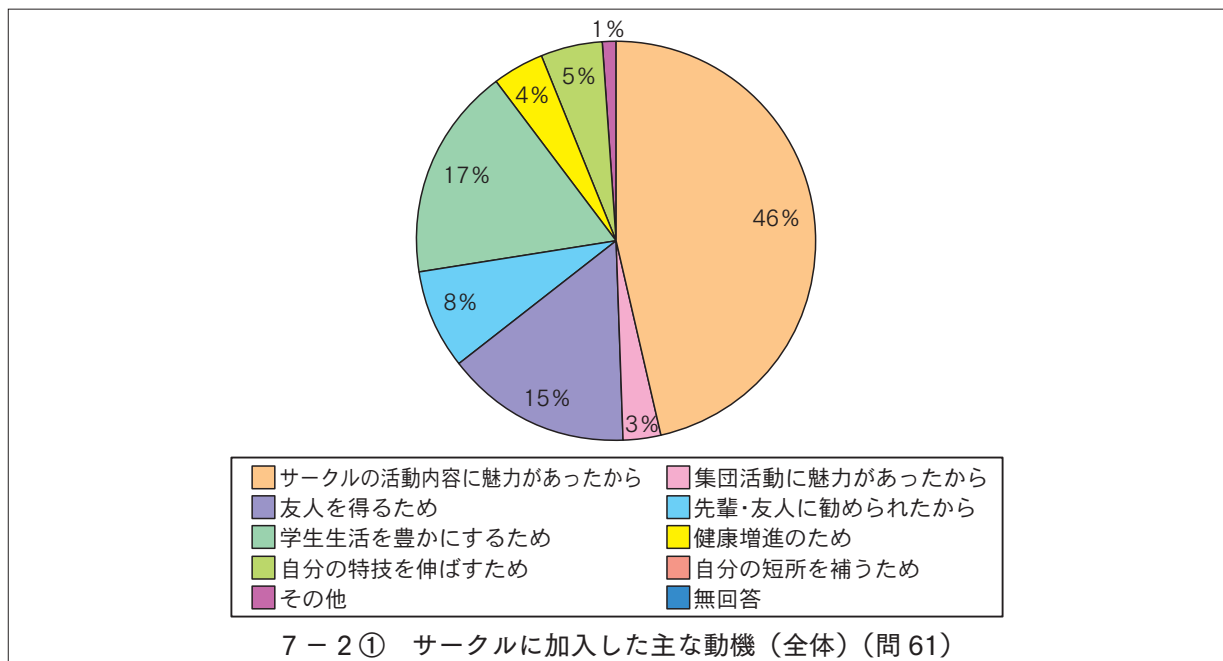
各学部別に加入状況をみると、総合科学部 60%、医学部 72%、歯学部 73%、薬学部 76%、理工学部昼間 51%、理工学部夜間 33%、生物資源産業学部 53%であった。前回と同様、医学部・歯学部・薬学部のサークル加入率は、総合科学部・理工学部・生物資源産業学部よりかなり高い傾向にあった。さらに、どの学部も、学年が上がるにつれ、文化系・体育系共に加入率は減少している。

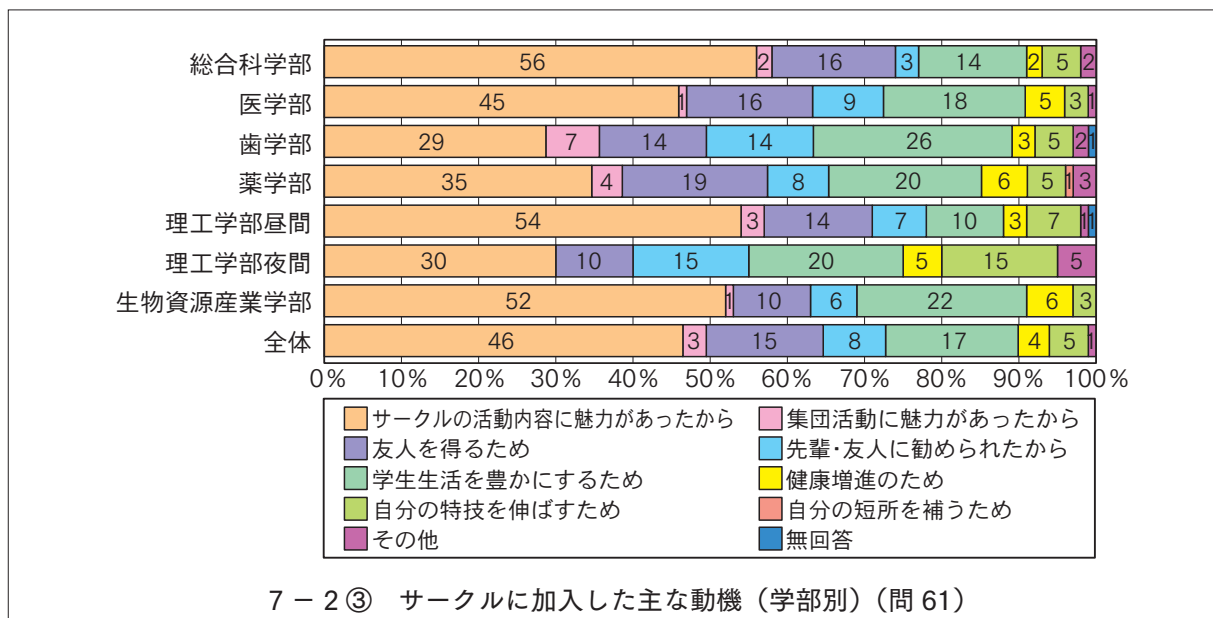
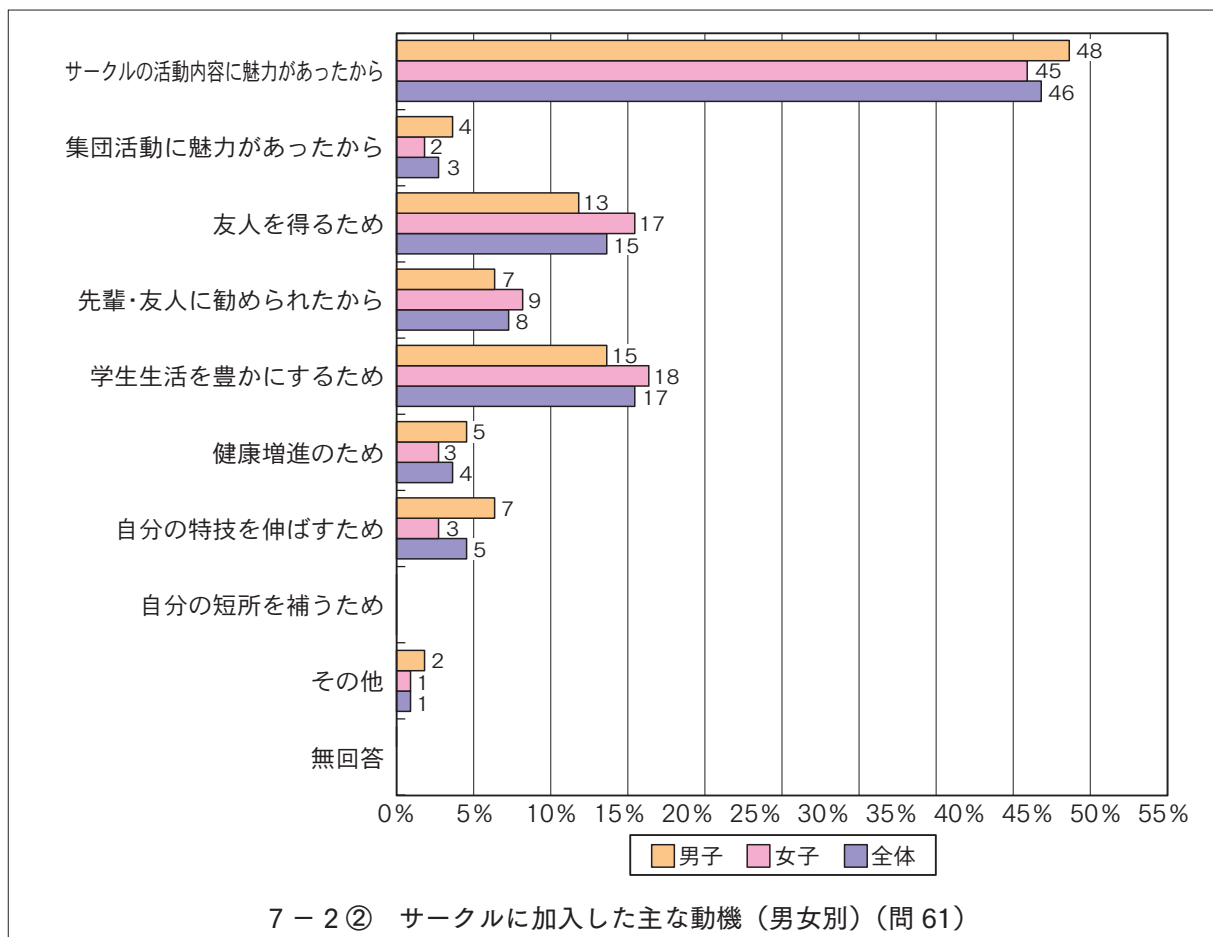


7-2 加入の動機 (図 7-2 ①~図 7-2 ③)

サークル加入の動機の理由では、第1位は「活動内容に魅力があったから (46%)」で、前回より2%増加した。第2位、第3位は前回と逆転し、「学生生活を豊かにするため (17%)」、「友人を得るため (15%)」の順となった。次いで第4位「先輩・友人に勧められたから (8%)」以降は、前回とほぼ同様であった。男女別では、前回とは異なり、男女差がある動機は少なかった。

学部別にみると、「活動内容に魅力があったから」を動機とする率は、総合科学部・理工学部昼間・生物資源産業学部においては50%を超え、全体平均 (46%) を超えていた。一方、医学部・歯学部・薬学部は平均を下回っているが、その分、「友人を得るため」「学生生活を豊かにするため」が平均を超えており、学部によって、サークル加入の目的が若干異なる傾向にあった。



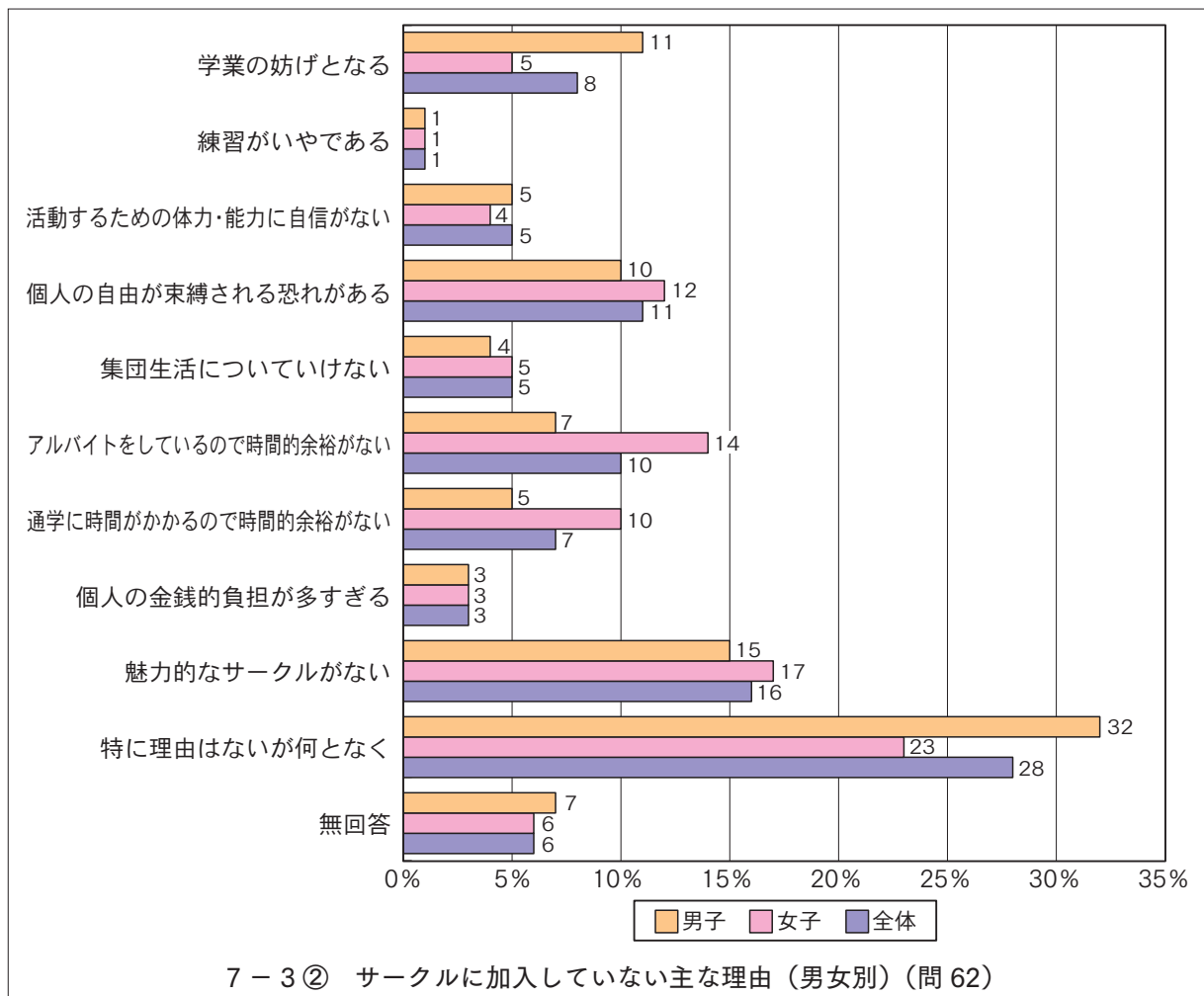
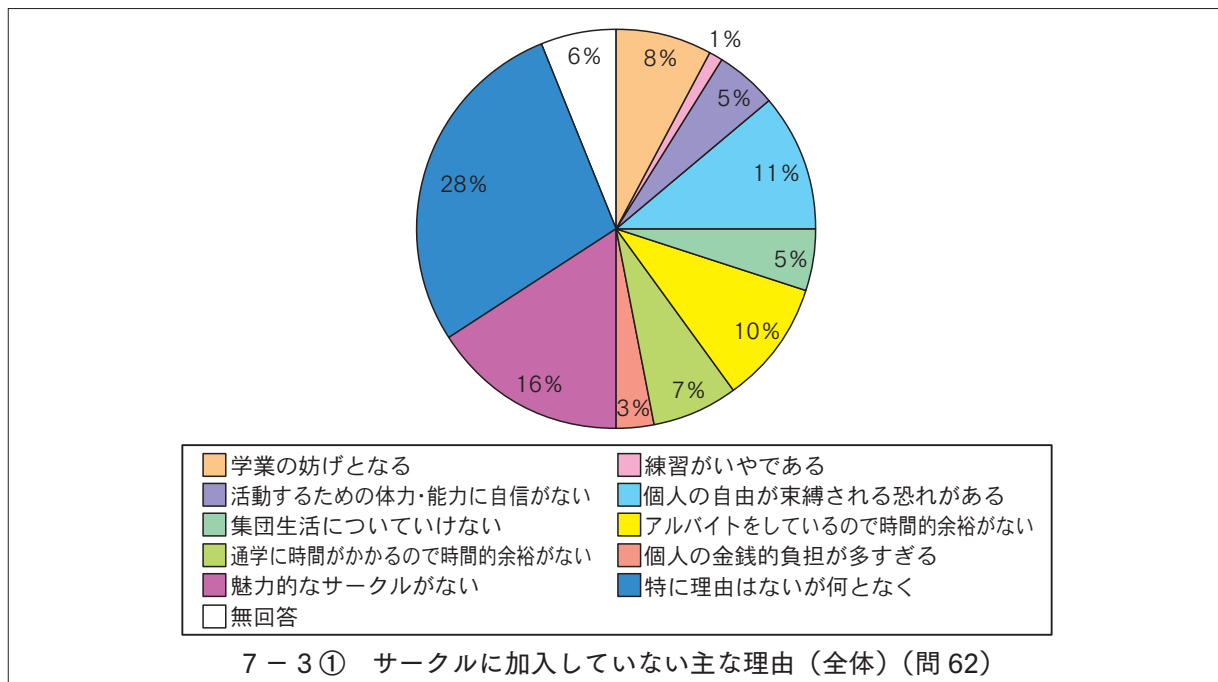


7-3 サークルに加入していない理由（図 7-3①～図 7-3③）

7-1①から、「以前加入していたが現在は加入していない」13%、「加入したことがない」25%、合計38%がサークルに加入していない状況であり、これは前回と全く同じ状況とわかった。その理由として、「特に理由はないが何となく」が28%と最も多く、サークルに無関心であるとみられる。しかし、前回33%であったのに比べると、若干ではあるが減少している。次いで、「魅力的なサークルがない

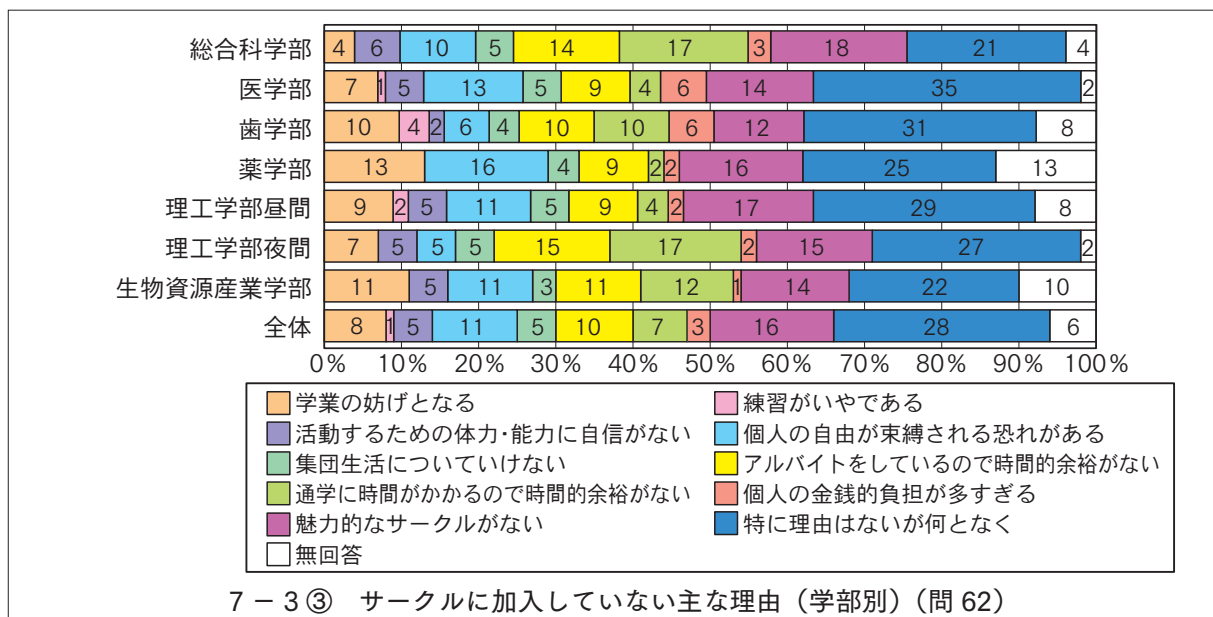
(16%)」、「個人の自由が束縛される恐れがある (11%)」、「アルバイトをしているので時間的余裕がない (10%)」が続いている。さらに「学業の妨げとなる (8%)」、「通学に時間がかかるので時間的余裕がない (7%)」となっている。

男女別でみると、通学やアルバイトで「時間的余裕がない」を理由にする比率は女子が高く、「学業



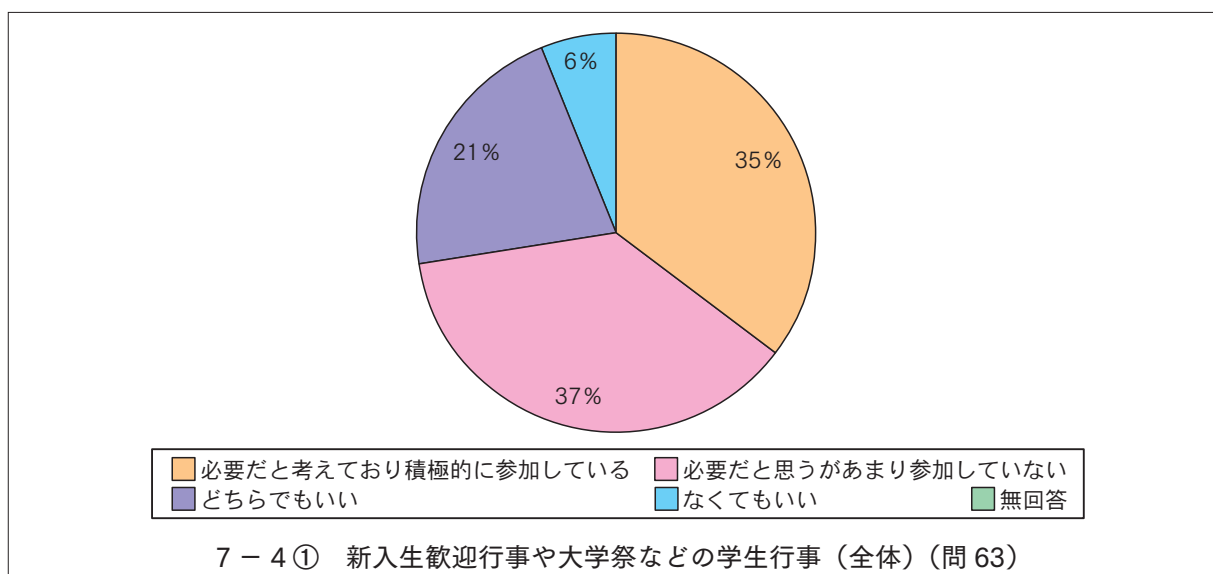
の妨げになる」「何となく」を理由にする比率は男子が高い傾向にあった。

学部別でみると、似たような傾向にはあるものの、少しずつ比率が異なり、学部の特性に起因する可能性もある。



7-4 学生行事（図 7-4①～図 7-4④）

学生行事（新生歓迎会・大学祭）については、必要だと考えている率は72%とかなり高いが、内訳は「積極的に参加」が35%、「あまり参加していない」37%であった。前回と比較すると、必要だと考えている率は5%、積極的参加は4%増加した。さらに今回は「どちらでもいい」21%（前回より5%減）、「なくてもいい」6%（前回より2%減）となっており、前回より学生行事に対して、否定的な考えが少なくなっているとみられた。

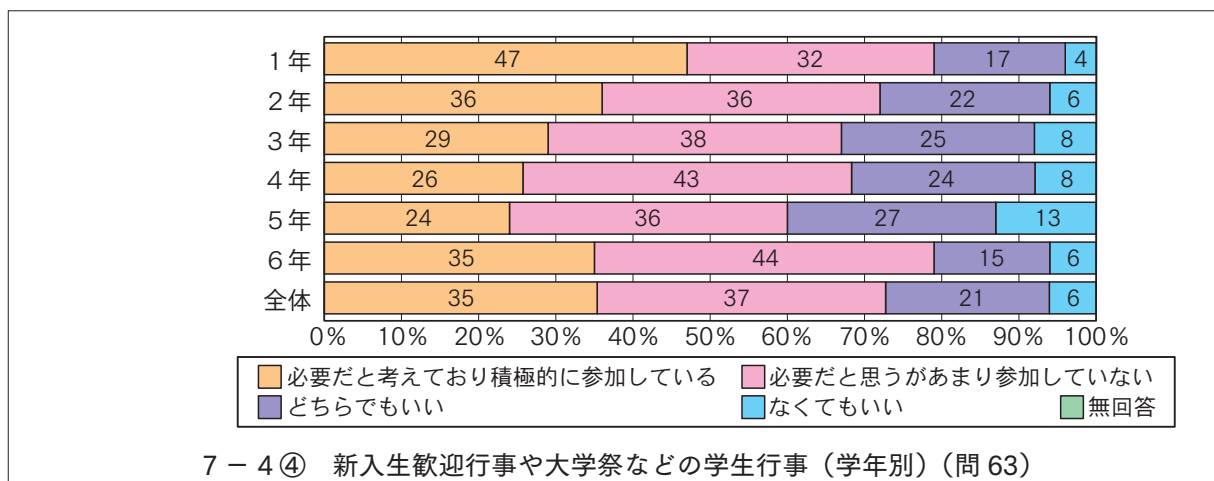
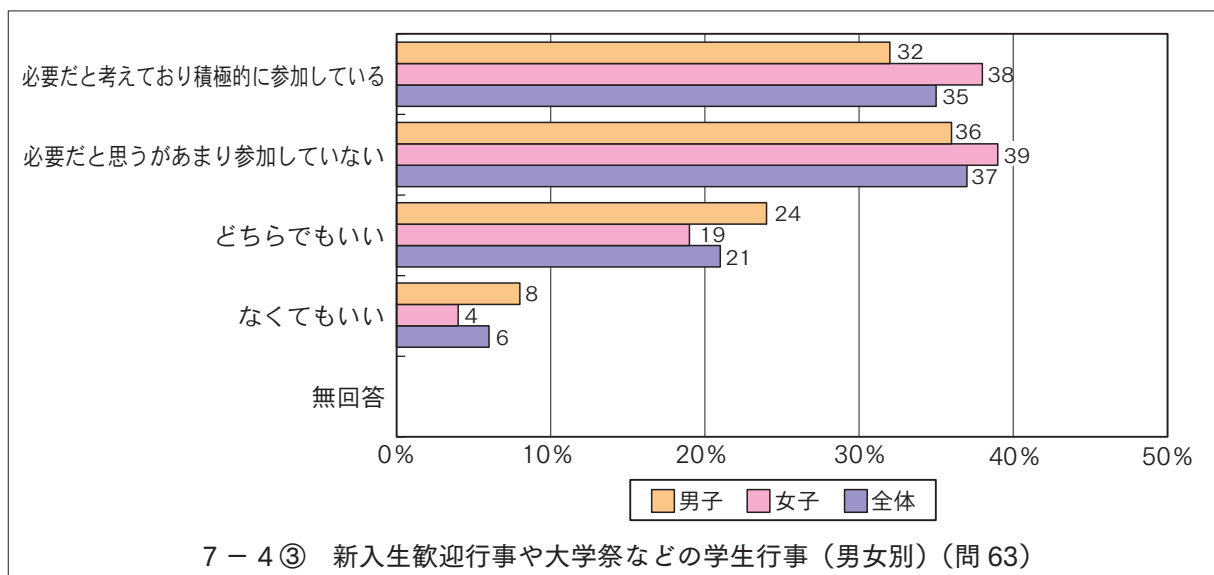
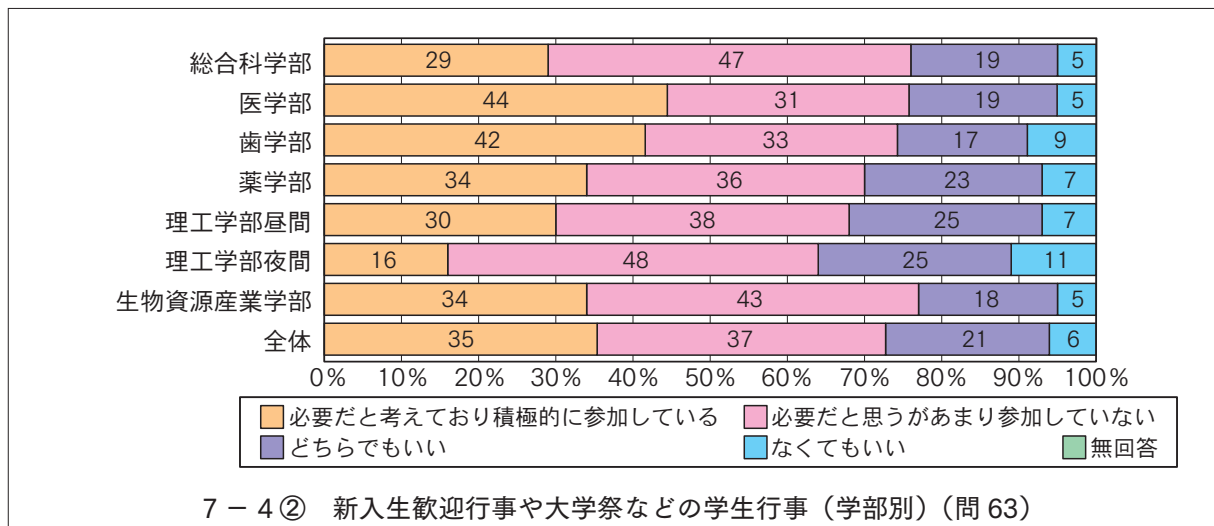


学部別では、積極的参加は医学部44%、歯学部42%と、平均より高く、総合科学部29%、理工学部昼間30%、理工学部夜間16%と低い傾向にあった。

男女別では、「積極的参加」は前回と同様、女子の方が男子より6%高かった。

学年が上がるにつれ、学生行事の必要性や積極的参加も減少していた。上級学年の行事離れは新生

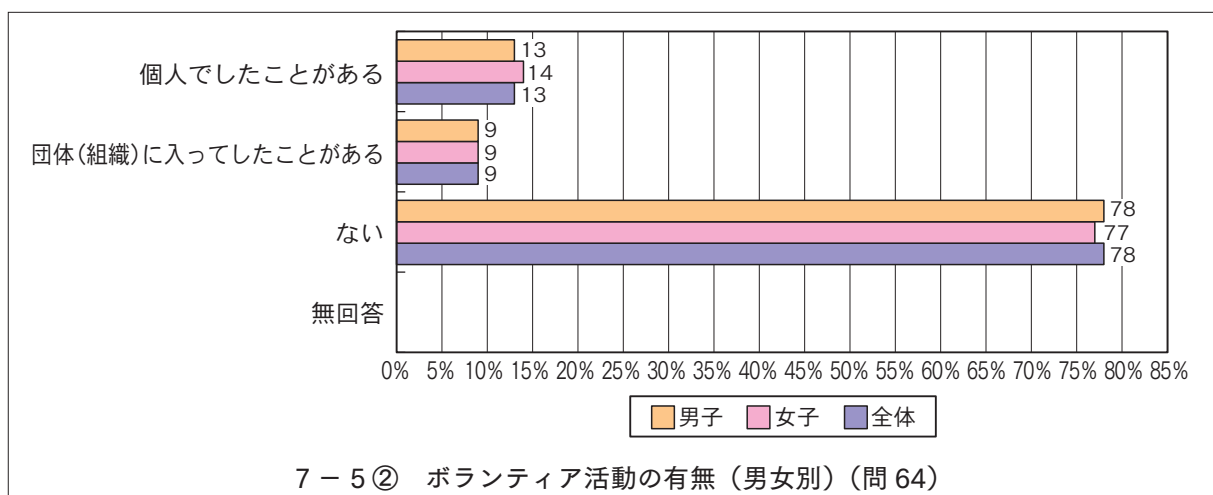
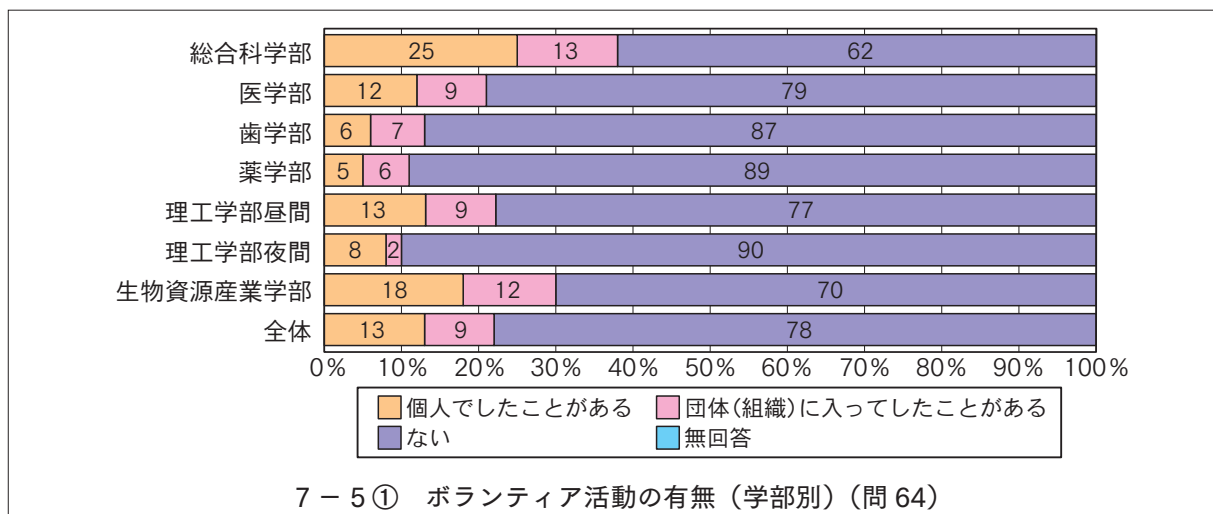
の歓迎に影響を与えるのではと危惧する。



7-5 ボランティア活動 (図7-5①, 図7-5②)

ボランティア活動については、「個人でしたことがある」13%、「団体に入っていたことがある」9%、計22%と活動したことがある率は低い結果であった。ただ、学部によって差異がみられ、総合科学部

は「個人で行う」25%、「団体で行う」13%、計38%と高く、次いで生物資源産業学部は「個人で行う」18%、「団体で行う」12%、計30%と高かった。両学部はボランティア活動が必要とされる専門分野もあると考えられる。男女によるボランティア活動の比率には差はなかった。



まとめと今後の課題

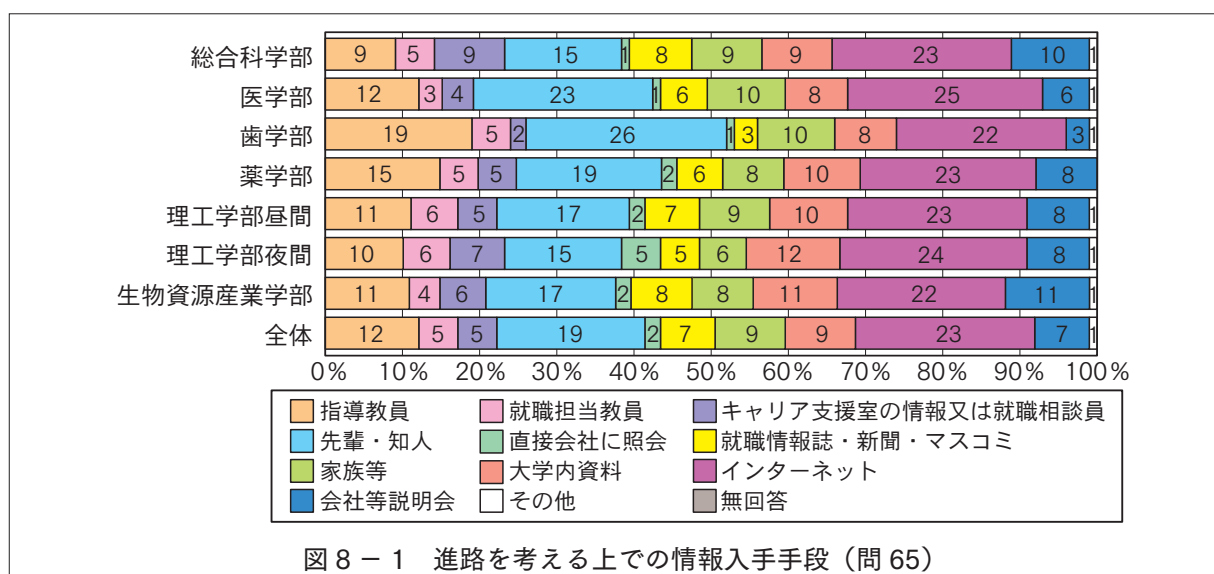
アンケートの結果から、課外活動（サークル活動、学生行事、およびボランティア活動）の状況をみた。サークル活動については加入が減少傾向にあり、その理由と共に、様々なことが危惧される。魅力的なサークルがない、何となく入らないとしている学生が多いため、サークル活動や良さをアピールする機会を増やすのも一案と考える。学生行事は上級生や教員とのコミュニケーションを取れる場でもあり、学部内での円滑な教育研究を行う上で重要なものである。しかし、学生行事はコロナの影響、学生主催の難しさなどもあり、開催が難しい局面に来ている。コロナ終息により、今後変化があると考えられるが、学部でサポートをしつつ、学生が自主的に行事を遂行する環境を作る必要があると感じる。ボランティア活動については、参加率を上げるため、ボランティアパスポートなどの活用を推進するなどの対策が必要であろう。

昨今の学生はグループでの関係性よりも「個」を好む傾向がある。その一方で、他のアンケートなどでは「友人が出来ない」「会話がうまくできない」などの悩みを挙げている学生も多い。大学は各学部に応じた専門教育が第一義であるが、その専門教育を効率的に上げるためには、他者との関係等の人間力が必須と考える。課外活動は人間力育成の場として重要と考え、大学としての対応が望まれる。

第8章 進路・就職について

8-1 進路情報入手手段 (図8-1)

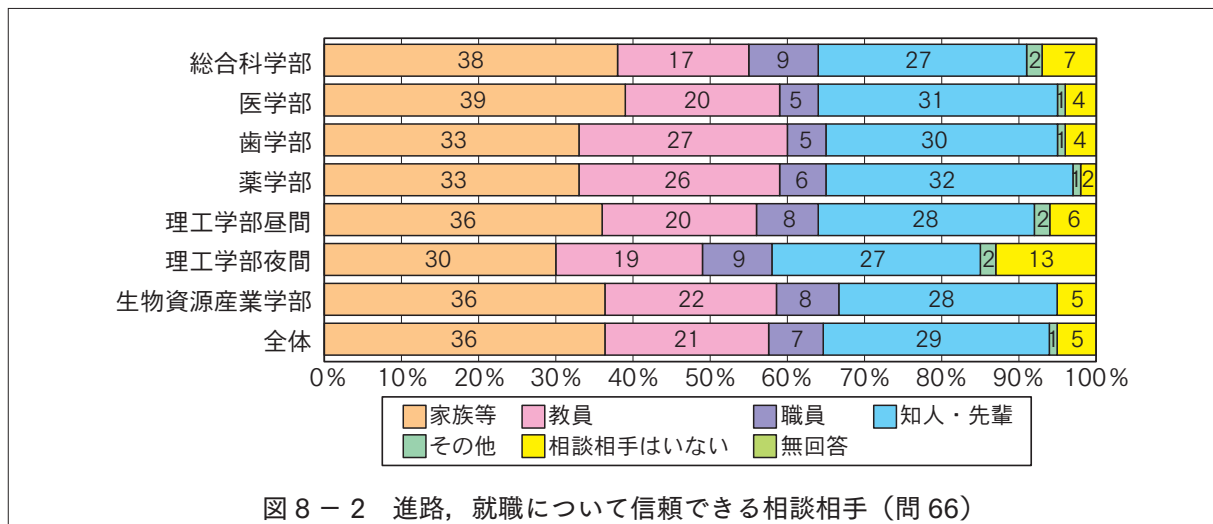
図8-1は、進路を考える上での情報入手手段について複数回答可として尋ねたものである。全体的に前回調査とほぼ同様の傾向を示しており、学部ごとによる差違もそれほど大きくはない。全体では、「インターネット利用」23%、「先輩・知人」19%と多く、次いで「指導教員」12%、「家族等」9%、「大学内資料」9%、「就職情報誌・新聞・マスコミ」7%、「会社等説明会」7%の順となっている。蔵本地区の医学部と歯学部では「先輩・知人」の割合が全体よりやや高く、歯学部では比較第一位となっている(26%)。また、この歯学部と薬学部では、「指導教員」の比率も全体より高い(いずれも15%超)。これらのことより蔵本地区の3学部では「先輩・知人」や「指導教員」の占めるウエイトがやや高く(身近な人からの情報)、一方、常三島地区の3学部では「大学内資料」や「会社等説明会」が占めるウエイトがやや高い(会社資料からの情報)。キャリア支援室からの情報入手率は全体で5%と低く(前回は4%)、「直接会社に照会」は2%と非常に少ない。これは、売り手市場に伴い企業側が採用ページを充実させたり、インターンシップや会社説明会などを積極的に開催したりしており、学生が情報を得る機会が増えたこと、またキャリア支援室に求められる役割が選考対策や個別相談などの支援に変化していることなどが理由として考えられる。



8-2 就職・進学相談相手 (図8-2)

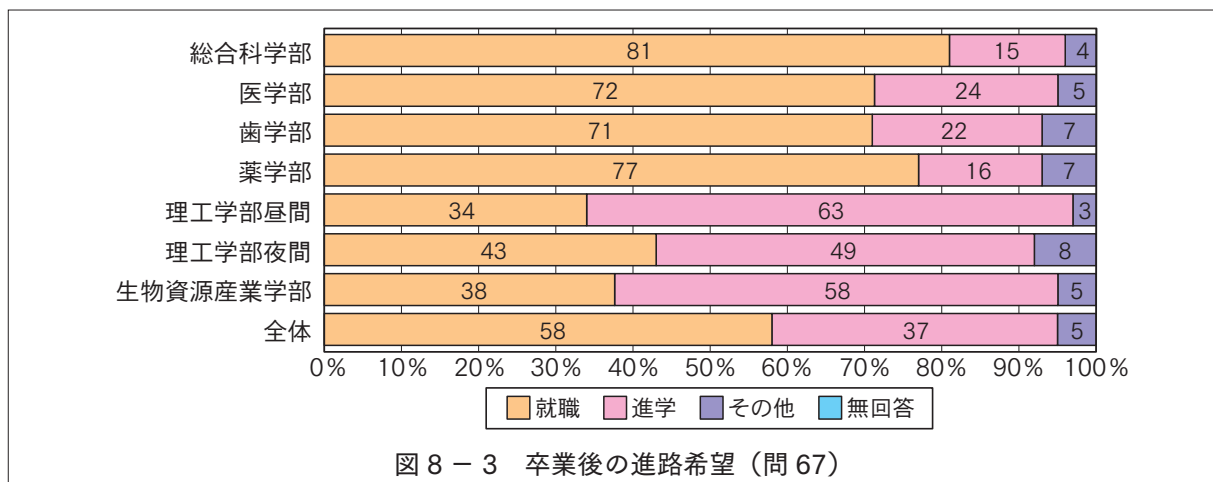
図8-2は、進路、就職について信頼できる相談相手について複数回答可として尋ねたものである。各学部ともほぼ同様の回答分布となっている。上位3つについて、上から「家族等」(全体では36%、学部ごとでは30~39%)、「知人・先輩」(全体では29%、学部ごとでは27~32%)、「教員」(全体では21%、学部ごとでは17~27%)の順であり、前回調査とほとんど同じである。一方で、「相談相手はいない」が各学部2~13%あり無視できない数字である(特に理工学部夜間の13%は他学部と比べてかなり高い)。近年の学生の傾向として、コミュニケーション能力がある学生はサポートが無くてほとんど問題ないのに対し、他者とのコミュニケーションに苦手意識を持つ学生は進路や就職だけでなく日々の授業でもつまづくことが多く、そのような学生に対してはキャリア支援室での情報提供や定期

的な個別サポートの実施だけでなく大学組織全体で対応する必要があると思われる。



8 - 3 就職・進学希望について (図 8 - 3)

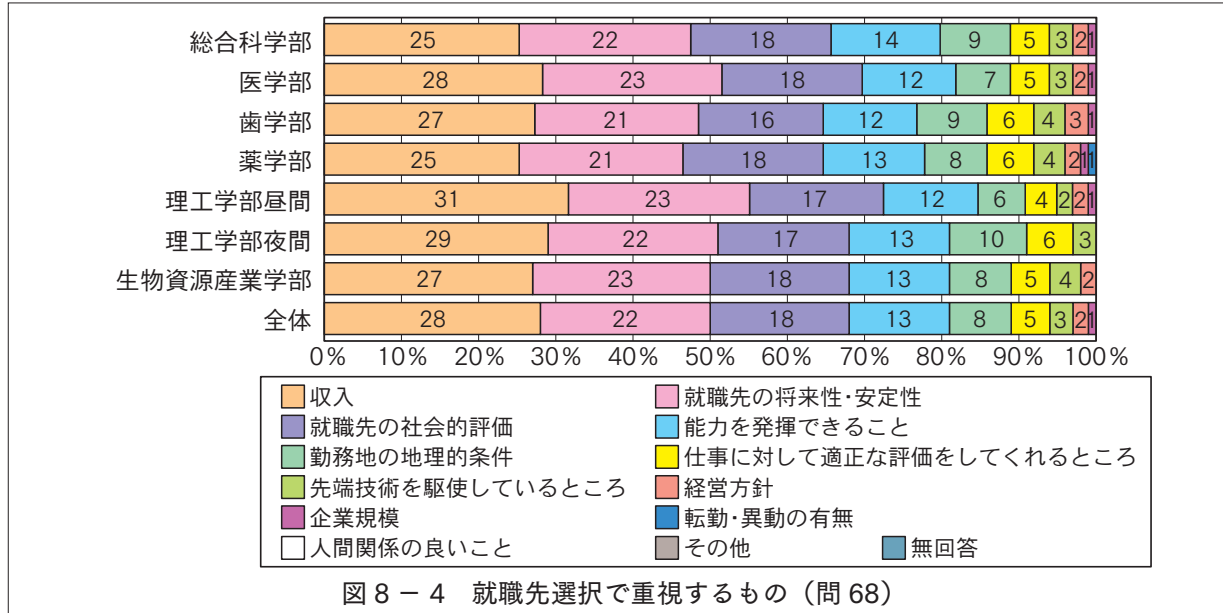
図 8 - 3 は、卒業後の進路希望について尋ねたものである。就職希望と進学希望の比率は薬学部を除いて前回調査とあまり変化がない。全体での進学希望者の割合は3分の1強であり、理工学部昼間および生物資源産業学部では半数を超えている。また、理工学部夜間は前回の40%から49%と増加している。それに対し、総合科学部、薬学部、歯学部、医学部における進学希望者の割合はこの順に低い(15%~24%)が、前回よりは5~6%増加している。なお、薬学部の進学希望が前回の30%から16%に半減しているが、令和3年度入学者から修業年限6年の薬学科のみに変更された影響かと思われる。以前より医学部や歯学部の大学院学生の定員充足率の低下が課題となっており、これらの分野の進学希望者を増加させるためには分野横断的な進学制度を検討する必要があると思われる。



8 - 4 就職先選択で重視するもの (図 8 - 4)

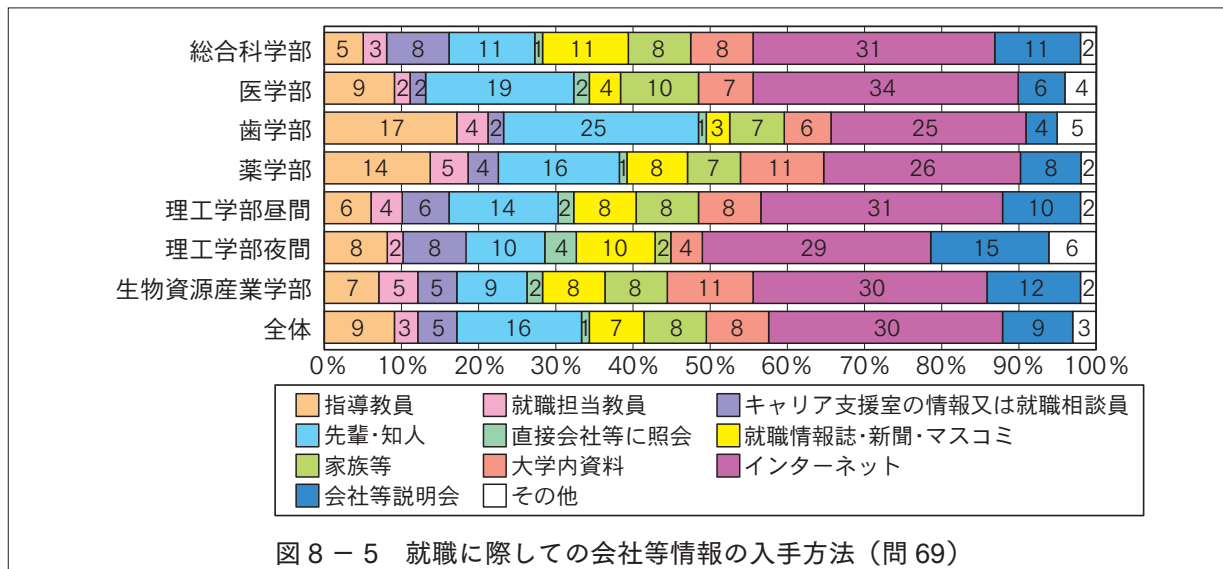
図 8 - 4 は、前問で「就職」希望と回答した学生に対して、就職先選択で重視するものについて複数回答可として尋ねたものである。今回から新たに選択肢8~10が追加されている。各学部ともよく似た傾向を示しているが、全体的な傾向は前回調査と比べて少し変化している。前回と前々回でともに1位だった「就職先の将来性・安定性」に代わって「収入」が28%と最も多く、次いで「就職先の将来性・

安定性」22%,「就職先の社会的評価」18%,「能力を發揮できること」13%,「勤務地の地理的条件」8%となっており, 前回は20%と回答が多かった「人間関係の良いこと」は今回1%未満となっている。また, 今回新たに追加された「経営方針」,「企業規模」,「転勤・異動の有無」は1%未満~3%であった。これらの結果より, 最近見られる安定志向は変わっていないが, 成果主義・個人主義の傾向が進んでいることが示唆される。



8-5 就職情報の入手方法 (図8-5)

図8-5は, 前々問で「就職」希望と回答した学生に対して, 就職に際しての会社等情報の入手方法について複数回答可として尋ねたものである。今回から新たに選択肢1と選択肢8が追加されている。これも各学部とも前回調査とほぼ同様の結果である。全体では「インターネット」が30% (前回調査38%) とやはり多く, 次いで「先輩・知人」16%, 「指導教員」9%, 「会社等説明会」9%, 「家族等」8%, 「大学内資料」8%と続く。「インターネット」や「先輩・知人」が上位を占めるのは, 8-1に示した進路を考える上での情報入手手段と同様の結果といえる。また, 蔵本地区3学部で「先輩・知人」や「指導教員」の割合が若干高いことも同様といえる。なお, 蔵本地区3学部では「キャリア支援室」が2~



4%となっており常三島地区の3学部の5～8%と比べてやや低い。このことは前回の調査時と同様に蔵本地区でのキャリア支援室の存在の周知に課題の残る結果といえる。キャリア支援室では蔵本地区においても就職相談体制を整えており、コーディネーターや専門のキャリアカウンセラーと直接面談することも可能である。よって、キャリア支援室の利用率の向上には蔵本地区3学部の指導教員への周知が効果的かと思われる。

8-6 希望する職種 (図8-6)

図8-6は、問67で「就職」と回答した学生に対して希望職種を複数回答可として尋ねたものである。全体的な傾向は前回調査からあまり変わっていない。医学部・歯学部・薬学部では「専門職（医師・看護師等）」が51～79%と圧倒的に多い。理工学部では、「技術職」（昼35%、夜42%）、「大学・官公庁の教育・研究職以外の公務員」（昼19%、夜18%）、「企業等の研究職」（昼10%、夜12%）の順となっている。一方、生物資源産業学部では、「大学・官公庁の教育・研究職以外の公務員」が23%と比較第一位であるが、「企業等の研究職」19%、「総合職・営業職」16%、「技術職」15%と比較的拮抗している。総合科学部では、「大学・官公庁の教育・研究職以外の公務員」が31%と最も多いが、「事務職」21%、「総合職・営業職」21%も多く、この3職種で4分の3を占める。今回、「大学・官公庁の教育・研究職」と「それ以外」を合わせた「公務員」の割合は前回と変わらないが、「大学・官公庁の教育・研究職」についてはわずか4%と前回の3%とほぼ同じ数値であり、教育・研究職ではなく一般職の公務員を希望する学生が多くなっており、ここでも最近の学生の安定志向の傾向が見て取れる。

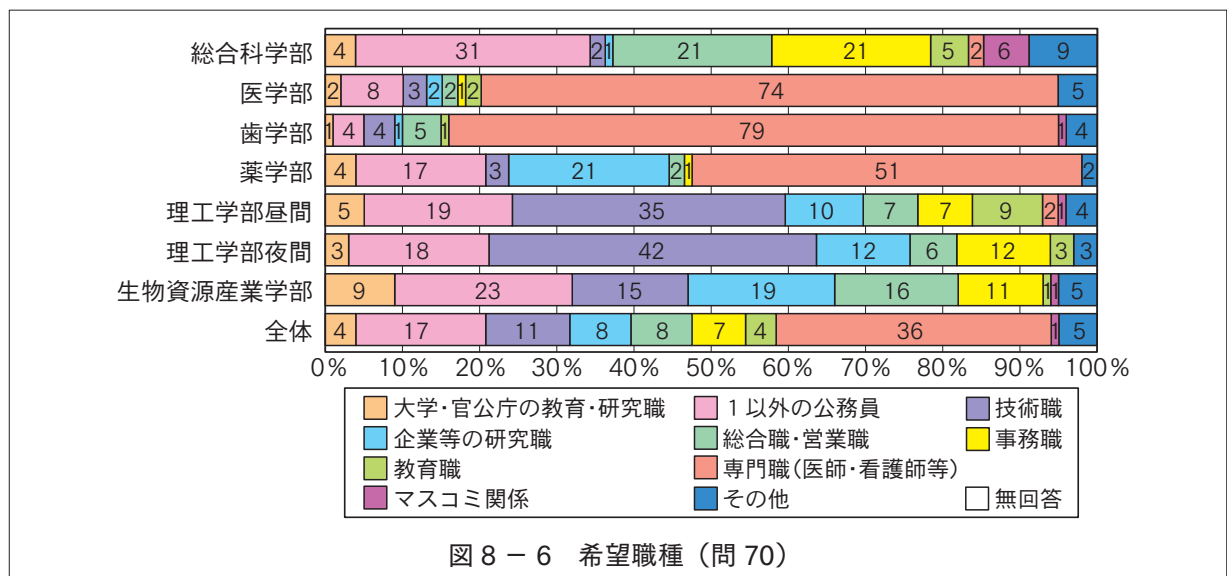
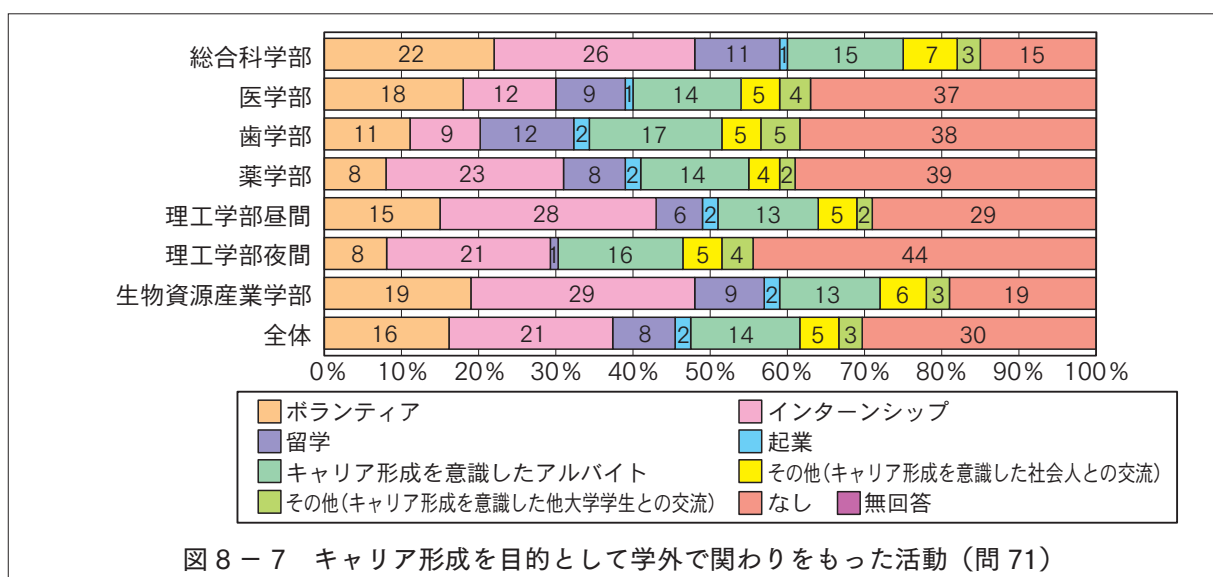


図8-6 希望職種 (問70)

8-7 キャリア形成のための学外活動 (図8-7)

図8-7は、キャリア形成を目的として学外で関わりをもった活動について複数回答可として尋ねたものである。全体では、「なし」が30%で最多であるが、実際の活動としては「インターンシップ」21%、「ボランティア」16%、「キャリア形成を意識したアルバイト」14%、「留学」8%の順となり、前回調査とほぼ同様の結果であった。学部別に見た場合でも、順位に変動はあるものの、この4つが学外活動の大半を占めている。興味深いのは、総合科学部および生物資源産業学部では「なし」の割合が比較的 low (いずれも20%以下)、何らかの学外活動の経験を有する学生の割合が高い。このことはこの2学部が他の学部比べて学問領域が多岐に渡っていて学内の学修だけでは経験が足りないと感じてい

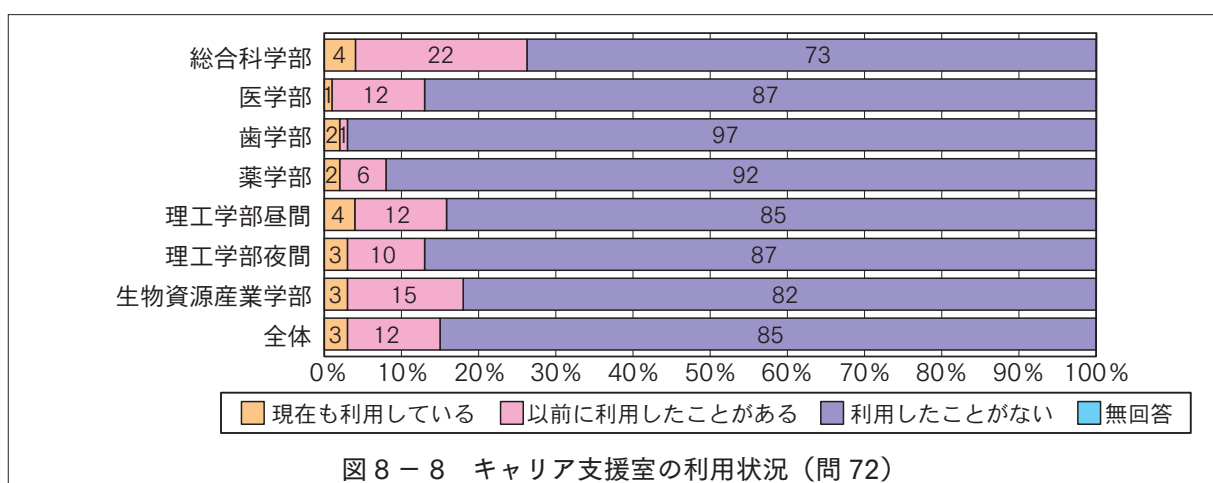
る学生が多いためだと思われる。「起業」については全体で2%であり（前回も2%）、学生時代の起業についてはまだまだハードルが高い実態を表しているものと思われる。



8-8 キャリア支援室の利用状況（図 8-8）

図 8-8 は、キャリア支援室の利用状況について尋ねたものである。今回、全体で見ても「利用したことがない」が 85%（前回調査 87%）と高止まりしている。資料の閲覧等実際の来室を伴う利用数の減少は否めないが、コロナ以前よりもガイダンスの参加者数や個別相談の利用件数などは大幅に増加しており、就職活動期にあたる学年に限定すればその利用率はもっと高いと思われる。

キャリア支援室ではここ数年、常勤のコーディネーターの増員や蔵本地区における相談体制の強化（8-5）、など、支援体制の量的質的充実に努めてきた。また、未内定学生支援として令和 3 年度から実施の学生が複数の企業からオファーを受けることのできる「就職マッチング支援事業」も学生や教員及び企業からも好評を得ており継続中である。さらに、コロナ禍のもと、就職活動の多くがオンライン化されるのに伴い、支援活動のオンライン化のみならず、学生が就職活動でオンラインを使用することを想定したさまざまなアドバイスを行ってきた。ポストコロナの時代においても就職活動ではオンラインが定着しており、また、就職活動の早期化・長期化も懸念されているなか、キャリア支援室としては、就職活動自体はもちろんのこと、その前段階である情報収集やインターンシップ、模擬面接に代表される試験シミュレーションに至るまで、それを踏まえてのより一層の利用促進への努力が求められている。



特に、就職という1つのイベントで見た場合、8-2にも記したがコミュニケーション能力に不安を有する学生や、活動の最初に出遅れ感に苛まれてしまいその後モチベーションが上がらないままの学生などへの対応が重要となってきた。両者に共通するのは、情報が十分に得られないことに起因する、自身の立ち位置や先行きが見通せないことから来る不安感にあると思われる。そのような学生も含め全ての学生に対して、真に必要とされる情報を調べ受け渡すことに加えて、キャリア形成・就職活動のよりどころとして一層周知・活用されるあり方を引き続き追求する必要がある。

第9章 学部の現状と課題

9-1 総合科学部

総合科学部は、平成28年（2016）4月より、社会総合科学科（1学科）からなる学部として再スタートし、「国際教養コース」「心身健康コース」「公共政策コース」「地域創生コース」の4コースからなる。今回の調査で総合科学部全体の調査票回収率は39.7%で、前回調査の45.3%より減少している。

「住居・通学について」の項目では、自宅からの通学者は総合科学部では48%であり、全体平均（28%）よりも20%高かった。前回調査は47%であり県内出身者の比率が高い傾向が続いている。これらの結果から総合科学部は「地域密着型の学部」というイメージが県内で強まっている可能性がある。

「家賃支出」については、総合科学部では「5万円未満」の割合が80%であり、前回調査の88%と比べて大きな変化は見られなかった。なお、全学部を通して見てみると、5万円未満の割合は、常三島地区が蔵本地区の学部よりも高くなっており、賃貸物件価格の地域差が反映されていると思われる。通学方法については、全体の傾向と同様に自転車が多くなっている。通学時間は、全体の平均で83%の学生が「30分未満」であるのに対し、総合科学部では69%と若干低めとなっている。これは総合科学部では自宅生の占める割合が高いことが理由だと思われる。

「収入・支出について」では、家庭の年間所得を500万円未満とする回答が総合科学部27%であり、全体平均の20%よりも高くなっている。しかし、わからないと回答した割合が43%前後と高くなっており、アンケートで家庭年収を評価することは難しい。

「高等教育の修学支援新制度（又は大学独自の授業料免除制度）は知っているが申請していない」とする回答が56%であり、前回調査32%よりも24%増加していた。また「高等教育の修学支援新制度（又は大学独自の授業料免除制度）を知らなかった」という回答が19%で、前回の14%から増加しており、学生へのさらなる周知が求められる。

自宅外通学者においては、家計状況として保護者等からの援助が「5万円未満」とする回答は総合科学部61%であり、前回調査の66%とあまり変わりがなかった。援助が全くない割合は10%であり、理工学部夜間（30%）に次いで高い値となった。1か月の平均支出額は「5万円未満」が総合科学部52%で、全体の平均とほぼ同じ割合である。経済的状況については38%が「やや苦しい」、あるいは「大変苦しい」と回答しており、全体の平均値（33%）よりも高くなっていた。

アルバイトに週3日以上従事している学生の割合は、総合科学部で47%となっており、全学部の中で最も多かった。生物資源産業学部44%、理工学部昼間43%、理工学部夜間41%と、常三島キャンパスの学部の学生のアルバイト日数が蔵本の学部よりも高くなっている。時間数では、週のアルバイト時間が15時間以上の学生は、総合科学部が33%で理工学部夜間について従事時間が多かった。他方、「勉学に支障はない」とする回答は総合科学部で90%であり、長時間労働をしている割には勉学に支障がないと考える学生が多かった。アルバイトの収入は月に3～5万の範囲が最も多く（34%）、全体の平均値（36%）と比べてあまり差は見られていない。アルバイト中のトラブルについては「客とのトラブル」が8%で最も多く、全学部の平均値（6%）よりもやや高かった。今後どのようなトラブルが生じているのか詳しい状況を調べる必要がある。

「健康状態について」では、総合科学部における睡眠時間、喫煙、飲酒のそれぞれの頻度は他学部と大きな違いは認められなかった。総合科学部の学生の食事については、昼食の利用場所に関して、自宅（下宿）にて自炊の割合（29%）が全学部の平均（19%）と比べて高い。

「学生生活上の問題点」では、大学生活の意義を「勉強や研究」に見いだす割合が総合科学部では

36%であり、全学部の中で最低であった。学習意欲の向上に対する取り組みを進める必要がある。また総合科学部では「現在悩みや不安がない」と答えた学生の比率は24%であり、全学部の中で最も低かった。一方、総合科学部では「就職や進路に不安がある」学生の比率は56%であり全学部の中で最も高かった。今後とも様々な就職に関する情報提供を含めた対応が必要であろう。

セクハラを受けたと回答した学生は、総合科学部では前回調査と同じく1%であった（男子0%、女子1%）。この割合は少ないが放置してよいということではなく、セクハラ撲滅のための啓発運動を強化する必要がある。またカルトの勧誘を受けた男子学生が4%であり、カルト勧誘は様々な関連被害に繋がる潜在リスクを有しているため、適切な啓蒙・予防対策を講じる必要がある。また、総合科学部の女子の中で盗難被害に遭った学生の割合が4%あり、大学構内での被害が27%であった。このような迷惑行為の相談で誰にも相談していない学生も存在するため、総合相談部門（学生相談室）の存在を周知する必要がある。

「修学状況について」に関して、本学を選んだ理由が総合科学部では「国立大学だから」が66%であり、「地元の大学だから」が43%となっており、これは他学部よりも高い数値であった。総合科学部の学生は「地元志向」がかなり強いように思われる。前述したとおり、総合科学部は「地域密着型の学部」というイメージが県内で強まっている可能性がある。

所属学部への満足度では、「満足している」および「ほぼ満足している」の合計が総合科学部92%で、全体平均の87%を上回り、全体で最も高率であった。また、授業の満足度では、「満足している」および「ほぼ満足している」の合計は、総合科学部89%で全学平均の83%を上回っている。その一方、授業が満足できない理由として、総合科学部76%が「授業内容がつまらない」と回答しており、これは全体平均の50%より高い。この結果から、教員は講義で学生を引き付ける工夫が必要であろう。

クラス担任制度については、「満足している」および「ほぼ満足している」学生の比率は86%で全体の中で最も低い。どのような点に満足していないのか詳細な分析が必要である。

「課外活動について」では、何らかのサークル（学内外の文科系・体育系・サポート系サークル）に加入している学生は総合科学部60%である（全体平均63%）。加入しない理由としては、総合科学部では「通学に時間がかかるので時間的余裕がない」17%、「個人の自由が束縛される恐れがある」10%、「魅力的なサークルがない」18%、となっており、おおむね全学平均と同様の傾向である。ただし、総合科学部では、「通学に時間がかかるので時間的余裕がない」と回答した学生の割合が全体平均（7%）よりも高めとなっており、自宅通学の学生の割合が高いことに起因していると思われる。

大学入学後のボランティア活動では、総合科学部38%の学生が何らかの活動に従事している。全体平均の22%に比べると高く、学生の多様な能力の養成、共同活動を行う上でボランティア活動に携わることは良い傾向であると思われる。

「進路・就職について」に関して、総合科学部では就職希望が81%であり全学部の中で最も高い。就職先の選択で重視するものとしては、「収入」25%、「就職先の将来性・安定性」22%の順に高く、全体の傾向とおおむね一致していた。会社などの情報入手については大学キャリア支援室の利用が8%であり、理工学部夜間とともに、全学部の中で最も高かった。希望職種は大学・官公庁の教育・研究職以外の公務員志望者が31%、総合職・営業職21%、事務職21%となっており公務員志向が強い。大学キャリア支援室の利用については、総合科学部の中で「利用したことがある」のは26%で全学部の中で最も高い。一方、「利用したことがない」が73%であり、キャリア支援室の紹介などの対応がさらに必要と思われる。

9-2 医学部

医学部は、医学科、医科栄養学科、保健学科の3学科から構成されており、各々の学科の回収者数と回収率は、医学科274人(38.5%)、医科栄養学科164人(80.0%)、保健学科230人(44.8%)であり、医学部全体では668人(46.7%)であった。大学全体の回収率(40.0%)と比較すると回収率は少し高かった。前回調査の回収率は医学部全体で44.1%であり、今回はわずかに増加しており、学科別では、医学科、保健学科でやや減少し、医科栄養学科では大きく増加していた。医学部全体では男子の回収率(40.7%)が女子(50.6%)よりもやや低かった。

医学部は、蔵本地区の他の学部と同様に、卒業時に国家試験(医師、管理栄養士、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師、保健師等)を受験して免許を取得し、卒業後はそれぞれの専門職に就く学生がほとんどであり、在学中は目的意識を持って学習している学生が多い。これらの点を考慮して、以下に現状と課題を考える。

「住居・通学について」は、「自宅(家族と同居)」の割合が29%で、前回調査(26%)よりわずかに増加している。また、64%の学生が毎月5万円未満の家賃を支払っている。「通学方法」では、「自転車」が73%と一番多く、他学部と同じ傾向である。「通学中の事故あり」が5%だが、同じキャンパスの歯学部、薬学部ではそれぞれ12%、8%であるため、いつどこで事故が起こったのかの調査も有用と考えられる。

「収入・支出について」は、「家庭の年収」では、「750万円以上の収入」がある家庭が27%で、歯学部、薬学部とほぼ同程度であり、全体と比較すると割合がやや高いが、「500万円未満の収入」の家庭が18%、「500～750万円未満」の家庭が11%みられる。「授業料の全額免除あるいは一部減免を受けている」が11%、「高等教育の修学支援新制度(又は大学独自の授業料免除制度)を知っているが申請していない」が67%であった。「高等教育の修学支援新制度(又は大学独自の授業料免除制度)を知らなかった」が16%であり、さらに減らす必要があるものの学内では低い値である。「自宅外通学者」について、「保護者等からの援助額」は、「10万円以上」の学生が前回調査同様15%であり、「5万円未満」の学生も前回調査同様51%であった。また、「自宅外通学者」の「1か月の平均支出額」は、「10万円未満」が86%であり、全体の割合よりわずかに少ない。一方、「10万円以上」が12%であって前回調査(9%)より増加している。全体を対象とした「経済的状況」では、「やや苦しい」と「大変苦しい」を合わせて31%であり、前回調査よりやや増加している。経済的にゆとりがない学生の割合は他学部と同程度である。奨学金の受給、ないしはその希望についても合わせて4割ほどで、前回調査とあまり変わっていない。アルバイトは68%の学生が行っており、従事日数は全体の割合とほぼ同じであり、従事時間の割合も、「5～10時間未満」が29%、「10～15時間未満」が25%、「5時間未満」の割合が20%であり、全体の割合とほぼ同じである。アルバイトを行う学生の12%が勉学に支障が生じていると回答しているが、実際の成績との関係を調べる価値があるだろう。アルバイトでトラブルを経験した割合は医学部では他学部と比較して最も低い(11%)が、アルバイトの種類については学部別に解析されていないため、アルバイトの種類とトラブル内容の関係は導けない。

「健康状態について」は、「睡眠時間」では、大部分の学生は4～8時間未満であり、他学部とほぼ同じである。「気になる症状」も、他学部とほぼ同じ内容であり、男子女子ともに「頭痛・めまい」、「アトピー・アレルギー」、「不眠」、等が多いが、女子の方がそれぞれ割合が高い。また女子では「生理痛・生理不順」が23%と多い。「喫煙について」は、男子の89%、女子の99%が喫煙したことがなく、前回調査とほぼ同様である。「飲酒について」は、男子の44%、女子の48%が飲酒をしないが、前回調査(それぞれ30%、45%)より、特に男子は大きく増加しており、コロナ禍での飲酒機会の減少が引き続いている影響と考えられる。1回当たりの飲酒量は、男子で「3合以上4合未満」の割合が17%、女子

で「4合以上5合未満」の割合が0%であり、前回調査（それぞれ25%、17%）より大きく減少している。これも自宅での1人の飲酒よりも飲み会での飲酒が中心であることを示していると考えやすい。

「食事について」は、「昼食の利用場所」では「学内の食堂を利用」が49%が最も多く、次いで「自宅（下宿）から弁当を持参」が22%と続いた。対面授業の再開に伴って、食堂の利用、コンビニや売店での購入が増加し、前回調査で62%あった「自宅（下宿）にて自炊」は13%となった。

「学生生活上の問題点」については、「主な悩みと不安」に関して、男子学生の52%は悩みや不安がないが、女子学生は36%が悩みや不安がないと回答しており、男子との差は顕著である。「悩みや不安」の内容については、「勉強」(34%)にすることが最も多く、次いで「就職や進路」(31%)、「交友・異性関係」(17%)、「経済状態」(16%)、「自分の性格」(14%)、「生き甲斐や目標」(13%)などがある。女子学生では「就職や進路」が39%なのに対し、男子学生では17%である。「迷惑行為」では、「迷惑行為を受けたことがない」学生は、医学部の3学科は95～97%である。「悪徳商法の被害」は各学科とも0～1%であり、「いたずら電話の被害」と「ストーカーの被害」も同様で全学部を通して非常に低い。「大学内でのセクハラ」は、0%であり、全学部を通して低い。一方、「大学内でのアカハラ」は、医学科と医科栄養学科がそれぞれ1%、2%であり、セクハラとアカハラでは意識が異なっているようで、防止対策が求められる。「サークル退部の阻止」が医学部全体で1%、「サークル内でのいじめ」が0～1%見られた。大きな比率ではないものの、個別事案についてサークル活動の指導を十分に行う必要がある。「カルトの勧誘」について、1～2%が勧誘を受けており、全学部の比較では低い。問題点の解決に関して大学事務室の対応への満足度は医学部の医学科（26%）は他学部と比較して（全体は32%）満足度が低い。

「修学状況について」は、「本学を選んだ理由」では、「希望する学部・学科があったから」が71%で最も高く、次に「国立大学だから」が54%、「地元の大学だから」が31%であり、他学部の理由と比較すると「希望する学部・学科があったから」の率が高い（全体では54%）。「所属学部満足度」では、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせて89%あり、他学部と同様に満足している学生が多い。「授業の満足度」は、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせて84%あり、全学平均の83%とほぼ同じである。授業に満足していない学生は16%あり、「満足できない」理由として、「教員の教え方に工夫が足りない」が63%が最も多く、前回調査（47%）よりも大きく増加している。他学部と比較しても最も高い数字である。遠隔授業、対面授業それぞれの特性を活かした効果的な授業の構成に適應できていないことが推察される。「授業内容がつまらない」が55%、「試験・レポートが多すぎる」が36%、「授業内容が難し過ぎて理解できない」が28%であり、全体の割合とほぼ同じである。「オフィスアワーの利用状況」では、医学部では「オフィスアワーを利用したことがある」学生が7%、「オフィスアワーについて知らない」が40%である。Manabaの利用により、教員とオンラインで質問などが気軽にできることから、オフィスアワーの存在を知らなくても困らない、オフィスアワーの必要性を感じない学生が増えていることが考えられる。「クラス担任制度の満足度」では、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせて90%であり、全体と同じく満足している学生が多いが、実際には悩みについて相談する例も少なく、そもそも期待をしていないので、不満がないという可能性がある。

「課外活動について」は、「学内の体育系サークルに加入している」学生は51%であり、歯学部、薬学部とともに、全体(38%)を大きく上回っている。「加入したことがない」も15%で非常に低い値となっており、課外活動へ積極的に参加している学生が多い。「新入生歓迎行事や大学祭などの学生行事」に積極的に参加している学生は44%で、他学部と比較して学生行事に最も積極的に参加している。ボランティア活動については、蔵本キャンパスの他学部と比較すると多いが、他のキャンパスの学部と比較すると低い値である。

「進路・就職について」は、「進路を考える上での情報入手手段」では、「インターネット」が25%、「先輩・知人」が23%と多く、全体の割合とほぼ同じである。「就職に際しての会社等情報の入手方法」も、「インターネット」が34%で最も多く、次に「先輩・知人」が19%で、全体の割合とほぼ同じであり、インターネットによる情報の入手の割合が高い。「希望職種」は「専門職（医師、看護師等）」が74%であり、歯学部、薬学部と同様に卒業後の進路が明確な学生の割合が高い。「キャリア支援室の利用状況」は、87%の学生が利用したことがなく、全体の85%とほぼ同じ割合である。相当数の学生が必要性を感じていない。医学部のように専門性の高い学部と理工学部とで利用状況がほぼ同じであるが、真に必要な情報、またインターネットで得られる情報以上のものが提供できているのかを吟味し、利便性を適切に周知する必要があるだろう。

9-3 歯学部

歯学部は歯学科と口腔保健学科の2学科から構成される。今回の調査の回収者数（回収率）は、歯学科137人（56.8%）と口腔保健学科44人（74.6%）であり、歯学科の回収率は前回調査（39.3%）に比べ大幅に増加し、口腔保健学科は前回と同程度であった。歯学部全体でみると回収者数（回収率）は181人（60.3%）であり、回収率は前回調査（47.0%）より増加し、学部別ではもっとも高かった。一方、全学平均回収率の40.0%は前回の42.1%と同水準であった。この理由としては、学年人数が比較的少数であることから、調査への対応を対面で依頼しやすいことが考えられる。今回、特に歯学科の回収率は増加したとはいえ約半数に留まっていることから、生活実態を正確に反映していない可能性も懸念されるが、これらの点を考慮して、以下に現状を分析し課題を考える。

歯学部学生の25%が自宅通学、64%が家族と別居しアパートあるいはマンションを借りており、9%が間借り（下宿）である。約3割は自宅生、約6割はアパート・マンション暮らしの傾向は前回および前々回調査と大差ない。1か月の家賃は3万円～6万円未満が79%を占め、前回調査の86%、前々回調査の81%と同程度であった。通学方法は自転車が最も多く72%を占め、徒歩通学の割合は10%、自動車の割合は10%であった。いずれも全学平均と同等であった。通学時間は15分未満が61%、15分～30分未満が23%、30分～1時間未満が13%であり、前回調査同様の傾向である。また、歯学部学生の12%が通学中の交通事故を経験しており、全体平均の6%より高く、全学部中もっとも高い傾向が続いているが、その原因は不明である。

経済面は、家庭の年収が750万円以上の学生の割合は30%であり、前回（25%）同様、前々回調査（52%）より低い傾向が続いていた。1500万円以上の割合は11%であり、全学部の中で最も高かった。一方、500万円未満の収入の家庭は17%であり、前回調査（15%）、前々回調査（23%）と大差なかった。ただし、「わからない」が50%近くあるため、分析に正確性を欠く可能性が高い。授業料免除状況では、「高等教育の修学支援新制度（又は大学独自の授業料免除制度）は知っているが申請していない」は72%であり、全学部中でもっとも高かった。一方、「高等教育の修学支援新制度（又は大学独自の授業料免除制度）を知らなかった」のは16%であり、前回調査（10%）に比べ増加した。全額免除あるいは一部減免を受けている学生は合計8%であり、前回（34%）および前々回調査（46%）よりも減少した。自宅外通学者の保護者等からの援助額については7%が援助を全く受けておらず、この割合は前回調査（10%）と同程度であった。一方、3～7万円未満の援助を受けている学生の割合は44%であり、前回調査（42%）と同程度であった。10万円以上の援助の割合は13%であり、前回調査（11%）と同程度であった。自宅外通学者の1か月の平均支出額は、3～5万円未満が27%、5～7万円が30%で比較的高かった。また、7～10万円未満（16%）、10～15万円未満（11%）、15～20万円未満（0%）の区分のいずれも、全学部平均と同等であった。一方、支出額3万円未満で生活を送っている学生は13%

であり、前回調査（13%）と同等であった。学生自身の経済状況は、「ゆとりがある」学生の割合が17%である一方、「大変苦しい」と回答した学生は9%であり、前回（8%）と同程度であった。奨学金を受給している学生の割合は23%であり、前回調査27%と同程度であった。一方、70%の学生は奨学金を希望しておらず、31%の学生はアルバイトをしていないが、いずれも前回調査と同程度であった。学生の57%は週に1～3日のアルバイトに従事しており、5%の学生は週に5日以上も従事している。1週間のアルバイト従事時間数は、5時間未満の学生の割合が29%、5～10時間未満が32%、10～15時間未満が20%を占める。これら3区分を合計すると81%となり、前回調査と同程度である。歯学部では学内臨床実習や研究室配属、学外臨床研修など長時間の実習・研修があるため、全体と比べるとアルバイト従事時間が短い学生の比率が高めになると考えられる。また、アルバイトによって勉学に「支障が生じている」と回答した学生の割合は11%と前回調査（18%）より低下した。アルバイト収入は5万円未満が74%を占め、それほど高額な収入は得ていない。84%はアルバイトにおけるトラブルの経験はないと回答している一方、12%は何らかのトラブルを経験しているが、この割合は前回（20%）、前々回調査（21%）より低下した。

歯学部男子学生の49%と女子学生の53%の睡眠時間は6時間未満である。また、男子の35%と女子の52%は健康状態について何らかの気になる症状を持っている。男子の症状はアトピー・アレルギー（14%）が最も高く、次いで、不眠（13%）、頭痛・めまい（7%）、下痢・便秘（6%）である。女子の症状は生理痛・生理不順（26%）が最も多く、次いで頭痛・めまい（19%）、下痢・便秘（13%）、アトピー・アレルギー（13%）、不眠（9%）である。喫煙に関して、男子の84%と女子の93%は喫煙歴がなく、喫煙している男子のうち、ときどき喫煙している学生は1%、毎日喫煙している学生は6%、喫煙している女子のうち、ときどき喫煙している学生は3%、毎日喫煙している学生は0%である。飲酒について、男子の26%と女子の27%は飲酒をせず、たまに飲酒する割合が男子58%、女子67%で最も高い。週3回以上の飲酒習慣があると回答した学生の1回あたりの飲酒量は、男子は1合未満が50%で最も多い一方で、3合以上4合未満が25%である。女子はすべて「2合以上3合未満」である。食事について、歯学部学生の36%は昼食に学内の食堂を利用し、25%は弁当を購入し、25%は弁当を持参している。

大学生活の意義としては「勉強や研究」が42%と最も高く、前回（48%）および前々回調査（37%）と同程度であった。他には「豊かな人間関係を結ぶこと」が17%、「将来を考えた資格等の取得」が15%を占めるが、「明確な目的はない」が10%あった。歯学部の男子の42%と女子の38%は悩みや不安は「ない」と回答している一方、悩みの内容としては男女ともに「勉学」（男子32%、女子34%）の割合が高く、男子の「経済状況」（28%）は前回調査（29%）から高止まりしていた。相談相手は男女ともに「友人」（男子52%、女子67%）と「家族」（男子43%、女子72%）の割合が高い一方、「誰にもしない」と回答した男子は30%、女子は12%であった。相談相手が学部の教員である割合は男子6%、女子10%と低く、教員が相談相手となれるような信頼関係の構築、担任制度のさらなる充実など、支援体制を拡充する必要性を認める。

迷惑行為に関して、92%の学生は迷惑行為を受けたことがないが、男子の3%が「ストーカー」の、女子の2%が「大学内でのセクハラ」の、男子女子ともに4%が「大学内のアカハラ」の被害を受けている。男子女子ともに1%が「サークル退部の阻止」の、男子の3%が「サークル内のいじめ」を受けている事から、学生間のハラスメントについても引き続き注視していく必要がある。「カルトの勧誘」は、女子の1%が被害を受けている。迷惑行為を受けた際の相談先は「誰にも相談しない」と回答した者が38%でもっとも多かった。また、総合相談室を利用したことがある学生は7%で、前回の10%と同程度であった。

大学事務室の対応について「満足」、「ほぼ満足」と感じる学生の割合は合計78%で、前回（79%）

と同程度であった。一方、「やや不満」と「不満」の合計は22%と全学平均より高く、引き続き教職員一丸となった学生支援を目指したい。

盗難等犯罪被害は10%の歯学部学生が被害に遭い、前回調査(13%)と同程度であった。被害の種類としては、男女とも盗難(男子13%、女子4%)が最も多かった。犯罪被害を受けた場所は男子では自宅・アパート(36%)が最も多く、女子では大学構内(50%)が最も多かった。歯学部では実習で私物の器材を数多く使用することから忘れ物も多く、その紛失が盗難と認識されている可能性があり、忘れ物を抑制する方策を考える必要がある。

修学状況として、本学を選んだ理由は「希望する学部・学科があったから」(55%)、「国立大学だから」(54%)が高く、次いで「地元の大学だから」(28%)であり、前回調査と同じ傾向である。歯学部学生の84%が所属学部に「満足している」、「ほぼ満足している」と回答しており、前回(88%)および前々回調査(82%)と同程度であった。授業満足度は、「満足」、「ほぼ満足」が83%で前回と同程度であった。不満な理由として、「教員の教え方に工夫が足りない」(58%)、「授業内容がつまらない」(52%)、「試験・レポートが多すぎる」(39%)が多い。その背景として、並行して開講される講義数が多いため、短時間で学修を進める工夫が教員側にも求められていることが考えられる。

オフィスアワーを「利用したことがある」歯学部学生は52%であり、全学部の中で突出して高い割合である一方、「オフィスアワーがあるのは知っているが、利用したことはない」学生も33%おり、利用しない理由としては「教員に相談するのが面倒である」(37%)、「講義内容を十分理解できるのでその必要がない」(25%)に加えて、「講義の理解は充分ではないが、どのように質問してよいか分からない」が15%あり、オフィスアワー利用のハードルを下げる努力が必要と思われる。担任制度については「満足している」、「どちらかといえば満足している」が95%であるが、不満足との回答もあることから、さらなる制度の充実が必要と思われる。

図書館の利用回数については、42%は週1回以上の頻度で、約7割程度の学生は月1回以上の頻度で利用している。図書館の利用目的は「自習」(70%)が最も多く、図書館サービスの満足度としては、「満足している」、「どちらかといえば満足している」が96%であった。

課外活動として、歯学部学生の70%が学内のサークルに加入しており、その内訳は体育系47%、文科系21%、サポート系2%である。一方、「加入したことがない」、「以前加入していたが現在は加入していない」は28%であり、加入しない理由として「魅力的なサークルがない」(12%)、「学業の妨げとなる」、「アルバイトをしているので時間的余裕がない」、「通学に時間がかかるので時間的余裕がない」がそれぞれ10%と多く、前回より理由が分散していた。サークルに加入した主な動機は、「サークルの活動内容に魅力があったから」(29%)、「学生生活を豊かにするため」(26%)が多かった。

歯学部学生の42%は学生行事が「必要だと考えており積極的に参加している」と回答した一方、残りは「必要だと思うがあまり参加してない」、「どちらでもいい」、「なくてもいい」であり、行事参加に対する温度差がはっきり分かれる結果となった。87%の歯学部学生はボランティア活動の経験がなく、前回調査(89%)と同程度であった。

歯学部の場合、進路や就職の情報の入手手段は限られており、「先輩・知人」(26%)と「指導教員」(19%)が多いが、「インターネット」(22%)も主な手段になっている。進学・就職の相談相手は他学部同様、「家族等」(33%)が最も割合が高く、次いで「知人・先輩」(30%)、「教員」(27%)である。歯学部学生の就職希望は71%、進学希望は22%であり、前回と同様であった。歯学科においては歯科医師免許取得後1年以上の臨床研修が義務づけられているため、大学卒業後すぐに進学できないことが、進学希望者が少ない理由と考えられるが、昨年度より、臨床研修1年目から基礎系大学院入学が認められたことから、その周知を徹底し、進学希望者の増加に期待したい。就職先選択で重視するものは「収入」(27%)、「就職先の将来性・安定性」(21%)、「就職先の社会的評価」(16%)が高い。就職情報の入手先として、「イ

ンターネット」と「先輩・知人」がいずれも25%と高く、次いで「指導教員」(17%)である。希望する職種は専門職が79%であり、卒業後の進路が明確な学生の割合が高い。キャリア形成のための学外活動について、「キャリア形成を意識したアルバイト」(17%)、「留学」(12%)、「ボランティア」(11%)の割合が高い。また、97%の歯学部学生はキャリア支援室を利用したことがなく、歯学部では独自の研修医説明会や卒業生・開業OBによる就職説明会を開催し、学生を支援している。加えて、歯学部同窓会主催で同窓生と歯学科6年生、口腔保健学科4年生との懇親会を設け、全国各地の歯科医師や歯科衛生士の需給状況などの情報を直接収集できる機会を提供している。今後も、歯科学科学生に対しては同窓会や後援会の協力を得ながら、口腔保健学科学生に対してはキャリア支援室と連携を図りながら、医療専門職に適した就職支援体制を充実させたい。

以上、歯学部学生生活の実態からいくつかの課題が浮かび上がった。本調査の結果はコロナ禍が収束しつつある時期を反映していると推測され、コロナ禍前、コロナ禍中の結果と直接の比較が困難な点も多いと推測するが、問題点の概要を以下に示し、今後さらに具体的対策を検討する。

- 1) 人権の尊重意識の啓発と徹底
- 2) 修学に支障のある学生への積極的指導とサポート
- 3) 大学事務室の対応改善
- 4) 大学構内の治安改善

9-4 薬学部

薬学部は、現在異なる2つの教育制度が学年進行中で、4年次以上は薬剤師養成を主たる目的とする6年制の薬学科と、創薬・製薬科学の研究者養成を目的とする4年制の創製薬科学科の2学科で構成され、3年次までは4年制を融合した新6年制の薬学科のみで構成されている。そのため今回の調査対象の内訳は、薬学科373名(1~3年生251名、4~6年生122名)、創製薬科学科42名(4年生)の合計415名である。回収率は、薬学科57.4%、創製薬科学科52.4%、薬学部全体で56.9%(前回調査49.4%)と、前回の調査から微増したが回収率の低下は続いている状態だった。回収率の減少は全学的に見られ(40%)、その主な原因はCOVID-19流行下、感染防止対策として調査方法をこれまでの紙媒体からWEBを用いた方法に変更したためと考えられる。WEBを用いた調査法では当初から回収率の低下が危惧されたことから、メールにて何度となく調査への協力を呼び掛け、回答期限も延長したが、回収率は上がらなかった。薬学部の状況をよりの確に把握するためには、アンケート回収率の向上が必須であることから、WEB調査における新たな回収率向上に向けた工夫が課題となる。

「住居・通学」について、自宅からの通学生の割合は12%(全体平均28%)であり、他学部と比較して最も低い。この結果は、前回調査(19%)、前々回調査(19%)と同様であり、県外からの入学者が多い傾向に変わりはない。通学方法としては「自転車」が最も多く(79%)、通学時間は「15分未満」が77%であった。通学中に交通事故に遭った学生の割合は8%(全体平均6%)であり、前回調査(7%)、前々回調査(12%)と横ばいしており、今後も交通安全への意識喚起に継続的に努める必要がある。

「収入・支出」について、「家庭の年収状況がわからない」との回答が41%と高かったことから、前回調査との数値の比較は難しいが、前回同様、500万円~1000万円の家庭が多かった。自宅外通学生の1か月の平均支出額は全体平均とほぼ同じで、3~5万円未満が最も多く(33%)、7万円以上と回答した割合は27%と前回調査(21%)から微増している。一方、アルバイトをしていない学生の割合は37%で、全体平均30%より高いが、前回調査(46%)より下がった。アルバイトに従事している学生も、勉学に支障をきたさない範囲で行っている学生が多く(86%)、1週間のアルバイト従事時間が10時間未満57%(全体平均46%)、1か月のアルバイト収入が3万未満32%が全体平均(24%)よりも高く、

3～5万円未満が42%と全体平均（36%）よりも高かった。一方、保護者から1か月に7万円以上の援助を受けている学生は31%と多く、奨学金については34%の学生が「現在受給中であり、受給の継続（または増額）を希望する」と回答した。経済状況について、「やや苦しい」あるいは「大変苦しい」と回答した学生が30%を占め、増加がみられた前回調査（34%）と同程度であった。これらの結果は、COVID-19禍の影響の有無にかかわらず、学生の多くが依然として生活に余裕がないことを示唆しており、奨学金や授業料免除等の学生への経済的支援は今後も重要課題である。なお、授業料免除制度の周知に努めているが、「高等教育の修学支援新制度（又は大学独自の授業料免除制度）を知らなかった」と回答した学生は14%（全体平均19%）と、前回調査（12%）からわずかに増加しており、周知方法の再検討が必要と思われる。

「健康状態」について、睡眠不足とされる6時間未満と回答した学生の割合が男子35%、女子40%と前回調査と変わらなかった。気になる症状が「特にない」と回答した学生は男子では66%と、前回調査（79%）、女子では45%と前回調査（53%）とどちらも減少しており、半数近くの学生が何らかの気になる症状を抱えている。今後も健康維持管理を目的とした専門相談機関であるキャンパスライフ健康支援センター保健管理部門と連携した、きめ細かい生活指導の必要性が感じられる。喫煙に関しては、「喫煙したことがない」と回答した学生は、男性84%、女性95%。飲酒に関しては、飲酒習慣がみられなかった（1週間の飲酒回数が0～2回）学生の割合は、男性99%（前回調査94%）、女性98%（前回調査98%）と、前年と大きな変化はなかった。COVID-19流行下での行動制限により、飲酒機会が減少したことが継続されていると思われる。

「食事」について、昼食の利用場所として「学内の食堂を利用」との回答（61%）が最も多く、前回調査（64%）とほぼ変わらない。また、「自宅（下宿）にて自炊」及び「自宅（下宿）から弁当を持参」が27%と、前回調査（19%）から増加したのは、COVID-19流行の影響を受けていると思われる。

「学生生活上の問題点」について、多くの学生が様々な不安・悩みを抱えている（悩みや不安が「ない」との回答は37%）。しかし、前回調査（34%）と変わらないことから、COVID-19禍で就学・生活環境が変化した影響はあまりないようである。「迷惑行為を受けたことがない」と回答した学生の割合は、男子で98%、女子で93%と、前回調査と変わらない。しかし、多くはないが、いたずら電話、ストーカー、ハラスメント等の被害を受けた学生がいる。迷惑行為を受けた薬学部の学生は全て学務係に相談しており、学務係の手厚い支援と普段からのコミュニケーションによって、学生から信頼を得ていることが伺える。学生に、問題を一人で抱え込まずに学務係に相談することを指導してきた結果と学務係の努力が反映されたのであれば幸いである。精神面のケアを含め総合相談部門（総合相談室）と連携した継続的な啓蒙活動・予防対策を推進していくことが求められるが、「総合相談部門（総合相談室）を知らない」と回答した学生が14%おり、前回調査（16%）及び全体平均（20%）よりは低いが、周知に一層努める必要がある。大学生生活の意義について、「勉強や研究」と回答した学生の割合が55%と、今回も薬学部が最も高く、専門性の高い職業に結びつく学業への意識が高いことがうかがえる。

「修学状況」について、本学を選んだ理由としては前回調査と同様、「希望する学部・学科があったから」、「国立大学だから」の順に回答が多く、薬学部に「満足している」あるいは「ほぼ満足している」と答えた学生は89%（前回調査91%）、授業に対して「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた回答は89%（前回調査88%）で、ともに前回調査とほぼ変わらなかった。1年次から学科毎に特色ある科目を導入したことなどが、高い目的意識を持って入学した学生の満足度に結びついたと推察される。一方で、授業に満足できない理由として、前回調査でも上位であった「授業内容がつまらない」、「教員の教え方に工夫が足りない」に加え、「授業内容が難しすぎて理解できない」、「試験・レポートが多すぎる」も高い数値を示した。授業改善への要望として教員は受け止める必要がある。学修支援制度の利用状況に関しては、オフィスアワーを「利用したことがある」は17%と前回調査（29%）より減少

しているが、教員が随時学修支援を受け付けていることも減少した一因として考えられる。クラス担任制度に「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせると96%と前回調査(91%)よりも若干増加している。COVID-19の影響が少なくなり、毎月クラス会を実施するようになったことが要因と考えられる。図書館の利用状況は、これまでと変わらず低い。その理由として、薬学部内に学習スペースがあることで、図書館の主な利用目的である「自習」(80%)が、ある程度満たされているためと思われる。

「課外活動」について、サークルへの加入率は76%と高く、加入動機として「友人を得るため」(19%)と「学生生活を豊かにする」(20%)を挙げた学生の割合が他学部比べて多いのが特徴である。一方で、ボランティア活動への参加はこれまでと同様に低調であり、参加した学生の割合は11%と、前回調査(8%)とあまり変化がなかった。COVID-19流行下でボランティア活動自体が縮小されたことが続き、先輩から後輩への伝承が途絶えたことが大きな要因と思われる。ボランティア活動は学生教育の一端を担う面もあることから、学部として学生の活動を促す取り組みの必要性を感じる。

「進路・就職」について、就職を希望する学生は77%であり、希望職種としては「専門職(薬剤師)」が最も多い(51%)。薬学科と創製薬科学科では卒業後の進路が大きく異なるため、回答数に占める薬学科生の割合が創製薬科学科生に比べて高いことを反映した結果であると思われる。就職先選択で重視する要件として、「収入」、「就職先の将来性・安定性」、「就職先の社会的評価」が上位を占めていた。情報入手手段としては、「インターネット」、「先輩・知人」、「指導教員」が上位を占め、一方で、92%の学生が「キャリア支援室を利用したことがない」と回答している。薬学部では独自の就職支援活動に加え、キャリア支援室とも連携した就職支援の強化を図っているが、今後も学生のニーズに応じたきめ細かい就職支援に一層努力する必要がある。

教育目標が異なる6年制薬学科と4年制創製薬科学科を併設する薬学部では、令和3年度入学生から6年制に4年制を発展的に融合した新薬学科に一本化された。今回の調査の結果は、COVID-19禍の影響が反映したと思われる項目もみられたが、全体として前回調査結果と大きく変わっておらず、学部学生の実生活態には教育制度変革による大きな変化は見られなかった。しかし、暫くは学年進行に伴う教育制度改革の影響を的確に把握するために、本調査の回収率を向上させて、信頼性の高いデータ収集を心掛ける必要がある。そして、集めたデータを活用して、学生の視点に立ったより良い修学・生活環境の実現に向けた実効性のある学生支援体制の充実に努めていくことが求められる。

9-5 理工学部

「住居・通学」について、理工学部昼間の学生は自宅が25%と他学部と比べて低く、夜間の学生は34%と他学部と比べてやや高い。また、1か月家賃は、4万円未満とする学生の割合が昼間で55%、夜間で63%とどちらも他学部と比べて高い値となっている。

「収入・支出」について、夜間では、家庭の年収が500万円未満と回答した学生が54%と最も多く、他学部と明らかな差異が見られる。また、750万円未満とする学生は、夜間では65%と3分の2近くに上っている。一方、昼間は生物資源産業学部や薬学部と同程度の34%であり、大学全体の平均に近い。30%以下と回答している医学部や歯学部の学生との差異が認められる。また、保護者からの援助が全くないと回答した学生が昼間では他学部と同程度の9%であるが、夜間では30%と高い。現在の経済状況について理工学部昼間の学生は「大変苦しい」が11%であり「やや苦しい」も含めると34%と大学全体の平均に近い。一方、夜間の学生は「大変苦しい」が21%であり「やや苦しい」も含めると42%とやや高い傾向にある。奨学金を受給している学生は昼間では37%であり大学全体の平均に近い。一方、夜間では50%と他学部と比べて多い。アルバイトによって勉学に支障が生じていると答えた学生は理

工学部昼間で17%、夜間で29%となっており、他学部に比べて多い。引き続き大学としては経済的不均衡を考慮しながら学内での奨学金の採用方法等について検討していく必要があるだろう。

「健康状態」について、喫煙の頻度や程度については、理工学部夜間の女子に喫煙の回答が若干見受けられるが、大学全体としても喫煙する学生は少なくなっている。飲酒について、男子学生（女子学生）の回答では「飲酒はしない」が昼間では47%（40%）であり夜間では44%（82%）となっている。また、「たまに飲酒する」が昼間では43%（50%）であり夜間では46%（18%）となっていることから現状を維持していくことが望まれる。飲酒の量については若干多くなっている学生がいることがわかる。「食事」について、昼食は主にどこを利用しているかの回答として、前回調査では「自宅（下宿）」が昼間は53%、夜間は77%であったのに対して今回調査ではそれが昼間は24%、夜間は30%に減る一方で「学内の食堂を利用」が昼間は53%、夜間は33%とそれぞれ最も多くなっており、コロナ禍の影響がなくなり生活の拠点が大学に戻ってきたことがはっきり読み取れる。

「学生生活上の問題点」について、大学生活で何を重視して生活しているかの回答として「勉強や研究」が理工学部昼間では43%、夜間では51%となっており大学全体の平均に近い。一方、「サークル活動」は理工学部昼間では8%、夜間では2%と低いながらも前回調査の2倍近い結果となっている。コロナ禍がなくなりサークル活動が復活してきていることが伺える。現在の悩みや不安についての複数選択において理工学部の学生は「就職や進路」に47%と一番多くの回答をしている。夜間の学生は「勉強」に44%と回答していて昼間と夜間の学生間に若干の差異が見られる。今後も引き続き学生への指導や相談においてきめ細やかな対応が必要である。また、勉強や研究への動機・意欲を向上させるためのさらなる取り組みも必要であろう。理工学部では“履修相談室”を設置し、全学の施設である“キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門”等との連携を行なっているが、総合相談部門等の利用は少なく、友人が主な相談相手となっている。女子は男子に比べて友人や家族に相談する割合が高い。また、「誰にもしない」と回答する学生が男女で2割程度おりクラス担任や指導教員、それ以外の教員に相談する学生は男女とも数%に留まっている。教員側からも学生に積極的に働きかけ学生にとって相談しやすい存在となるよう努力していく必要がある。迷惑行為としてはいたずら電話を受けたと答えた理工学部夜間男子が6%と突出して高かった。またストーカー行為を受けたと答えた理工学部夜間女子が18%、カルトの勧誘を受けたと答えた理工学部夜間女子が9%と際立って高かった。コロナ禍が終わり対面授業となる中で、夜間の帰宅には一層の注意が必要と思われる。迷惑行為の相談先については「誰にもしない」と回答する学生が理工学部昼間で9%いる。総合相談部門（総合相談室）のさらなる利用が望まれる。犯罪被害では理工学部昼間男子の7%、理工学部夜間女子の18%が盗難にあったと回答しており、注意が必要である。

「修学状況」について、理工学部学生の入学動機は、複数回答において「国立大学だから」が多く、昼間の学生で60%、夜間の学生で64%の回答があり大学全体の平均が59%であることから分かるように理工は他学部とほぼ同様であると考えられる。次に多かった「希望する学部・学科があったから」の回答は34%程度であり、「地元の大学だから」と「高校の進学指導による」の24%程度が続いている。理工学部への満足度については、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせると昼間で85%、夜間で82%とどちらも高い数値がでている。授業の満足度については、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせると昼間で80%、夜間で70%となっておりまずまずの評価を得られているものと考えられる。一方、授業が満足できない理由の複数回答における多数の理由が「授業内容がつまらない」となっており、昼間の学生で42%、夜間の学生で39%と高い値を占めている。オフィスアワーの利用については昼間で11%、夜間で15%とあまり利用されていないことがわかる。現在のクラス担任制度の満足度は、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせて、昼間で94%、夜間で93%と概ね好評であることが分かる。引き続きクラス担任にはきめ細やかな指導をお願いしたい。

「課外活動」について、学内・学外を問わずサークル活動に加入していない学生が昼間で49%、夜間で68%であり、何らかのサークル活動に加入している割合が他学部と比較してもかなり低い傾向にある。サークル活動に加入した主な動機は「サークル活動内容に魅力があったから」と答える学生が昼間で54%、夜間で30%となっており他の理由より高い値を示している。サークルに加入しない主な理由としては「学業の妨げとなる」「個人の自由が束縛される恐れがある」「アルバイトをしているので時間的余裕がない」がそれぞれ10%程度選択されている。また、「特に理由はないが何となく」の回答が一番多く昼間で29%、夜間で27%となっている。新入生歓迎行事や大学祭などの学生行事が「必要だ」と考えている学生は半数以上いることがわかる。

「進路・就職」について、就職先を考える上での情報入手手段は、複数回答において「インターネット」と回答した理工の学生が昼間で23%、夜間で24%と最も多く、次いで、「先輩・知人」が約17%であり、「指導教員」が約11%と続いている。進路・就職について信頼できる相談相手については、「家族等」が昼間で36%、夜間で30%と高く、「知人・先輩」が昼間で28%、夜間で27%と続き、若干下回って「教員」、「職員」の順となっている。就職先選択で重視するものについては、「収入」が29%～31%、「就職先の将来性・安定性」が22%～23%、「就職先の社会的評価」が17%となっており、前回調査よりも「収入」を重視する傾向となってきた。就職に際しての会社等の情報の入手方法については、「インターネット」が29%～31%と最も高く、「就職担当教員」や「キャリア支援室や就職相談員」と回答する学生は数%にとどまっている。希望職種は理工学部の特性から「技術職」が昼間で35%、夜間で42%と他学部とは異なる傾向がみられる。また、「大学・官公庁の教育・研究職」と「公務員」を合わせると24%程度の学生が希望職種として検討していることがわかる。キャリア形成を目的として学外で関わりをもった活動について、昼間の学生では「インターンシップ」が28%、「ボランティア」が15%、「キャリア形成を意識したアルバイト」が13%と続き、「なし」の回答も29%となっている。夜間の学生では「なし」が44%と高くなっている。キャリア支援室の利用状況については理工学部の昼間で16%、夜間で13%の学生が利用しており、前回調査時に比べて増加してきている。

9-6 生物資源産業学部

生物資源産業学部（1学年定員100名）は、カリキュラム改定により、令和3年度から新カリキュラムによる教育課程を実施している。本調査時には、3年次までは新カリキュラム、4年次のみが旧カリキュラムによる教育を受けている。本調査から本学部学生の実態を検討し、前回の調査結果も踏まえて、今回の調査結果から見えてくる本学部の現状と課題を以下にまとめた。今回、対象者420人中152人（回収率36.2%）から回答を回収したが、全体平均を下回る回収率であり、前回の当学部の回収率よりも下回っていた。現在、アンケート回収率を上げるための対策を実行している。

「住居・通学」は、「自宅（家族と同居）」から通学している学生の割合が32%（前回34%）、家族と別居して「アパート・マンション」から通学している学生の割合が57%（前回56%）で全体平均と同等であり、前年度と大差はなかった。家賃については、「5万円未満」が80%であり、前回（85%）より減少している。通学方法は、「自転車」が70%と最も多く、前回（67%）より増加しており、「バス・JR」を利用する学生の割合は14%と前回（13%）とほぼ同等であった。通学時間は「15分未満」が64%と前回（58%）より増加しており、「30分～1時間未満」は18%（前回17%）と変わらず、バス・JRの利用が反映していると考えられる。通学中の「交通事故」の被害は5%であり、前回（3%）より若干増加しており、更なる交通安全への注意喚起が必要である。

「収入・支出」は、「家庭の年収」では250万円未満が8%（前回8%）、250～500万円未満が9%（前回10%）、500～750万円未満が16%（前回15%）、750～1000万円未満が7%（前回13%）、1000万

円以上が14%（前回7%）で、全体平均に類似しているが、前回と比較すると750～1000万円未満が6%減、1000万円以上が7%増となっている。また、500万円未満が17%であるのに対し、授業料全額免除を受けている学生が5%、一部減免を受けている学生が7%である。高等教育の修学支援新制度を申請していない学生58%（前回43%）、制度を知らない学生22%（前回4%）であることを考えると、支援が受けられるにも関わらず、申請していない学生の存在が示唆される。特に、知らない学生が前回より18%も増加していることは周知方法の対策が必要と考える。自宅外通学者の保護者からの援助額は、「全くない」は9%（前回11%）、「3万円未満」が17%（前回18%）、「3～5万円未満」が32%（前回43%）、「5～7万円未満」が17%（前回13%）、「7～10万円未満」が15%（前回10%）、「10万円以上」は合わせて8%（前回6%）であり、前回より、3～5万円未満の援助は減少し、5～10万円未満の援助が増えている。自宅外通学者の1か月の平均支出額は、「3万円未満」19%（前回24%）、「3～5万円未満」38%（前回42%）、「5～7万円未満」20%（前回21%）、「7～10万円未満」13%（前回10%）、「10～15万円未満」5%（前回2%）となっている。前回と比較すると、5万円未満の支出が減少し、7万円以上の支出が増えており、学生の支出は増加傾向にある。現在の経済状況は、「ゆとりがある」「普通」の双方の回答は76%（前回73%）であるが、13%（前回23%）の学生が「やや苦しい」、12%（前回4%）の学生が「大変苦しい」と回答し、「大変苦しい」学生が増えているとみられ、経済的な支援が必要である。奨学金については、33%の学生が受給を受けており、前回41%と比べて減少した。「アルバイト」は、76%（前回61%）の学生が行っており、アルバイトをしていない率が前回の40%から25%に減少していた。従事時間は1週あたり「15時間未満」の学生が67%（前回66%）であるが、一方、「15～25時間未満」が29%（前回31%）、「25時間以上」が3%（前回2%）と時間数の多い学生も存在する。「アルバイトで勉学に支障がある」と答えた学生は9%（前回11%）であり、全学部の中では最も低い。また、アルバイト収入額として、1か月あたり「3万円未満」19%（前回20%）、「3～5万円未満」36%（前回51%）、「5～7万円未満」30%（前回24%）で、一方7万円以上は合わせて13%（前回5%）となっており、収入額が増えている傾向にあるが、全体平均と同等でもあった。

「健康状態」は、「睡眠時間」では、他学部と同様に大半の学生が4～8時間である。男子学生の23%（前回31%）および女子学生の48%（前回43%）がなんらかの気になる症状があると回答しており、保健管理センターと連携した対処を推進すべきと思われる。「喫煙」は、男子で87%（前回95%）、女子では98%（前回100%）の学生が「喫煙したことがない」と回答し、「飲酒」は、男子36%（前回47%）および女子43%（前回52%）の学生は、「飲酒はしない」と回答している一方、男子の53%（前回40%）、女子の50%（前回37%）が「たまに飲酒する」としている。前回と比較すると、飲酒の機会が増えている可能性が伺える。

「食事」は、学内の食堂利用52%（前回28%）、学外の食堂利用4%、売店で購入11%（前回8%）、自宅（下宿）18%（前回55%）、弁当持参13%であり、前回とくらべ、生協の利用の増加、自宅での食事の減少が顕著である、学生生活がコロナ禍以前に戻っていることが示唆される。

「学生生活上の問題」では、「大学生活で何を重視した生活をしているか」に対する回答として、「勉強や研究」が52%（前回54%）と大学教育の理念に沿った学生が過半数である。一方で「趣味・娯楽」が11%（前回12%）、「明確な目的はない」が11%（前回13%）であり、指導改善がさらに必要と考える。「悩みと相談」では、本学部男子の29%（前回32%）と女子の27%（前回21%）は「悩みや不安はない」と回答しており、前回とさほど差異はなかった。悩みの内容は、男女とも「就職や進路」、次いで「勉強」が多かった。ただ、悩みは多様化しており、対応方法も様々である。悩みの相談相手として、男女共に「友人」（男子74%（前回63%）、女子66%（前回64%））と「家族」（男子63%（前回60%）、女子66%（前回68%））が多かった。一方で、男子10%（前回19%）、女子12%（前回15%）

は「誰にもしない」と回答しており、クラス担任や指導教員がよき相談相手になれる体制をより一層強化すべきと考える。「迷惑行為」を受けた学生の割合は9%であり、前回(4%)より上昇しており、注視が必要と考える。主な迷惑行為としては、「ストーカー」、「いたずら電話」、「悪徳商法」、「セクハラ」、「カルトの勧誘」などであり、相談先として、前は「家族」だったが、今回は「友人」に相談している。さらに、総合相談室は14%(前回13%)の学生が利用しているが、21%(前回18%)の学生が総合相談室の存在を知らないため、周知が必要である。大学事務の対応に「満足している」が32%(前回27%)、「ほぼ満足している」が60%(前回61%)、合わせて92%(前回88%)と高い値であった。また、盗難犯罪被害として7%(前回4%)の学生が被害にあっており、そのほとんどが盗難であった。被害場所は、主に大学構内、自宅・アパートであり、指導教員等を通じ一層の注意喚起が必要である。

「修学状況」は、「本学を選んだ理由」として、「国立大学だから」が63%(前回64%)で最も多く、「希望する学部・学科があったから」が52%(前回47%)、「地元の大学だから」が34%(前回34%)であった。「所属学部の満足度」は、「満足している」38%(前回31%)、「ほぼ満足している」51%(前回55%)、合わせて89%(前回86%)と高比率を維持している。「授業の満足度」では、「満足している」26%(前回20%)、「ほぼ満足している」57%(前回65%)、合わせて83%(前回85%)と高かった。しかし、「やや不満足である」、「不満足である」と答えた学生が17%(前回15%)も居ることは問題である。授業に満足できない理由としては、「授業内容がつまらない」が69%(前回71%)と最も多く、次いで「授業内容が難しすぎて理解できない」が54%(前回17%)、「教員の教え方に工夫が足りない」が50%(前回50%)である。授業内容が理解できないとする率が高くなり、対策が急がれる。また、本学部では、「オフィスアワー」の認知度は80%(前回85%)と高いが、「利用したことがある」のは14%(前回25%)と低い。「担任制度」は、「満足している」が47%(前回53%)、「どちらかと言えば満足している」が45%(前回44%)、合わせて92%(前回97%)である。「図書館の利用状況」は、「1週間に1回以上来館する」割合が46%(前回26%)となり、前回より増加している。「図書館を利用する目的」では、「図書等の貸し出し」及び「図書等の閲覧・コピー」が56%(前回54%)、「自習」が83%(前回65%)である。文献や図書の利用を増やす方策が必要であろう。

「課外活動」は、「学内の文化系サークルに加入している」が20%(前回19%)、「学内の体育系サークルに加入している」が27%(前回36%)、合わせて47%(前回55%)である。前回より学内サークル加入率は減少しており、また、他学部より加入率は低い。加入理由として、「サークルの活動内容に魅力があったから」が52%(前回51%)を占めている。また、「サークルに加入していない理由」には、「魅力的なサークルがない」、「通学やバイトで時間的余裕がない」、「学業の妨げとなる」や「個人の自由が束縛される」等が挙げられる。「学生行事」は必要だと考えるのは77%(前回67%)であるが、「積極的に参加している」は34%(前回29%)である。「ボランティア活動の経験」は、「個人でしたことがある」が18%(前回14%)、「団体(組織)に入っていたことがある」が12%(前回14%)、合わせて30%の学生がボランティアを経験している。

「進路・就職」では、「進路情報入手手段」は「インターネット」、「先輩・知人」、「指導教員」、「大学内資料」の順で多く、「相談相手」は「家族等」、「知人・先輩」、「教員」の順で割合が多い。「卒業後の進路希望」は、「就職」希望が38%(前回42%)、「進学」希望が58%(前回53%)と、前回よりも進学希望の方が多い。「就職先選択」では、就職先の収入、将来性・安定性、社会的評価を重視している。「就職情報の入手方法」は、インターネットが最も多かった。「就職の希望職種」は、「公務員」、「技術職」、「企業等の研究職」、「総合職・営業職」、「事務職」など多岐に亘っており、本学部の特徴であろう。「キャリア形成目的の学外活動」では、「インターンシップ」が29%(前回35%)と他学部より高い傾向にある。本学部には、長期インターンシップの必修化、専門性に併せたインターンシップの必然性があるためと考えられる。「キャリア支援室の利用状況」は、82%(前回87%)の学生が「利用したことはない」

と回答しており、周知方法もしくは利用方法の強化を図る必要がある。

本年度の調査結果から、高等教育の修学支援新制度を知らない学生が増えていることが明らかになった。制度を利用すべき学生が居るにもかかわらず、利用していない可能性があるため、制度の周知を行う対策が必要と考える。一方、進学希望者が増えてきており、今回の調査で得られた貴重なデータを活かすべく、今後は、学部専用棟建設の検討も視野に入れ、より良い修学・生活環境を構築するための学生支援に尽力していくことが求められる。

第10章 総括と提言

第31回学生生活実態調査は、本学に在学する学部学生全員（5,814人）を対象として実施し、2,328人から回答を得た。回収率は、第27回59.1%、第28回64.0%、第29回68.6%と着実に向上していたが、前回は42.1%、今回は40.0%であった。調査方法の改善・検討が行われ冊子体による調査を取り止めることとなりWEBによる調査のみを実施することとなった。このことが回収率の低下につながったと考えられる。また、今年度は、対面授業を基本としつつ、こうした遠隔による調査他は継続されるという混在した状況となり、学生の負担はむしろ前回よりも大きいと言える。設問も入念に再検討し、設問数の若干の削減も試みたが、まだ十分とは言えず次回以降のさらなる見直しが必要であろう。実態の正確な把握には高い回収率が必須であり今後この回収率を上げる新たな工夫が求められる。

調査項目は、「基本的事項」、「住居・通学」、「収入・支出」、「健康状態」、「食事」、「学生生活上の問題点」、「修学状況」、「課外活動」、「進路・就職」の9項目である。過去の調査と現状を対比して質問内容の見直し（内容修正、設問の削除）を行い、今回の総設問数は72問とした。

今回の調査結果から把握した学生生活の現状と問題点を整理し、全学的な立場から学生生活支援を実施していくために、以下の総括と提言をまとめた。

1. 住居・通学について

全体の80%以上が30分未満の通学時間であることから、大学の近くに住居があり、通学している学生が多い。一方、今回の調査では通学中に何らかの交通事故に遭った学生は、全体として6%であり、前回調査とほぼ同様である。本学においては自転車通学者が72%にも達していることから、自転車事故への注意喚起と交通安全に関する指導を今後も継続していく必要がある。

2. 経済状況について

学部間に差違はあるが、家庭の収入が250万円未満に満たない家庭が8%で、これに対応して「生活が大変苦しい」という学生が10%、「生活がやや苦しい」という学生が23%にのぼる。授業料免除制度に関しては、「高等教育の修学支援新制度（又は大学独自の授業料免除制度）は知っているが申請していない」との回答が62%にのぼる。今後、制度の周知徹底を図ると同時に、授業料免除の制度を活用しない理由について調査し、申請しやすい環境や体制を整えるように取り組む必要がある。

生活費や学資のためにアルバイトをしている学生の比率は55%である。一方で、17%の学生がアルバイト中に何らかのトラブルに巻き込まれている。今後は、被害に遭った学生からの情報収集を含め、被害を未然に防ぐように方策を練る必要がある。

3. 健康状態について

4時間未満の過度の睡眠不足の学生が男子3%女子2%、さらに何らかの気になる症状を抱えている学生が男子29%女子50%で、ほぼ例年と同様である。これらの症状への対処や生活習慣等の生活面の指導を含めた対処法の事例や解決の手伝いをする仕組みが、キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門等の大学側の仕組みとしてあることを十分に周知することが大事である。また、毎年の健康診断をしっかりと受診するような周知も不可欠である。

喫煙については、現在でも4%の学生が喫煙をしている。これら喫煙学生に対しては、積極的な禁煙指導や治療などの対策が必要である。キャンパス内の禁煙区域は年々拡大しており、構内における分煙の徹底やマナー向上、非喫煙者への配慮をさらに目指すべきである。

4. 食事について

朝食をほとんど取らない学生が21%いるという状況は、前々回、前回調査とほぼ同じである。これについては生協食堂からの協力もあるが、なかなか改善していない。当人も自覚するような顕著な障害が現れないためであろう。住居別では、学生寮、間借り（下宿）、アパート・マンション（家族と別居）学生の朝食率がそれぞれ54%、36%、44%であり、自宅学生の67%に比べて大きく下回っている。勉強効率の低下に加え、健康への影響も懸念される。一人暮らしの学生に対する健康指導を推進していく必要がある。

大学内の食堂の利用者が、前回調査の29%から49%に増大し、自宅で昼食を取る学生が54%から19%に減少したことは、新型コロナウイルスの影響が少なくなり、大学での対面授業が中心となったためと考えられる。

5. 学生生活上の問題点について

大学生活の意義として、「勉強や研究」を重視する学生が最も多いことは望ましい傾向であるが、一方で、「明確な目的はない」というネガティブな回答も前回同様に12%ほど存在していることは問題で、ケアする必要がある。

悩みや問題があっても誰にも相談しない学生が、男子の10～30%、女子の8～18%相変わらず存在し、その中には相談すること自体によって何らかの解決法が見つかるものも存在するはずである。担任教員やゼミの指導教員などは、悩みを持ちながら相談できずにいる学生を見つけたら、相談先や相談方法について伝えていくことを心がける必要がある。

また、キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門（総合相談室）があることを知らない学生が20%存在し、前回調査より微減したが、総合相談部門での相談が必要と思われる学生に対して、相談方法も含め、十分に情報が行きわたるようにしっかりと周知する必要がある。

何らかの迷惑行為を受けたことがある学生は7%であり、前回調査（6%）より微増した。成人後間もない学生が様々なトラブルに巻き込まれないように、対処法をしっかりと伝えておく必要がある。

セクハラおよびアカハラについては全体では共に1%であるが、学部によっては2%の女子学生がセクハラ被害にあい、学部全体としても2～4%がアカハラ被害にあったと答えている。大学内におけるハラスメント行為の根絶に向けて、学生・教職員等の構成員全てが十分な意識共有のもと真摯に取り組む必要がある。

6. 修学状況について

現在のクラス担任制への満足度は、全体としては92%であり、担任制度がうまく機能していることが伺える反面、「オフィスアワーについて知らない」学生が26%もあり、その活用方法も含めて周知が必要である。

図書館の利用については、「1週間に1回以上来館する」と回答した学生が、前回調査24%から38%に増大し、サービスに対する満足度は97%と微増した。また、「半年に1回程度か、それ以下の来館頻度である」と回答した学生は、前回調査41%から28%に減少した。新型コロナウイルスによる活動制限の影響が減少したと考えられる。今後は、さらに、大学内における修学施設である図書館の積極的な利用を促すことが肝要である。

7. 課外活動について

サークル加入率は全体で63%を占めており、前回調査63%と同程度であった。課外活動を通し、学生が社会人として必要な様々な資質を自主的に身につけ、鍛練することを切に願う。38%の学生が

課外活動を行っていないが、課外活動以外の大学祭等の学生行事やボランティア活動などで、社会における必要な資質を自主的に学んでいただきたい。

新入生歓迎行事や大学祭については「必要だ」と考える学生が、前回とほぼ同様に全体で72%であり、「どちらでもいい」「なくてもいい」とする学生が全体で27%であった。学生の興味が多様化している結果と考えられる。

8. 進路・就職について

進路情報の主な入手先は「指導教員」、「先輩・知人」、「インターネット」となっており、キャリア支援室は5%であった。また、「進路、就職について信頼できる相談相手」では、「家族等」36%、「知人・先輩」29%、「教員」21%と続き、一方で、「相談相手はいない」の回答も前回とほぼ同様に5%あり、さらなる学生支援の充実が求められる。

「キャリア形成」においては、キャリア形成を目的に学外と関わりをもった項目として「ボランティア」、「インターンシップ」、「アルバイト」などが挙がっており、前回調査と同様、最も回答数が多いのは「インターンシップ」である。しかし、本学のキャリア支援室を利用したことがない学生が85%もいるのは問題であり、キャリア支援室の活用方法も含めた学生への周知やサポートが求められる。

学生生活支援室としては、今回の調査結果が徳島大学における今後の学生支援に適切に反映されるよう願っている。

あ と が き

この調査の目的は「今後の福利厚生などの改善および修学支援に関する基礎資料を得ること」です。昭和28年から約3割の学部学生を対象として調査が始まり、平成16年の第22回調査からは学部生全員を対象として調査が継続されてきました。今回の調査回収率は40.0%となり本学学部生の4割の皆さんにご協力いただき学生生活に関する詳細かつ貴重なデータを収集することができました。

昨今の時代の流れもあって紙媒体による調査が取り止めとなり、調査には大学の教務システムが利用されています。WEBのみによる調査回収の試みとしてはまずまずの回収率であったと考えています。大学のシステム以外にもLINEなどのSNSを利用した調査や情報提供などの新しい方法および調査協力の得やすい回答数と設問内容等の見直しにも真剣に取り組む必要があると思われれます。

新型コロナウイルス感染症が世界規模で大流行し、大学生の学生生活も激変しました。昨年度までは、感染症対策により対面授業が禁止になる期間もあり、感染症対策の整った講義室の確保ができずにオンライン授業のみとなってしまったクラスも少なくない状況でした。しかし、今年度からは対面授業が基本となりました。一方、社会環境の変化に伴い経済的支援を必要とする学生が増えてきている状況も気がかりです。WITH コロナの新しいライフスタイルが社会全体で確立し一刻も早く大学が本来の姿に戻れることを願っています。

最後に、本調査の実施にあたり貴重なデータを提供していただきました本学学生の皆さんにお礼を申し上げます。調査データを分析し報告書をまとめていただきました徳島大学総合教育センター学生支援部門学生生活支援室会議の委員および協力各位には、年度末の多忙な時期に示唆に富んだ分析結果を提供いただき感謝申し上げます。また、報告書作成を支えていただいています学生支援課の事務職員の皆さまにお礼申し上げます。本報告書が徳島大学での学生教育や学生支援および大学運営の改善のために反映され、さらに好ましい学生生活の環境整備に向けて有効に活用されれば幸いです。

令和6年3月

高等教育研究センター
キャリア支援部門学生支援班学生生活支援室長

佐藤 健二

